

寫眞

堀野正雄	現代寫眞藝術論	新編 四六判並製	190	五〇	天人社	月六	▲新しきカメラへの途、舞臺寫眞研究、寫眞小説、映畫、演劇と映畫の交流等五篇。
杉本榮三郎	寫眞術の實際知識	洋四六判布入	305	一、五〇	二松堂	月一十	▲寫眞術に就ての實際知識を説いたもので、寫眞のあらまし、レンズと絞の知識、シャッター、カメラの選び方其他。
鈴木八郎	整色寫眞のうつし方	洋四六判布	146	二、〇〇	アルス	月二	▲整色撮影の目的、整色撮影の基礎的知識、フィルムタールの選擇、購入時の注意と保存、整色撮影の失敗と障害外十三項。
南實	原板の手入	布四六判	264	一、五〇	アルス	月二	▲色々な原因で出来た不良原板を極めて簡単に方法で目的に適應するやう説いたもので、クローム補力法外卅二章。
鈴木八郎	寫眞處方集	洋四六判布	372	二、〇〇	アルス	月二	▲現像に關する項、現像液處方、製造會社指定處方、アグフア會社、旭日寫眞工業會社、エベム外廿二章。改訂増補版。
吉川速男	寫眞の自家現像	並四六判製入	144	一、〇〇	アルス	月十	▲小型活動寫眞の一般現象に就て、撮影と露出との關係、藥品の用意と調合、反轉現像採作の概念外六章。
佐和九郎	露出の秘訣	洋四六判布入	603	二、五〇	アルス	月十	▲寫眞術に於て最も重要な事であり且最も難しい露出の操作に就て説けるもので、撮影の準備、露出法其他。
吉川速男	双眼寫眞の第一歩	布四六判製入	162	一、五〇	古今書院	月二十	▲飛行機から地の凸凹を寫したり天體の觀測などをする場合に於てはならぬ寫眞術の雙眼寫眞に就て述べたもの。
竹山茂雄	寫眞術入門	並三五判製	119	一、〇〇	誠文堂	月二十	▲レンズの性質、絞、シャッターと感光の關係、初心者の寫眞機の選び方、現像外十五項にて解り易く述ぶ。

音樂史・音樂論・評傳

石田喜一郎	プロムオイル印畫法	洋四六判布入	179	一、八〇	アルス	月二十	▲プロムオイル印畫法の實際を説けるもので、原板、印畫、漂白、インキング、仕上げ、作例の六章。参考、印畫二〇、技法範例六。
日本寫眞會編	カメラグラフィクス	並四六判製入	100	三、五〇	日本寫眞會	月一十	▲第一回國際招待及第六回日本寫眞會展覽會優秀作品を収めたもの。
朝日新聞社編	第四回國際寫眞サロン	四六判判布	235	四、〇〇	朝日新聞社	月六	▲花のある静物(河村良助)其他二百二十六圖を収めた國際寫眞サロン集。記事第四回國際サロン經過。
朝日新聞社編	日本寫眞年鑑	四六判判並製	205	三、〇〇	朝日新聞社	月二十	▲過去一年間に於ける日本寫眞界の傑作を網羅したもので、江崎清氏の「肖像」以下百餘圖及び記事十七篇。
學藝協力委員會編	英文日本美術年鑑	四六判判布	274	六、〇〇	盟國協同會	月六	▲寫眞九十八葉、現代の作品と古美術の作品、本文百七十六頁、國法規則の改正、日本名寶展、醍醐寺展、洋風美術回顧展。
朝日新聞社編	日本美術年鑑	四六判判布	261	三、〇〇	朝日新聞社	月二十	▲五年度に開催された帝國美術展覽會以下主要美術展覧會出品作を網羅し美術界總覽其他の記事を収む。
橋宇坤	鑑賞藝苑人名辭典	洋三六判布入	718	二、三〇	紅玉堂	月五	▲注古より現代に至る一千三百數十年の永きに亘つた本邦書畫人名辭典。總畫索引。音訓索引。
セシルグレイ著 大田黒元雄譯	音樂藝術史	背四六判布入	355	二、八〇	第一書房	月四	▲グレゴイ聖歌、初期中世の和聲と多聲部音樂、十六世紀の多聲部的教會音樂、音樂美學の輪廓外十三章。

美術・音楽 (音楽史・音楽論・評傳)

田邊 尚雄	東洋音楽史	洋画菊布入判	350	二、五〇 一、三〇	雄山閣	月九	▲東洋音楽の源泉、印度支那朝鮮日本等の古代よりの音楽、其の影響、各国民音楽の確立其他を詳述。
セシルグレイ著 大田黒元雄譯	現代音楽概観	洋画菊布入判	310	二、五〇 一、八〇	第一書房	月一十	▲リヒアルトシュニトラウス以下十二大家に就て評論したもので、十九世紀の音楽以下十四章。
吉川 静雄	現代フランス音楽論	新四六判並製	190	五〇 四	天人社	月六	▲現代フランス音楽への招待、クロード・ド・ビュッシーの作品、ギヨーム・ルクリ紹介、ダリウス・ミロと雑音外十五篇。
服部 龍太郎	西洋音楽史と百大音楽家	四六判並製	268	一、三〇 六	春陽社	月一十	▲演奏會や著音器を通して日常親しめる範圍の年代を主とした西洋音楽史で、文藝復興とバツハ以前外十章。
ホワイトマン著 二村定一譯	全ジャズ音楽	洋画四六判布入判	345	二、〇〇 一、二〇	大衆公論社	月一十	▲ジャズ音楽の發展から今日その隆盛を見るに至る迄の發展過程を敘述せるもので、ジャズの發生外十四章。
鹽入 龜輔	ジャズ音楽の話	四六判並製	70	二〇 三	三省堂	月一十	▲世界を風靡してゐるジャズ音楽の簡單な解説書。
小松 清	西洋音楽通	四六判並製	218	七〇 六	四六書院	月四	▲音の性質、樂譜・樂典・音樂の形式、樂曲の種類、樂器、音樂上の諸時期の六篇にて説けるもの。
堀内 敬三	西洋音楽入門	三五判並製	118	一〇 二	誠文堂	月二十	▲音樂の由來、聲樂、器樂、歌劇、樂器、管絃樂、音樂のA、B、C、世界著名音樂家列傳等。
大田黒元雄著 大田黒元雄譯	今日の音楽家	洋画菊布入判	325	二、五〇 一、八〇	第一書房	月六	▲ベルリオオズ、ワアグナア、サアンス、ダンデイ、シュニトラウス、ウオルフ、佛蘭西音樂と獨逸音樂外評論四篇。
伊庭 孝	アルスマン	洋画四六判布	356	一、八〇 一〇	アルス	月二	▲奔放なる天才樂壇の巨人シュニトラウスの内面生活と其藝術を述べたもので、朝歌、高翔、愛欲と懊惱外二篇。

美術・音楽 (樂理・奏法)

小泉 洽	アルスマン	洋画四六判布	353	一、八〇 一〇	アルス	月二	▲「ピアノの詩人、ピアノの歌手、ピアノの靈」と稱されるショパンの一生外二篇。
服部能太郎著 キヤベール譯	シューワバアの歌	四六判並製	287	一、三〇 六	春陽堂	月一十	▲三十一歳を一期として維也納の埃の中に長逝した不滅の天才シューワバアの簡單な傳記と詳細な歌謡曲への手引を記せるもの。
近衛 秀麿	シーネベルグ日記	四六判布裝入	288	一、八〇 一、二〇	銀座書房	月十	▲シーネベルグ日記、歐洲樂壇の印象、フイルハーモニイ雜記、樂壇茶話、大指揮者の横顔外三篇。
中西武夫譯	ベートエング書簡集	四六判並製	471	一、八〇 八	啓明社	月五	▲ベートエングの人及び生涯を語るに最も重要なにして興味ある書簡を譯載せるもので、フランクツウエーゲラアへ外二百十三篇。索引。
高田博厚譯	偉大なる創造者 ベートエング	洋画菊布入判	300	三、〇〇 一、八〇	春秋社	月二十	▲人間性の深き理解者優れた音樂批評家なる天才音樂家を描いたもの。
黒澤隆朝編	對位法學	菊製判	96	七〇 四	敬文館	月五	▲對位法の概念を最も論的に把束し理解出来るやう説いたもので、對位法の意義、對位法の歴史外九章。
幾尾 景順純	旋律作曲法	洋画菊布入判	186	二、五〇 一、二〇	東洋圖書株式會社	月十	▲本質的の音、長音階法、和音線、短音階法、種々なるリズム、樂段形式、不規則リズム、例外的半終止法、旋律構成法外廿項。
リーマン著 小松才吉譯註	リーダーホルト	洋画菊布入判	206	二、八〇 一、八〇	木星社	月一十	▲フリーゴ・リーマンの世界的歌曲定本リダーホルトの原詩全部に詳細なる註釋を施せるもの。附録作曲家略傳其他。
小松耕輔	樂譜の見方	三五判並製	150	一〇 二	誠文堂	月二十	▲樂譜の由來、樂譜の性質、譜表、音名、音部記號、音符、休止符、小節、拍子、拍子の種類外五十三章。

田邊尚雄	日本音楽通	上製	四六判	170	七〇	四六書院	月五	▲多種多様な我が邦の音楽の各種に就て、その性質を明らかにし、其の成因を知らしめやうと試みたもの。
小寺融吉	をどり通	並製	四六判	148	七〇	四六書院	月四	▲をどりに關する必要な知識をわかりやすく説いた書で、所作舞臺をどりの味ひ方、各地の古いをどりを外十五項。
坪内士行	ダンス通	並製	四六判	113	七〇	四六書院	月四	▲西洋ダンスの大體に互つて概説したもの、ダンスと日本舞踊の比較、舞臺ダンス、社交ダンス外七項。
大田黒元雄	歌劇大観	洋布	四六判	802	二、〇〇	第一書房	月三	▲歌劇に關する一般的知識を説いたもので、歌劇の將來の四編。改訂増補版。五十番、歌劇の將來の四編。
宮田東峯	増補改訂 ハーモニカ奏法	洋布	四六判	149	一、三〇	講談社	月八	▲ハーモニカの上手な吹き方や早く上手になる法などを、詳細平易に知らせた書。
編輯部	ギター獨習教本	並製	菊倍判	45	一、五〇	シンフォニー出版	月五	▲練習曲目十餘曲を掲げ、ギターを最も解り易く説いた書。
鹽入龜輔	オカリナ獨習	並製	菊倍判	39	五〇	シンフォニー出版	月八	▲オカリナを最も解り易く解いた獨習書。
鹽入龜輔	初ピアノ獨習教本	並製	菊倍判	55	一、五〇	シンフォニー出版	月二	▲わかり易く初めてピアノを練習せられる方に適當なる獨習書にて練習曲等を掲ぐ。

忍頂寺務	清元研究	洋布	四六判	654	二、六〇	春陽堂	月五	▲清元註釋篇(再春松種時、玉兔月影勝外八篇)清元研究篇(延壽情話、雲助の作曲年代考、八潮の白無垢外十八篇)
中内蝶二	日本俗曲通	並製	四六判	167	七〇	四六書院	月一	▲主として江戸時代に發達して今日に及んだ日本の俗曲に就いて述べたもので、淨瑠璃、唄の二篇。
佐々紅華	三味線家庭教師	洋布	菊倍判	140	二、〇〇	出版	月二十	▲初心者にも判るやう三味線の全般に互つて説明せるもので、音の長さに就て、二上り調子外五章。
日本國民音楽教育聯盟	紅雲	並製	菊倍判	28	五〇	日本國民音楽教育聯盟	月一十	▲紅雲、秋の姿、逍遙、春の夜、秋風、落花月、森の社、盡きぬ愛、春を待つ等十篇の樂譜を収めたもの。
津曲喜一郎	愛林の歌	並製	菊倍判	18	五〇	體育聯盟會	月四	▲岡山氏平氏作曲津曲喜一郎氏振付の童謡遊戯、治山治水の大事業遂行の一助として森林愛護の思想涵養の爲に唱ふ。
編輯部	江藤氏愛唱歌集	並製	菊倍判	105	五〇	シンフォニー出版	月七	▲藤原氏愛歌と言ひし曲目三十曲を集めたもので其の内に山田耕作曲目三、四曲挿入。
編輯部	新作童謡曲集	並製	菊倍判	25	五〇	シンフォニー出版	月八	▲作曲家十四名氏により作歌も数名の先生に作られ、幼稚園より四年級迄一冊につき十曲をふくみ、幼稚園小學初年級に適當した童謡資料
林柳波作歌	可愛い童謡曲集	上製	菊倍判	96	一、五〇	シンフォニー出版	月三	▲童謡五十篇を藤井清水、草川信、宮原彌次、長妻完至、深山圭、河村直則の諸氏が作曲したもの。幼稚園及小學初級用。
林柳波作歌	可愛い舞踊集	並製	菊倍判	25	六〇	シンフォニー出版	月六	▲童謡舞踊の教授書フィルム式寫眞による可愛舞踊集。振付は林きむ子女史。

音楽年鑑・辭典

小松 貞輔 葛原 貞 梁田 貞	文部省 認定 小學歌曲選集	四六判 洋紙 100	一、三〇 二、三〇	目黒書店	三月	▲大正幼年唱歌同少年唱歌の中より文部省が特に認定せる歌曲三十九を抜粋したもの。
ジエームス・ダン	ピアノノ小曲集	菊倍判 並製 40	一、〇〇 八	シンフォニー 楽譜出版社	二月	▲ジエームス・ダン先生編の曲目二十五曲を収む。
無産社編輯部編	プロレタリア歌曲集	四六判 並製 68	三〇 四	無産社	六月	▲プロレタリアの歌とその符と文句を集成したもので、メーデー歌、××歌、組合歌、其 他を収む。
樂報社編	音樂舞踊年鑑 <small>昭和六年版</small>	四六判 洋紙 249	一、〇〇 二	交誼社	十一月	▲演奏會日誌、樂壇時事、舞踊と其の關係名士録、邦樂界名流氏名、音樂重寶録、音樂團體一覽其他。附録自由日記。
共益商社編輯部編	詳解樂話辭典	三六判 洋紙 499	二、五〇 八	共益商社	十一月	▲初學者並に一般好樂者の參考として編んだ樂話辭典。附録音符、奏法記號及休止符の略法其他。

七、歴史・傳記

史學一般

著者	書名	形態	頁數	定價	發行所	月行發	內容大意
廣島史學研究會編	史學研究 第一卷第三號	菊製判	164	七〇 六	中文館	一月	▲毛利隆元の領外とその墳墓(瀬川秀雄)獨逸の海權とビスマルク(時野谷常三郎)讀史偶筆(栗田元次)外四章。
廣島史學研究會編	史學研究 第一卷第二號	菊製判	167	七〇 八	中文館	四月	▲新井白石の一書翰とその解説(村岡典嗣)米國史の研究について(新見吉治)讀史偶筆(栗田元次)外二篇。
廣島史學研究會編	史學研究 第二卷第一號	菊製判	159	七〇 八	中文館	七月	▲日本建國の精神―白鳥庫吉、室町時代に於ける食饌慣習の推移―櫻井秀、彼理日本來航の使命に就きて―有吉正勝外四篇及彙報。
廣島史學研究會編	史學研究 第二卷第二號	菊製判	167	七〇 八	中文館	十月	▲近世佛敎衰微の由來(辻善之助)シュール・ハンマ―師を訪ふ(幸田成友)起請文の起源と其本質(牧從二)外四篇。
内藤博士頌壽 記念會編纂	史學論叢	四六判 洋紙 800	八、五〇 四五	弘文堂書房	六月	▲單に支那史學に關するものに止らず汎く内 外の史學に涉れるもので、執筆者は各専門大 家三十三氏。	
小川博士 還曆記念會編士	史學地理學論叢	四六判 洋紙 1100	一〇、〇〇 四五	弘文堂書房	十月	▲小川博士還曆論文集の内文科的方面、史學、 地理學の廣範圍に涉る、論文、二十六篇を輯 む。	

歴史・傳記 (考古學・人類學)

考古學・人類學

日佛會館編 佛蘭西科學 下卷分冊1	德富猪一郎 歷史の興味	大野延太郎 考古學大觀	濱田青陵 東亞文明の黎明	東京帝國大學人類學部 八幡一郎 土器石器	中谷治宇二郎 日本石器時代文獻目錄	京都帝國大學 文部省編 樂浪	東京帝國大學 文部省編 樂浪	後藤朝太郎 文字の史的研究
並製 四六判	並製 四六判	洋函四六判 布入判	洋函四六判 布入判	布函四六判 裝入判	洋函四六判 布入判	洋函四六判 布入判	洋函四六判 布入判	並製 菊倍判
233	364	80	103	226	449	64	154	123
二、三〇	一、〇〇	五、〇〇	二、〇〇	一、八〇	一、〇〇	八、〇〇	三、五〇	二、〇〇
岡書院	民友社	春陽堂	刀江書院	古今書院	岡書院	刀江書院	刀江書院	雄山閣
月十	月二	月五	月二	月九	月十	月九	月一十	三月
▲岡島誠太郎、古典考古學—演 田耕作、山口隆一、史學—大類伸、美術史— 關伊能外二章、 ▲歷史の興味、蘇峰雜誌、五山板に就て、玄 名三歳の上表記に就て、水戸義公に就て、無 の英雄其他四篇	▲日本本州地方に於ける遺物を先史時代及び 原史時代に區別し其の種別を選びて着色圖版 として解説を加へて論及す。 ▲東亞の舊石器時代、支那の舊石器時代と其 人類問題、彩繪土器と西方文化との關係外九 章、附録日本文明の黎明。 ▲貝塚、信濃國諏訪郡本郷村の一遺跡、安房 國安房郡神戶村の古人骨埋沒地、姥山貝塚發 見の彩文土器外廿二章。 ▲奈良朝以後昭和三年度末迄に記載された本 邦石器時代關係の文獻目錄を收めたもの。附 録、岡田貞彦氏の福岡縣筑紫郡須玖に於ける喪 棺遺跡の發掘調査の結果を録せるもの。圖版 三〇圖、挿圖三十九圖。 ▲大正十四年東京帝國大學部に依つて發掘調 査された朝鮮平壤府外に於ける漢の樂浪郡時 代の一墳墓に關する研究報告。圖版一六八。 ▲文字の社會的生命、支那文字の發達と埃及、 アッシリヤ・パピロニア等の文字との比較、 各時代の龜甲獸骨金石鐘鼎文等を論及。							

神話學・言語學

歴史・傳記 (神話學・言語學)

飯島忠夫 支那曆法起原考	辰上巳利文郎 萬葉染色考	原田淑人 考古圖編	文部省編 史蹟調查報告	西村眞次 人類協同史	西村眞次 文化移動論	野村了本譯 先靈觀	比屋根安定 埃及宗教文化史	石川三四郎譯 地人論
洋函菊倍判 布入判	布函四六判 裝入判	上信四六判 製判六	布判四六判 裝入判	布函菊倍判 裝入判	上函菊倍判 製入判	並函四六判 製入判	洋函菊倍判 布入判	洋函菊倍判 布入判
608	211	30	48	225	348	197	299	334
六、五〇	二、〇〇	二、五〇	二、五〇	二、〇〇	二、八〇	一、五〇	二、五〇	二、五〇
岡書院	古今書院	美術工藝會	刀江書院	春秋社	ロゴス書院	岡書院	春秋社	春秋社
月一	月十	月九	月八	月三	月二十	月四	月二	月六
▲支那に於ける天文曆法の起原を闡明せるも の。支那古代曆法概論、支那曆法の起原に 關する傳説外十六章。 ▲萬葉集を主として上代染色を材料と技術と の實際より精細に論及せるもので、萬葉集に 現れたる衣服の色彩外八篇。 ▲著者原田先生が實地踏査蒐集編纂したるも の。 ▲昭和四年指定の史蹟中千葉縣愛知縣山梨 縣岐阜縣岡山縣及び山口縣に於ける拾ヶ所の 調査報告を收む。圖版卅四。 ▲人類進化の過程を具體的に記述せるもので 最初の文化、近親結婚、宴會と饌饈の交替、 奴隸の發生外五十六章。附録三篇。 ▲文化獨立説を覆へし文化單元説を文化の各 般に亘つて綜合的に實證せるもので、文化概 論外六章。別冊索引。 ▲ブレアニミズム序説、ブレアニミズムの宗 教、呪文より祈禱へ、宗教の最小限度の定義 としてダブリ・マナの公式外一篇。 ▲十篇四十三章に分ち古代埃及の人文地誌、 文化及び宗教の歴史、神話論、祭儀制 度其他を檢討せる綜合的文化史。 ▲諸時代變遷上に於ける人の研究で、人類の 起原、地的環境論、勞働論外三章。附エリゼ ルクリエ小傳外一篇。								

歴史・傳記 (民俗學・郷土研究)

城戸 輔太郎	孫 晋 泰 編	新 村 出	柳 田 國 男	東 條 操 編	山 口 麻 太 郎	三 矢 重 松	宮 良 長 包 探 詠 註	宮 良 當 壯 解 説	松 岡 靜 雄
古代日本人の世界観	朝鮮神歌遺篇	東亞語原誌	蝸牛考	南島方言資料	壹岐島方言集	莊内語及語釋	八重山古詠	バラウ語の研究	
上四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	背函菊布入判	背函菊布入判	背函菊布入判	背函菊布入判	洋四六判	洋四六判
298	223	391	178	212	198	138	276	363	
一、八〇	二、〇〇	三、五〇	一、八〇	二、三〇	一、八〇	一、五〇	一、八〇	三、〇〇	
岩波書店	郷土研究社	岡書院	刀江書院	刀江書院	刀江書院	刀江書院	郷土研究社	郷土研究社	郷土研究社
月二	月一十	月一十	月七	月七	月七	月七	月四	月四	月四
▲古事記を通じて古語に表現されてゐる古代日本人の世界観を説いたもので、民語の表現と神話の解釋外六章。	▲成鏡南道成興郡の大巫金雙石伊、平安南道新禱詞とを収めたもの。	▲語源語史に就ての考證、論述、隨筆等を収めたもので、南北に系統を引く日本語、世界言語志の古版本外廿五篇及附録、索引。	▲デンデンムシの領域、二種の蝸牛の唄、都府生活と言語外七章及索引より成る蝸牛の方言研究。附録蝸牛異稱分布圖。	▲語彙の部、文例の部及び附録として、中山傳信録音韻字海華夷譯語琉語對照、海東諸國紀附録音韻譯外一篇を収む。	▲壹岐の標準的方言をアイウエオ順に網羅し語釋を附したるもの。	▲莊内語及語釋(三矢重松)の外に氏家剛太夫の「莊内方言攷」と堀季雄の「濱菰」を収む。	▲八重山古詠を採録し譯歌し譜を収めたもの。十四章。	▲我が新領土ミクロネシア羣島中最西南に位置するバラウの言語研究で、音、語構成、語文等四章。附録他動詞表、語彙。	

民俗學・郷土研究

歴史・傳記 (民俗學・郷土研究)

今 泉 忠 義 譯 著	中 山 太 郎	中 山 太 郎	中 山 太 郎	中 山 太 郎	中 山 太 郎	中 山 太 郎	中 山 太 郎	折 口 信 夫	栗 田 寛 著	後 藤 藏 四 郎 補 註	東 北 放 送 協 會 編
民俗學の話	日本民俗學	日本民俗學	日本民俗學	日本巫女史	日本若者史	日本の民族	古代研究	標註古風土記			東北の土俗
洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	布四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	背函菊布入判	背函菊布入判	洋四六判	洋四六判
327	428	430	457	743	242	467	729	219	288		
一、八〇	三、三〇	三、三〇	三、三〇	七、五〇	一、五〇	三、〇〇	六、五〇	二、三〇	一、〇〇		
大岡山書店	大岡山書店	大岡山書店	大岡山書店	大岡山書店	春陽堂	戸上家	大岡山書店	大岡山書店	三元社		
月一十	月九	月九	月十	月三	月七	月六	月六	月二	月六		
▲たましひ、生れがはり、古代の神々、つきがみ、一寸法師、出産と結婚と外四篇。附録要項索引其他。	▲風俗に交渉あるものを収めたもので、蟹守に扮する舞踊外十一篇。	▲神々の考證を主としたものを収めたもので、雷神研究、さんばい考、穂落し神、井神考、地主神考外十一篇。	▲魏志倭人傳の民俗學的考察、日置部異考、日本邦に於ける高媒信仰、及び神異考、日本史の於ける一節外九章。	▲巫女の發生及び種類名稱等より明治時代の巫女禁斷に至る迄の研究で、固有呪法時代外二篇外三篇。	▲我國固有の青年團ともいふべき若者連の研究とその起原、入退の年齢とその作法、若者連とその功罪外十一項。	▲我日本民族の系統、發祥地其他に就いて論述せるもので、日本民族發祥の地は何れにあるか外十一項。	▲鬼の話、まじなひの一方面、稻むらの産に於て、たなばたと盆祭りと、偶人信仰の民族化並びに傳説化せる道外廿四篇。總索引。	▲天保年間に西野宣明が訂正刊行した舊印本により之に後藤氏苦心の補註を加へ意義を明らかにしたるもの。	▲佐々木喜善氏の「屋内の神の話」以下柳田國男中山太郎折口信夫金田一京助中村善之助外六氏放送の土俗講義廿篇。		

歴史・傳記 (有職故實・日本史)

太田亮	家系系圖の合理的研究法	布函菊 裝入判	355	二、五〇 一八	立命館大學出版部	月六	▲家系調査に關する一般的研究法を論述せるもので、親族の調査、過去帳を中心とする文献の調査外九章。
植木直一郎	御成敗式目研究	洋函菊 布入判	619	五、〇〇 一八	岩波書店	月六	▲武家法制の基本法典である御成敗式目の研究で、御成敗式目の制定、御成敗式目の實施の十六、七世紀日本に於ける羅馬舊教布教史の文獻の索引を帝國學士院記事別冊として編纂せるもの。
姉崎正治	A concordance to the History of Kirishitan Missions	上倍四 裝判六	225	三、五〇 一六	ヘラルド社	月九	
江馬務	新修有職故實	布函菊 裝入判	348	四、五〇 一八	京都 星野書店	月六	▲官職位階、容儀服飾、甲冑武器、住居調度交通機關、典禮儀事、娛樂武技外一篇にて論述せるもの。索引。
伊藤祐忠	有職故實概説	洋函四六判 布入判	341	二、〇〇 二二	大同館	月十	▲有職故實に關する一般的智識を體系的に敘述せるもので、皇統、祭祀、朝儀、皇居、官職外二章。附索引。
江馬務	風俗史的解説附其誤謬	並菊 裝判	74	四、〇〇 四	文獻書院	月六	▲國定教科書中尋常小學國語讀本に載せられたもの。風俗に關する挿畫を解説し誤謬を指摘した。
津田左右吉	日本上代史研究	洋函菊 布入判	698	五、〇〇 二四	岩波書店	月四	▲日本上代史の研究で、應神朝以後の記紀の三篇より成る。
三浦周行	日本史の研究 第二輯	背函菊 革入判	1409	九、五〇 三〇	岩波書店	月四	▲皇室、文化批判、人物批判、對外關係、都市及び港灣、史料研究の六篇にて日本史に就ての研究を収めたもの。
西村眞次	日本文化史概論	布函菊 裝入判	548	三、五〇 一八	東京堂	月六	▲内容を二篇に大別し、總論に於て環境、宗教、技術、經濟を論述す。
清原貞雄	日本文化史年表	洋函菊 布入判	530	四、五〇 一八	中文館	月一	▲日本文化史全體に亘る詳細なる年表で、項目を分つて別記し、事柄毎に別行にして收められている。
栗田元次	解説 日本文化史	背函菊 革入判	591	五、〇〇 二四	明治圖書株式會社	月七	▲國民國家の成立、大陸文化の移入、鎌倉時代の學問及び藝術、明治時代の初期の思想及び宗教外廿一章にて詳述。
田中啓爾	史料の日本歴史	洋函菊 布入判	580	四、〇〇 一八	目黒書店	月四	▲さきに「原典も分り趣味もある日本の歴史」と題して刊行せるもので、天孫降臨より韓國の併合迄を收む。
坂井衡平	日本國民性の史的的研究	布函四六判 裝入判	479	三、〇〇 一三	文書堂	月十	▲國文學の攻究に従事する者にとつて、國家及國民性の研究で、日本國民性史論、國家及び國民性外一篇。
重原慶信	國史概論	洋菊 布判	271	二、五〇 一三	白林社	月五	▲著者が過去十年間松本高等學校教授として講義したノートを整理したもので簡明平易を旨とした。
高橋俊乘	増訂 國民日本歴史	洋四六判 布判	731	三、二〇 二七	富山房	月五	▲清新なる口語文を以て、日本歴史を叙述せるもの。
大類仲	國史研究法	洋函菊 布入判	340	二、五〇 一三	雄山閣	月三	▲史的発展の觀念より文獻的方法と考古學的方法と補助學科との關係等詳述。
澁賀貞	國史綜合年表	洋函菊 布入判	254	二、五〇 一三	雄山閣	月四	▲政治的事項、文化的事項、渉外的事項に三紀等の年代を分割詳述した日本文化史年表。
高森金五郎	最新日本歴史年表	洋函三六判 布入判	709	三、八〇 一八	三省堂	月三	▲最新最密の日本歴史年表で政治史と社會史との完全な鳥瞰圖である。

歴史・傳記 (日本史)

西村眞次	日本文化史概論	布函菊 裝入判	548	三、五〇 一八	東京堂	月六	▲内容を二篇に大別し、總論に於て環境、宗教、技術、經濟を論述す。
清原貞雄	日本文化史年表	洋函菊 布入判	530	四、五〇 一八	中文館	月一	▲日本文化史全體に亘る詳細なる年表で、項目を分つて別記し、事柄毎に別行にして收められている。
栗田元次	解説 日本文化史	背函菊 革入判	591	五、〇〇 二四	明治圖書株式會社	月七	▲國民國家の成立、大陸文化の移入、鎌倉時代の學問及び藝術、明治時代の初期の思想及び宗教外廿一章にて詳述。
田中啓爾	史料の日本歴史	洋函菊 布入判	580	四、〇〇 一八	目黒書店	月四	▲さきに「原典も分り趣味もある日本の歴史」と題して刊行せるもので、天孫降臨より韓國の併合迄を收む。
坂井衡平	日本國民性の史的的研究	布函四六判 裝入判	479	三、〇〇 一三	文書堂	月十	▲國文學の攻究に従事する者にとつて、國家及國民性の研究で、日本國民性史論、國家及び國民性外一篇。
重原慶信	國史概論	洋菊 布判	271	二、五〇 一三	白林社	月五	▲著者が過去十年間松本高等學校教授として講義したノートを整理したもので簡明平易を旨とした。
高橋俊乘	増訂 國民日本歴史	洋四六判 布判	731	三、二〇 二七	富山房	月五	▲清新なる口語文を以て、日本歴史を叙述せるもの。
大類仲	國史研究法	洋函菊 布入判	340	二、五〇 一三	雄山閣	月三	▲史的発展の觀念より文獻的方法と考古學的方法と補助學科との關係等詳述。
澁賀貞	國史綜合年表	洋函菊 布入判	254	二、五〇 一三	雄山閣	月四	▲政治的事項、文化的事項、渉外的事項に三紀等の年代を分割詳述した日本文化史年表。
高森金五郎	最新日本歴史年表	洋函三六判 布入判	709	三、八〇 一八	三省堂	月三	▲最新最密の日本歴史年表で政治史と社會史との完全な鳥瞰圖である。

中山久四郎	支那史籍上の日本史	洋函菊 布入判	300	二、五〇 二二	雄山閣	月十	▲支那の史籍其他の圖書に見えたる日本史實に關するもの、現代民國學者の最新の著述研究の日本史實に關するもの等。
三輪義熙	神皇記	背函菊 革入判	612	五、〇〇 二七	岡村書店	月五	▲我神代天神祇五代の後神武天皇の前に史上に傳はらざる神皇五十一代二千七百年の御事蹟を富士古文書により發見せる研究録。御
辻善之助	増海外交通史話	洋函菊 布入判	816	六、八〇 二四	内外會社	月七	▲日本文明の特質、上代の日支交通、遺唐使の氣運外世五章。増訂版。西洋交通と開國
田保橋潔	近代外國關係史	洋函菊 布入判	720	六、二〇 二四	刀江書院	月九	▲十八世紀以降十九世紀中期に至る間の鎖國令を廢して、歐人に國土を開始せる事實を述べたもの、ロシアの極東進出外十九章。
日笠護	日鮮關係の史的考察と其の研究	洋函菊 布入判	250	二、〇〇 一八	四海書房	月七	▲神功皇后以前に於ける日鮮關係、明治維新以後に於ける日鮮關係、併合の大精神と内鮮融和の要諦外十一章。
姉崎正治	切支丹傳道の興廢	布函菊 裝入判	820	六、五〇 二四	同文館	月七	▲キリシタン傳道の開始と成長、傳道の興隆の參加外三期に分けて論述。
姉崎正治	切支丹迫害史中の人物事蹟	布函菊 裝入判	584	四、八〇 一八	同文館	月二十	▲切支丹迫害期の人物と事蹟とに就て論述せるもので、ゼスス會の人物、ドミニコ會説教團の傳道と人物外四篇。
川村恒喜	史蹟切支丹屋敷研究	背函四六 洋布入判	149	一、〇〇 二二	郷土研究社	月一十	▲沿革篇(切支丹屋敷の名義外五項)遺蹟篇(非戸外五項)外篇(十字碑外四項)等より成る切支丹屋敷の研究、附録七篇。
吉田小五郎譯	切支丹大名記	洋函菊 布入判	448	四、五〇 一八	大岡山書店	月十	▲所謂切支丹大名數十名を拉し來つて切支丹史の経緯を敘しその間これ等の大名を圍る幾多の武士其他に就て述べたもの。
長沼賢海	室町時代史	洋函菊 布入判	349	二、五〇 二二	雄山閣	月二	▲室町時代隆盛期義滿義隆等の政治、對外政策に及ぶ戦國期に於ける下克上の大勢動き、耶蘇教の傳來と信長の政策に論及す。

武陽隱士著 本庄榮治郎校訂	世事見聞録	菊半截 布裝	325	四〇 八	改造社	月二十	▲文化時代の世事に關する見聞を輯録評論せる當時の世態を知るに恰好な資料で、武士の事以下七卷より成る。
杉田玄白手記 野上豊一郎校註	蘭學事始	菊半截 並製	102	二〇 二	岩波書店	月七	▲我國最初の洋學者の一人なる杉田玄白翁が「蘭語新書」翻譯の苦心を述べその當時の蘭學興隆の機運を語つたもの。
山川浩	京都守護職始末	洋函菊 布入判	277	三、五〇 一八	郷土研究社	月六	▲文久二年より慶應四年正月に至る迄の京都守護職中の事蹟を録せる山川男の遺稿で、源忠誠公略年譜、生麥の變外六十三篇。
箱根神社々務所編	箱根神社大系	洋函菊 布入判	540	五、〇〇 二四	箱根神社	月二十	▲箱根神社概説、史料編、寶物編、論叢編の四編に分けて國幣小社箱根神社に關する文献を蒐集せるもの。
辻善之助	本願寺論	並四六判 製	126	一、〇〇 六	株式會社	月一十	▲歴史上より觀たる本願寺に就て論述せるもので、本願寺の起り、國家主義の發達より觀て外十篇。
及川儀右衛門	皇室と文化	洋函菊 布入判	477	三、八〇 一八	中文館	月一十	▲皇室が我が國文化の發達の上に如何なる關係と交渉を有し又わが文化が皇室を中心如何に結合し統一せられたかを究明す。
德富猪一郎	日露英蘭條約締結篇	並四六判 製入判	603	二、五〇 二二	民友社	月四	▲筒井川路と幕府當局との對露根本策評定、日露問題外十三章。下田談判の續行、露人の歸國問題外十三章。上製五回。
德富猪一郎	孝明天皇初期世相篇	並四六判 製入判	539	二、五〇 二二	民友社	月八	▲幕末期に續出したる悪弊、世襲の弊害調節運動の種々、封建制壞崩の機運、學校の興隆外十二章。上製五回。
德富猪一郎	公武合體篇	並四六判 製入判	523	二、五〇 二二	民友社	月一十	▲公武合體の趨勢、阿部正弘の政治家的本質となる外十三章。上製五回。
井野邊茂雄	幕末史概説	洋函菊 布入判	769	五、八〇 二四	中文館	月四	▲錯綜紛亂極み無き幕末の歴史を凡ゆる方面の史料を解剖して明快に詳述せるもので、開國外九章。附録維新の成果。

尾佐竹 猛	服部之總	黒龍會編	黒龍會編	高橋重治	松井 等	白鳥 清編	濱本鶴賓	箭内互
國際法よ り觀たる 幕末外交物語	明治維新史 唯物史觀的研究	日韓合併秘史 上卷	日韓合併秘史 下卷	帝都復興史	東洋史概説	東洋史概説	支那後宮秘史	蒙古史研究
布面四六判 裝入判	布面新菊 裝入判	洋面菊 布入判	洋面菊 布入判	菊 總判天	洋面菊 布入判	洋面菊 布入判	上四六 判入判	洋面菊 布入判
580	237	694	778	32.00	357	258	532	1186
二、八〇 一、二〇	一、二〇 一、二〇	一、二、五〇 二、四	一、二、五〇 二、四	三〇、〇〇 二、四	二、八〇 一、八	二、三〇 一、八	二、七〇 二、二	八、〇〇 三〇
邦光堂	大鳳閣	出版龍部會	出版龍部會	查復協興會調	共立社	白林社	春陽堂	刀江書院
月三	月四	月二十	月二十	月五	月四	月五	月三	月十
▲幕末當時の複雑なる外交關係に就き其の真相を明らかにせるもので、國際法の研究外六章、附録及増補七篇。 普及版	▲世界市場の形成過程と明治維新、幕府封建外國家とその下における諸對立。王政復古まで三章。附録絕對主義論。	▲韓國併合運動の顛末を叙した大著で、上卷は、一進會と韓皇廢立問題外八章、附録黒龍會創立三十年事歴。	▲下卷は伊藤統監掉尾の計畫、會統統監の就任と内田等の活動三派提攜問題の波瀾曲折外七章を收む。日韓合邦回想録(内田良平)	▲總論(堀切前市長)大震災と東京、帝都復興計畫の經過、復興豫算、土地區劃整理、街路橋梁河川運河事業等全十七編。 全三册	▲古代(支那民族の發展外五章)中世(西域の佛敎文化外九章)近世(歐洲人の東洋交通外十五章)等にて論述。	▲東洋の複雑なる民族關係文化の交流等を綜合して要約概説せるもので、支那の上代、印度の古代外十二章、附録六。	▲神話時代より清朝滅亡に至るまでの歴史の後宮制度及び秘事を敘述せるもので、母を知つて父を知らず以下百五十餘項。	▲故箭内博士の元史研究に關する諸篇を纂輯せるもので本論元良哈三衛名稱考外十九篇及附録、外篇より成る。

小谷部全一郎	矢野仁一	武田豊四郎	淺野利三郎	坪井九馬三	齋藤斐章	ボッフオード著 九州帝國大學 文部司官 竹熊彦彦譯	植村清之助	坂口昂
増補成吉思汗は源義經也	近代西藏史研究	古代印度の文化	西洋史觀	西洋史概説	西洋國民史 上卷	西洋古代史概説	西洋中世史の研究	ルネッサンス史概説
布面四六判 裝入判	洋面菊 布入判	洋面菊 布入判	洋面菊 布入判	洋面菊 布入判	洋面菊 布入判	洋面四六 判入判	洋面菊 布入判	布面菊 裝入判
408	231	278	427	3・8	722	636	400	242
二、八〇 一、三	二、五〇 二、三	二、五〇 二、三	三、七〇 一、八	三、七〇 一、八	五、八〇 一、八	三、五〇 一、八	三、八〇 一、八	三、〇〇 一、八
厚生閣	雄山閣	雄山閣	白林社	白林社	目黒書店	改造社	星野書店	岩波書店
月一十	月十	月七	月五	月五	月六	月九	月六	月四
▲上下二卷を合本して増補改版せるもので、義經高館に死せず、成吉思汗の遺蹟と義經、義經對成吉思汗外九章。	▲矢野氏の西藏史、石田氏の中央亞細亞、内藤氏の西南亞細亞、加藤氏の宋代の戸口等の諸論文を收む。	▲古代文化史上に於ける印度人文化地理文化史の區分と實相學藝の發達四種の吠陀六種の吠陀分五種の見等詳論。	▲獨自の歴史哲學に立脚して、從來の西洋史記述法に革新を企てたもの。	▲古代(ベルシャ外十三章)中世(ゲルマニの遷徙外十章)近世(オランダの獨立外九章)最近世(ウィーン會議外十一章)附原語表。	▲西洋諸國民の進歩發展の徑路より其の創造せる精神文化物質文化の向上發展を闡明せるもので上卷は上・中古史より成る。	▲西洋古代史の研究で、東方諸國民(埃及外四章)、(ラス)國土と民族外廿一章)、(ローマ)ローマの王政外十八章。	▲ゲルマニ諸族をあげて中世初期に於ける國家的社會的變遷を説き、更に「ギルドの起原」他五篇の研究をも公にせり。	▲汎く國家社會の諸事象と關聯せしめてルネッサンス時代を論述せるもので、千三百年代のルネッサンス外五章。

史 實 ・ 史 談

菅原憲校訂	中等文科學會編	林 與 市	三省堂編輯所編	三省堂編輯所編
西洋史講義	本位西洋歴史の要點	受驗 西洋史要領	分り易く 西洋歴史の研究	受驗本位の西洋歴史
並 四六判	洋 四六判	洋 三六判	洋 三六判	洋 四六判
100	306	198	227	440
三五	一五〇	三六	六〇	一三〇
日協本會學	光世館	正文館	三省堂	三省堂
月二十	月一	月八	月三	月二十
▲東方五國とペルシヤ、希臘とマケドニヤ、東羅馬帝國と西羅馬帝國、野蠻民族の移動、フランク帝國と列強の建國其他。	▲圖形地圖年表表解等に由り目に訴へて觀察し理解せしめる編纂法をとつた歴史參考書。	▲最近の入試問題に現はれた重要問題に詳細な解答を施したる受驗參考書。	▲學生の參考用として各方面から指導した西洋歴史の研究書。	▲受驗本位に編輯した西洋歴史の學生用參考書。
皆川美彦	元祿榮華覺書	三田村鳶魚	三田村鳶魚	三田村鳶魚
御殿女中	見横から赤穂義士	御殿女中	見横から赤穂義士	御殿女中
並 四六判	布函菊裝入判	並 四六判	並 四六判	布函四六裝入判
112	407	358	250	
二五	五〇〇	一五〇	一八〇	
紅玉堂	春陽堂	民友社	東山書院	
月五	月六	月六	月二	
▲元祿榮華覺書、江戸私娼變遷録、元祿時代の女性等三篇を収む。	▲德川大奥の御殿女中に就て詳述したもので條々々々御殿女中の研究、御殿女中の髪飾服装、副書。	▲四十六人偶像化、當世風な殿様、粹を通ず赤穂義士を横から描いたもの。	▲連光寺行幸の委曲を悉し明治天皇の御聖徳を記述したてまつつたもので、聖上御杖、大御狩の思召外十六篇。	▲伊弉諾、伊弉册の二神に筆を起し、神代より昭和までの愛戀の種々相を取扱つたもので古代、奈良朝時代外四篇。

山田愛劍	山田愛劍	大藤井	佐藤進一	白柳秀湖	田中萬逸	白柳秀湖	子母澤寛	子母澤寛	佐藤太平
幕末暗殺時代	幕末黒船時代	英米佛蘭幕末海戦記	不老不死仙人列傳	親分俠客編	明治偉人百話	親分浪人編	游俠奇談	幕末巷談	日本民族戀愛史
布函四六裝入判	布函四六裝入判	上 四六判	上 四六判	並 四六判	洋函四六布入判	並 四六判	布函四六裝入判	上 四六判	布函四六裝入判
734	710	414	474	437	342	420	326	343	598
一五〇	一五〇	一五〇	二、三〇	一、五〇	一、三〇	一、五〇	一、六〇	二、五〇	二、六〇
岡村書店	岡村書店	平凡社	萬里閣	千倉書房	平凡社	千倉書房	民友社	鹽川書房	萬里閣
月七	月四	月六	月四	月二	月一	月四	月十	二月	月三
▲幕末時局關係の殺傷事件は米國領事ハリス通して六十件の多きに達しみる凄絶なる快著	▲幕末史に先づ聞く者の血を湧き立たせる外船渡來の初から井伊大老の安政開國に至るまでの史實を品よく平易に書いた大衆的讀物	▲英米佛蘭四國聯合艦隊と戦つた馬關攘夷戦に就て記述した佛國海軍大主計ルサンの著を譯したもの。	▲支那の仙人と日本の隱遁者との列傳を記載せるもので、玉子と太陽子、李白、久米の仙人、石川丈山外一〇一篇。	▲町奴、町火消、旦那男達、貸元及び義賊の四種の俠客を時代順に排列し其發生の原因と存在の理由を説明す。改訂版。	▲興味ある偉人の語を蒐集せるもので、大西郷、坂下門外、喜劇、森有禮、甘煮を知らず、奈良原繁、赤鬼の剛勇外九十七篇。	▲關ヶ原戰役後諸浪人の巻、廢藩置縣後諸浪人の社會状態を述べ改訂版。	▲飯岡の助五郎、笹川の繁藏、佐原の喜三郎、國定忠治、相模屋政五郎、清水の次郎長の六俠客に就いて述べたもの。	▲小笠原重頼守と忠僕、佐原喜三郎御牢内の河屋幸三郎外一篇。	▲伊弉諾、伊弉册の二神に筆を起し、神代より昭和までの愛戀の種々相を取扱つたもので古代、奈良朝時代外四篇。

大佛次郎	高田義一郎	平尾道雄	流泉小史	流泉小史	堀江秀雄	村松春水	本田一郎	水野廣徳	佐藤鋼次郎	
新世界の(2) ドレフユス事件	聖代暗殺事件	維新暗殺秘録	史外劍豪秘話	史外劍豪秘話	詩に維新登場者	實唐人お吉	仕立屋銀次	戦影	日露戦旅順攻圍秘話	
洋判新四六布入六	上四六判	並四六判	上四六判	並四六判	洋四六判	上四六判	上四六判	布四六判	上四六判	
260	378	405	354	427	418	380	257	408	327	
一、三〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	二、〇〇	一、五〇	二、八〇	一、五〇	
天人社	萬里閣	民友社	平凡社	中西書房	萬里閣	平凡社	鹽川書房	改造社	指軍針事社	
月十	月十	月五	月四	月十	月九	月四	月三	月三	月九	
▲近代フランス史上に於ける最大疑獄事件としての全歐洲を騒がせた有名なドレフユス事件の真相を描けるもの。	▲明治局長外八篇、昭和篇、山本宣治外三篇、海外篇、ウイイルソン元帥外十四篇。	▲前後の事情の比較的判然として興味あるものを選んだ維新暗殺史實で、奥羽鎮撫使參謀世良修蔵外廿九篇。	▲近藤勇、芹澤鴨、近藤勇拾遺篇、清川八郎小栗上野介、幕末兩劍豪秘話六篇を収めたもの。	▲劍聖男谷下總、島田虎之助、松浦常靜子、高柳又四郎等幕末の劍豪物語及び老武者漫談記、巻外剩筆を収む。	▲明治新天地の大旋風、大旋風の中に奔騰した男性活動者に就て述ぶ。	▲當時の活動者に就て述ぶ。	▲隠れたる日本開國の功勞者お吉の事蹟を多年調査して居らるゝ村松老が不佞なりしお吉の生涯を述べたもの。	▲有名な掏摸の大親分仕立屋銀次の機軸語で全盛時代と視分、掏摸道の内幕外四項及び「銀次と僕」隠語いろ／＼附載。	▲日露戦争當時に於ける第十水雷艇隊の物語で、雨か風か、生別會、出征、前進、敵の勢揃へ、血の價外十九項、一増補。	▲佐藤中將の遺稿で旅順開城の回顧、梁塞戦術の研究、旅順攻城の準備、出征前の諸準備外八章。

日本人傳記

三洋社編	小笠原長生	本間憲一郎	エスボフ著 襄譯	中島武	菊池門也	石田文四郎編	湯川玄洋	小谷部全一郎
想ひ出の日露戦役畫帖	撃	戦争ボロ支那服	ラスプーチン暗殺秘録	スバイ跳梁	濟南双のほこり	新聞に明治の大事事件記録集成	近世雅人傳	靜御前の生涯
洋四六判	洋四六判	並四六判	並四六判	上四六判	上四六判	洋四六判	和紙菊綴入判	洋四六判
30	532	310	281	400	308	544	502	426
特一、六〇	一、八〇	一、三〇	一、五〇	一、五〇	一、三〇	二、五〇	七、〇〇	二、五〇
三洋社	日實本業社	忠誠堂	大衆公論社	萬里閣	織田書店	二松堂	湯川家	厚生閣
月四	月四	月十	月七	月十	月二	月十	月六	月一
▲紀念三艦笠艦上の聖上陛下と東郷元帥、廣瀬中佐の絶筆其他八十三圖より成る日露戦役及陸海軍の最新兵器畫帖、挿圖六十二圖。	▲日本海大海戦の物語で、海戦前の情況以下戦後叢話迄五章四十五項、附録東郷司令長官の日本海々戦公報。	▲大正七年西伯利出兵に當つて一領のボロ支那服を纏つて特別任務に就いた著者がその當時を描けるもので、皇軍の過激派討伐其他はロシア帝政末期に於いてロマノフ王家に現はれた怪僧ラスプーチン暗殺秘録で、僧正殺害の決意外廿篇、附録二篇。	▲歴史の影に怪奇なシルウエツトを残してゐる名だたるスパイの實際活動其他を物語つたもので、男装美人外十一篇。	▲濟南事變に於て忠勇闘した第六師團其他の戦士の名の埋もれるを惜み當時の參謀たりし著名が大众的に記述した戦記。	▲明治初年來の種々な新聞に現はれた大事事件の記録集成で、江戸城開渡しの模様、大久保利通暗殺さる其他。	▲我邦實曆以後の書家畫家を始め學者、貴紳文人、雅客、名僧其他の傳記を上、中、下の三冊にて收めたもの。	▲世に優れたる人として持囃さるゝ靜御前の傳記で、隠れたる氏素姓、靜御前の素姓、吉野の訣別外九章。	

尾地義雄	伊吹岩五郎	村松春水	頭山滿述	藤本尙則	國民新聞編輯局編	平塚篤編	竹越與三郎	上高橋是清	上高橋是清
太閤	山田方谷	於下田に於ける吉田松陰	幕末三舟傳	巨人頭山滿翁	伊藤博文公	續伊藤博文秘錄	陶庵公	是清翁一代	是清翁一代
洋四六判	布四六判	並四六判	布四六判	上四六判	並四六判	布四六判	布四六判	布四六判	布四六判
632	278	140	374	820	93	254	340	448	351
二、五〇	二、〇〇	四、五〇	一、八〇	二、五〇	二、二五	三、五〇	二、五〇	一、三〇	一、〇〇
春秋社	清山會	平凡社	雄大辯會本	山水社	啓成社	春秋社	叢文閣	朝日新聞社	朝日新聞社
月一	月三	月六	月四	月七	月一	月一十	月二	月一	月七
▲今古國人の尊崇を絶たざる豊太閤の眞面を傳へたもので、英雄は光明の源泉、信長へ奉仕の異説外二一五章。	▲松山藩の學頭山田方谷先生に就て述べたもので、先生死後正に五十年外廿六章。	▲世の師表と尊まれてゐる吉田松陰の下田に於ける動靜を記述したもので、附録山本啓助日記。	▲幕末の傑人勝海舟、高橋泥舟、山岡鐵舟の三舟に就て頭山翁が物語つたもので、勝海舟と來島恒喜外廿二篇。	▲頭山翁を中心とし關係の人々及び事業等に就いて詳述せるもので、達人達觀、浪人會、仕方なしの女道樂外四八九篇、普及版。	▲明治の功臣伊藤博文公の功業偉績を讃せる講演集で、法典編纂と伊藤公(富井政章)伊藤公を憶ふ(元田肇)外四項。	▲前巻に洩れたる公爵家所蔵の故公直筆を基とし之に故公が生前各地に試みられたる演説を以て編成せるもの。	▲元老西園寺公望公の評傳で、西園寺家の系圖と公卿の生活以下七十一項。巻頭に陶庵公の印譜を掲ぐ。	▲數寄極まる是清翁の七十有餘年の思出を物語つたもので、實父川村庄右衛門、タイブライターに驚く其他。	▲下巻は實業界に入る、日本銀行の馬關支店長に於ける納稅者外五十三篇。

尼子止編述	藤村健次	小栗又一編	山中峰太郎	小野賢一郎	荒川實藏	秀文閣編	石田秀人	根岸磐井	小原國芳
平民濱口雄幸	濱口雄幸	龍溪矢野文雄君傳	九條武子夫人	奥村五百子	セ・片山	堺利彦を語る	快男兒横田千之助	出雲に於ける小泉八雲	秋吉臺の聖者本間先生
布四六判	並四六判	布四六判	布四六判	上四六判	並四六判	並四六判	洋四六判	並四六判	洋四六判
541	244	376	406	305	246	138	557	124	225
一、五〇	六、五〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	二、五〇	五、〇〇	一、〇〇
寶文館	日吉堂	小栗家	雄大辯會本	先進社	大衆公論社	秀文閣	新氣運社	八雲會	玉川學部園
月一	月二十	月四	月一	月五	月一十	月二	月四	月四	月十
▲始終一貫その少年時代より奮勵努力以つて今日の地位を贏ち得た濱口雄幸氏に就いて述べたもの。	▲濱口首相の政策及び人物に就て記述せるもので、呪はれたる金曜日、樞府と海軍條約迄濱口首相の横顔其他。	▲元大阪毎日新聞社社長たりし矢野文雄氏の傳記で、素描、生立及び修學時代、外遊と新聞活躍時代外八篇。	▲一代の麗人九條武子夫人の短生涯を、大谷武子姫として生立より孤獨時代の煩悶、結婚觀等十三篇にて描いたもの。	▲一意國家を念とした維新の女傑奥村五百子の生涯を描いたもので、唐津高德寺、馬關奇兵隊陳所其他。	▲今年七十一歳の老革命家セン・片山の世界に於ける地位と體験を述べたもので、生ひ立ちより上京まで外六篇。	▲堺氏が多年に亙る知己交友の心境に印せる有ゆるボイズの寫眞帳で、強情つ張り(荒畑寒村)木彫の不倒翁(與謝野寬)外五十篇。	▲政友會の重鎮であつた一代の奇才故横田千之助氏の奮闘傳で、横田千之助論、立志の経路、逸話其他。附録因襲打破論外一篇。	▲出雲に於ける小泉八雲先生の往年の生活を記述せるもので、初の住居の頃、旅行と遊覽斷篇外二篇。	▲秋吉臺の聖者と言はれる本間俊平氏に就て述べたもので、先生の母堂、車引いての苦學日本一の納稅者外五十三篇。

歴史・傳記 (日本人傳記)

政教社編	鳴呼草荊少佐	洋布 四六判	400	一、五〇八	政教社	月八	▲軍縮問題で自叙した草刈少佐の遺稿「忠君論」外三篇簡遺書等を収め諸家の追懐九篇を収む。
北林惣吉	淺野總一郎傳	布 四六判	315	一、五〇二	千倉書房	月二十	▲天下の事業王となる述の淺野翁の一代記で平和な郷土、幼年時代、悪戦若闘時代、活躍時代外五篇。
長沼依山	子爵 實業王となるまで	上四六判 製入判	450	特一、八〇〇 一、五〇〇	星文館	月二十	▲明治文化の創成を圖つた人傑淺澤翁が實業王となるまでの奮闘記で、中傷して赤面した逸友外九十篇及附録。
實業之日本社編	財界巨頭傳	上四六判 製入判	412	一、五〇三	月實本業社之	月一十	▲現代日本の財界を動かす巨頭連の奮闘傳で玄關番から臺灣銀行頭取となつた森廣藏氏奮闘傳外卅篇。
實業之日本社編	空手市井奮闘傳	上四六判 製入判	312	一、三〇三	日實本業社之	月二十	▲現に市井にあつて成功活躍しつつある人々の奮闘傳で、文房具專業に着眼して成功した伊東屋外廿六篇。
報知新聞部編	新人 名士の少年時代	布四六判 製入判	688	一、八〇三	平凡社	月一	▲現に社會各方面に於て名をなし産をなし儀表と仰がれてゐる人々の少年時代の言行を収めたもので
報知新聞部編	新人 名士の少年時代	布四六判 製入判	632	一、八〇二	平凡社	月一	▲中部篇 靜岡縣の卷、愛知縣の卷、岐阜縣の卷、三重縣の卷、福井縣の卷其他
報知新聞部編	新人 名士の少年時代	布四六判 製入判	635	一、八〇二	平凡社	月一	▲關東篇 群馬縣の卷、栃木縣の卷、埼玉縣の卷、茨城縣の卷、千葉縣の卷其他
井關九郎編	大日本博士 第五卷 工學之部	背判四六判 革入判	904	二、〇〇〇 三〇	發展社	月二十	▲明治二十一年五月より昭和四年七月に至る工學博士五百二十名を學位録の順位に従つて收めた博士全傳。
東京毎日新聞記者	學界新風景	上四六判 製入判	287	一、八〇八	天人社	月四	▲哲學界の近景、國文學の明日、街頭の經濟學、附録學者のプロフィール外一篇。

歴史・傳記 (外國人傳記)

東京毎日新聞記者	大塚虎雄	京在福岡縣人物誌	洋布 四六判	350	二、〇〇〇	新氣運社	月十	▲頭山滿、金子堅太郎、團琢磨、其他天下知名人物百餘名を網羅せる略傳人物評。
春日昇一郎編	時代を繞る人々	洋四六判 布入判	604	一、五〇八	富文社	月十	▲現代第一線に活躍しつつある政界、財界、官界及軍人學者其他卓越せる人士約三百名の面目を描寫せるもの。	
藤田定市	海軍逸話集 第一輯	布 四六判 裝	185	一、〇〇六	有終會	月七	▲故井上元帥以下海軍將官の服役中の奇行逸話等を蒐集したるもの。	
相馬半治	還曆小記	上四六判 製入判	528	一、〇〇八	日實本業社之	月九	▲相馬治氏の六十年間の經歷を収めたもので、家系、五年間の下士生活、大明治の現況外廿篇。	
金井十郎平	難航	布四六判 裝入判	350	一、三〇二	公民社	月四	▲貧しい農村に難航のスタートを切つた著者が文部省普通學務局社會教育課に就任する迄に至つた自傳。	
都河龍	越えて來た道	布四六判 裝入判	614	一、〇〇三	婦女界社	月一十	▲雑誌「婦女界」の創刊以前より今日の隆盛に至る迄の都河氏が越えられてきた道を述べたもので、就職難外四十六項。附録四篇。	
アンドレ・モロア著	ヂスレリ傳	並四六判 製	394	一、八〇八	刀江書院	月三	▲ヂスレリを中心に英國とゲネクトリア朝の世相を述べたもので「父と祖父」學校「事業」「退却」以下二十四章。	
文藝社編	ネールソン	並四六判 製	106	一、一五二	文藝社	月三	▲少年時代の航海、米國船の捕獲と婚約、セントビンセント岬の海戦、ネーブルスに於ける行動外六章。	
文藝社編	セシルロープ	並四六判 製	106	一、一五二	文藝社	月三	▲南アフリカ、セシルロープとベチニアランド問題、ダイヤモンド採集會社の合同、ロンドン植民地外五章。	

歴史・傳記 (外國人傳記)

濱田成雄	石丸優三	馬郡健次郎	澤田謙	清澤例	大崎厚夫	小山莊一郎編譯	朝日新聞社編
南阿弗利加開拓の偉人セシル・ロープの少年時代外四十九篇	元帥フオッシュ	熱血宰相	モルガン	巨人を語る	世界を動かす十二條	世界に高叫ぶ一百人	世界人の横顔
並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	上製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	洋布 四六判	布製 四六判
303	505	311	358	350	308	343	332
一、三〇八	一、八〇〇	一、三〇八	一、五〇八	一、三〇六	一、五〇八	一、三〇八	一、五〇二
萬里閣	春秋社	萬里閣	萬里閣	三省堂	千倉書房	白鳳社	四條書房
月六	月二	月五	月一	月一	月二	月七	月十
▲南阿弗利加開拓の偉人セシル・ロープの少年時代外四十九篇。▲身を匹夫より起し世界平和の招來者として仰がれるフオッシュ元帥の偉業を述べたもので、平和の招來者外廿二篇。	▲英國の二ハの熱血宰相ロイド及びラムゼーの息子ジョーヂ外六篇。	▲米國そのもの、通行と共に大股に時代を歩み來つた英、兒モルガンの生涯を説述せるもので、モルガン王國外五十篇。	▲時代が生んだ巨人マクドナルド、ヒンデンブルグ、エチソン、リンカーン其他に就いて時代の背景と其巨人とを述ぶ。	▲紛糾する思潮の變動期に當つて出現した世界の英雄十二人に就いて述べたもので、フランスの猛虎クレマンソー其他。	▲世界一百人の感想主張告白等を収めたもので、發明の抗底靈光來るエチソン、女王の眞の心の中マリエ陛下外九十八篇。	▲昭和五年七月から九月迄六十六回に亘つて東京朝日新聞に掲載されたもので、マクドナルド(若槻禮次郎)外六十六篇。	

八、地理・紀行

地理・紀行 (地理學一般)

著者	書名	形態	頁數	定價	發行所	月行發	内容大意
オットー・グラフ著 國松久編譯	地理學の概念	洋函菊布入判	242	二、〇〇八	古今書院	月七	▲獨逸の地理學者オットー・グラフ博士の勞作の全譯で、全科學分野に於ける歴史學と自然科學外三部及序論緒論結論より成る。
デーヴィッド・スミス著 小川英男譯	自然地理學	洋函菊布入判	413	三、八〇八	古今書院	月十	▲自然地理學の諸問題に對して合理的の解釋を施せるもので、天體としての地球、平原及び高原外八篇。
井上梅吉	生物地理學	布函菊裝入判	493	五、五〇八	南光社	月十	▲地理を學ぶ者にとつて忽せに出來ぬ生物地理學に就いて論述せるもので、生物界と地理學一般に就いて論述せるもので、生物界と地理學一般に就いて論述せるもので、生物界と地理學一般に就いて論述せるもので。
小田内通敏	郷土地理研究	洋函四六判布入判	325	二、三〇二	刀江書院	月五	▲郷土の人文地理學的考察の研究並に臨地實證に用ひた調査方法とを論述せるもので、郷土地理への學的根據外二篇。
三村信男	世界の地質構造	洋函菊布入判	584	五、八〇八	大同館	月四	▲世界の地質構造の概要を記述せるもので、印度の地質外廿三篇。
佐々木彦一郎	人文地理學提要	洋函菊布入判	115	三、五〇八	古今書院	月五	▲人文地理學の史的展望、人類の地理的分布の環境への適應、聚落地理、交通地理上よりみたる各大陸外二章にて論述。索引。

地理・紀行 (地理學一般)

西龜正夫	人文地理學講義	洋函菊 布入判	528	三、六〇	一、八〇	古今書院	月九	▲下巻は地域の研究の成果を如何に分類整理するかを目的とするもので、聚落地理學、生産地理學外三篇
國松久彌	政治經濟地理學と人文地理學と文化景觀	布函菊 裝入判	224	一、八〇	一、八〇	共立社	月十	▲人文地理學の目的(地理學と人文地理學の體系的の三部にて論述)
秋山貞吉	教科書に生産地理精義	布函四六 裝入判	401	二、三〇	一、二〇	弘道閣	月七	▲國定地理書中の生産物教材に準據し沿革種別品位加工荷造賣買法等を主眼として記述せるもので、農産品外九篇
佐藤弘	經濟地理學概論	洋函菊 布入判	418	三、五〇	一、八〇	古今書院	月一十	▲經濟地理學に就て論述せるもので、經濟地理學の本質とその課題、環境論、地帶論の三編及參考文獻。圖版一二六
菊川忠雄	經濟地理概論	布函菊 裝入判	275	三、〇〇	三、〇〇	改造社	月三	▲歴史に於ける地理的要因、世界史の流域今日の世界外八章。附録帝國主義と労働者階級外五章
淡川康一	經濟地理通論	布函菊 裝入判	600	三、〇〇	二、七〇	弘文堂書房	月一十	▲經濟地理の根本概念たる地理學概論及人文地理學に比較的多きを費し經濟地理の部分に於て著者独自の卓見を披瀝す
佐々木彦一郎	經濟地理研究	布函菊 裝入判	237	一、五〇	一、八〇	共立社	月七	▲經濟地理に於ける一般的問題(論文四篇)地域的な問題(論文四篇)獨占と對立との問題(論文四篇)外一部
小野寺太郎	簡地形學概説	洋函四六 布入判	226	二、三〇	一、〇〇	啓文社	月五	▲地形學の基礎根柢を徹底的に解説し、斯學研究の出發點と同時に歸着點を示すもの
地球學團編	地理教材としての地形圖	洋函四六 布入判	222	一、八〇	一、二〇	古今書院	月四	▲地理教材としての地形圖を説述せるもので、都市、平野と盆地、段丘と丘陵、山地と高原半島、島嶼外四篇
井上長太郎	交通地理學	布函菊 裝入判	680	六、〇〇	二、八〇	株式會社	月四	▲自然の便利に依つて交通を發達せしめし経路其他を觀察し、世界交通の大勢を説き原理を論討せるもので、道路外四篇

地理・紀行 (日本地理)

立正六藏書院	大日本地理概説	洋函菊 布入判	325	二、七〇	一、八〇	古今書院	月二十	▲自然地理學並に人文地理學上の見地より我が帝國地理の解説をなせるもので、地球、大日本帝國外十九篇
山本熊太郎	概観日本地誌	布函菊 裝入判	547	四、五〇	一、八〇	古今書院	月九	▲讀み易く多趣味に記述せる書で、奥羽地方關東地方、中部地方、近畿地方、中國地方外二篇
工藤暢須	日本地形概説	洋函菊 布入判	377	二、九〇	一、八〇	中興館	月四	▲近畿及中國地方の地形、地質及地體構造、岡山、廣島、山口、鳥根、鳥取、三重、滋賀奈良外二府二縣の地形を收む
子爵 田中阿歌府	日本北アルプス湖沼の研究	布函菊 裝入判	1036	一、三〇〇	三、〇〇	信濃教育會	月一	▲飛騨山脈中に於ける幾多の湖沼の研究論文で、信濃川流域高山湖沼外三篇
葎本重雄	徳島縣地誌	洋函四六 布入判	169	一、三〇	一、八〇	古今書院	月七	▲徳島縣の地誌に就いて論述せるもので、自然地理、人文地理、總括郷土の地理的環境と人生の三章
三島成行編述	西志	上菊 裝入判	410	三、〇〇	一、八〇	地誌刊行會	月一十	▲本所、深川は云ふに及ばず、葎本重雄、西志、西領、本所、深川大意其他詳述

日本地理

ラツチエ著 海論 一譯 一書國民發展の原動力としての海

日本地理學會編 山崎直方博士記念論文集 洋函菊 布入判 639

小川博 地學論叢 洋函四六 布入判 990

小川博 地學論叢 洋函四六 布入判 990

小川博 地學論叢 洋函四六 布入判 990

世界地理

小林房太郎	香川幹一	香川幹一	藤田元春	スウエイン著 金尾宗平抄譯	田鍋安之助編	ソコロフスキー著 内田寛一譯	室谷邦夷
世界地理精義 下巻 其の二	概観世界地上地誌	概観世界地下地誌	國民世界地理 上巻	自然世界地誌	滿洲地誌研究	西藏探検秘史	極北秘聞
背函菊華入判	布函菊華入判	布函菊華入判	洋函菊華入判	洋函菊華入判	洋函菊華入判	布函菊華入判	上函菊華入判
1035	469	930	494	345	411	592	172
九、五〇 三〇	三、五〇 一八	三、五〇 一八	二、三〇 一八	二、五〇 二	三、八〇 一八	三、八〇 一八	一、二〇 一八
南光社	古今書院	古今書院	富山房	古今書院	東亞同文會 調査線纂部	中興館	三元社
月四	月一	月一	月九	月四	月七	月十	月十
▲北亞米利加洲、南亞米利加洲、南北兩極地方を網羅して論述せるもので、地誌、人文誌其他より成る。	▲各種の地圖を挿入してアチア洲及ヨーロッパの概観、地形、氣候、植物景觀其他を説述せるもの。	▲下巻は地誌の領域内で眞理の追及を深く行へるもので、アフリカ洲、北アメリカ洲、南アメリカ洲、太平洋の四篇。	▲地理の國民化を目的として、編まれた國民世界地理。	▲地理的要素として最も重要な氣候の方面を中心とし具體的例證を擧げて説明せるもので極域外三篇。附録一篇。	▲滿洲及び蒙古地名の起源、滿洲の位置及び境域、氣候、滿洲の住民、農業、畜産業及び水産業外十八篇。	▲古來露國の南下に對する英領印度の壻併としての世界視線の集中の地となつた亞富汗斯坦の研究で上下二篇より成る。	▲「閉ざれたる天地」として世界人に忘れられてゐた南極の探検録で、悲壯なる待役命令南極の扉外世草。

齊藤進譯	南滿洲鐵道株式會社 庶務部調査課編	三省堂旅行案内部	三省堂旅行案内部	富士徳治郎	富山房編輯部	林與市	奥田保治
バード少將南極探検	最新ソウエート聯邦地圖 西亞細亞調查會	新鐵道地圖 (改訂版)	東海道沿線旅行案内圖	學習地理學通論要説	自學自習日本地理 受驗參考	受驗日本地理要領 參考	日本地理問題解説
並製	洋函菊華入判	折疊式	折疊式	洋函菊華入判	洋函菊華入判	洋函菊華入判	洋函菊華入判
316	64	1	1	464	268	180	523
一、二〇 八	一、五〇 二四	四、五 四	三〇 四	一、七〇 六	一、三〇 八	三、八 四	三、二〇 一八
カオリ社	大阪毎日 新聞社	三省堂	三省堂	盛林堂	富山房	正文館	中興館
月一	月四	月七	月四	月二	月九	月八	月七
▲「閉ざれたる天地」として世界人に忘れられてゐた南極の探検録で、悲壯なる待役命令南極の扉外世草。	▲經濟的の地方區劃地圖及び民族自治區域地圖を收めたもので、ソウエート聯邦社會主義共和國聯邦經濟區劃全國外六十三圖。	▲おもてが精確明瞭な地圖で裏は旅行案内となつてゐる新型地圖。	▲詳しく見やすい東海道旅行圖。自動車電車の發着時間を一覧瞭然にした市街圖、名所寫眞等を挿入。	▲中等諸學校の學習用として編めるもので、地理學(地球學外四章)、人文地理學(自然と人類外六章)。	▲平易簡明に記述した日本地理參考書。	▲最近の入試問題に出た重要な問題に綿密なる解答を施した受驗參考書。	▲高檢、文檢、專檢、高師、高等學校等の試験準備用として、從來出た問題及今後出さうな問題を答案式に解説したもの。

地理・紀行 (日本案内・紀行)

山梨縣教育會編	山梨縣教育會編	柴田親雄	林與一	富山房編輯部	川合重太郎	最新外國地理	自學自習外國地理	日本案内	日本温泉案内	日本温泉案内	大日本雄辯會	大日本雄辯會	
日本地理讀本	世界地理讀本	最新簡明世界地理	參考世界地理要領	外國地理	外國地理	最新外國地理	自學自習外國地理	日本案内	日本温泉案内	日本温泉案内	大日本雄辯會	大日本雄辯會	
上 菊 製 判	上 菊 製 判	洋新六布判四	洋新六布判四	洋新六布判四	洋新六布判四	洋新六布判四	洋新六布判四	布新四六裝入判	布新四六裝入判	布新四六裝入判	布新四六裝入判	布新四六裝入判	
116	158	616	198	413	420	420	413	714	714	535	720	714	
三〇六	四三八	一五〇六	三八四	一五〇八	一三〇六	一三〇六	一三〇六	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	
朗月堂	朗月堂	健文社	正文館	富山房	出版海部堂	出版海部堂	出版海部堂	博文館	講談社	講談社	講談社	講談社	
月十	月十	月十	月九	月一	月一	月一	月一	月七	月七	月三	月七	月七	
▲實業補習學校、青年訓練所の教科用に充て編纂せしもので日本の地理的特色と日本から見た我が郷土の地位を明にす	▲實業補習學校、青年訓練所の地理教科書に充て編纂せるもの	▲高等専門學校入學試験各種檢定試験及び中等學校生徒の自學自修參考書として理論的に解釋を試みたもの	▲最近の入試問題に現はれた新傾向と著者の経験とにより、種々の重要問題に解答を施したるもの	▲自學自習受驗參考用書として、外國地理を編述せるもの	▲人文地理に重きを置き、各頁欄外に過去の問題を抽出し記憶に便なるよう編んだ受驗參考書	▲東京、神奈川、埼玉、群馬、栃木、茨城、千葉の六府県及交通線の關係上山梨縣、靜岡縣大半の案内記事を取めたもの	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲國民新聞社が全國温泉十六佳選の公定を企て、主催せる温泉講演會の速記で、十六佳選の使命一五來欣造外四篇	▲泉質から適應症を見出す(三十四項)病症から特效藥を見出す(十七項)の二章より成る病氣別の温泉案内	▲鐵道沿線の名勝史蹟その他行樂地の概略並に普通一般の旅行者の參考となるべき事項を記述せるもの

地理・紀行 (日本案内・紀行)

編輯局新聞	松川二郎	鐵道省編	ジヤパン・ツーリストビューロー編	時事新報家庭部編	スポーツブック編輯部編	大泉黒石	林次忠	佐藤太平	至誠書院編	溫泉	病氣によく効く温泉	鐵道旅行案内	旅程と費用概算	旅の小遣帳	スキー適地案内	峡谷と温泉	舞臺と史蹟	大東京の史蹟と名所	大東京寫真帖	
並四六判	並三五判	布新三五裝入判	布新三六裝入判	布新三六裝入判	上四六判	並四六判	布新四六裝入判	洋新四六布入判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	
69	105	650	672	300	118	200	211	733	115	69	105	650	672	300	118	200	211	733	115	
二五	一〇	三〇〇	一、二〇	一、五〇	五〇	一、二〇	一、八〇	二、八〇	八〇	二五	一〇	三〇〇	一、二〇	一、五〇	五〇	一、二〇	一、八〇	二、八〇	八〇	
啓成社	誠文堂	博文館	ジヤパン・ツーリストビューロー	正和堂	金星堂	二松堂	朝日新聞社	博文館	至誠書院	啓成社	誠文堂	博文館	ジヤパン・ツーリストビューロー	正和堂	金星堂	二松堂	朝日新聞社	博文館	至誠書院	
月一十	月二十	月七	月六	月六	月一十	月六	月三	月四	月三	月一十	月二十	月七	月六	月六	月一十	月六	月三	月四	月三	
▲實業補習學校、青年訓練所の教科用に充て編纂せしもので日本の地理的特色と日本から見た我が郷土の地位を明にす	▲實業補習學校、青年訓練所の地理教科書に充て編纂せるもの	▲高等専門學校入學試験各種檢定試験及び中等學校生徒の自學自修參考書として理論的に解釋を試みたもの	▲最近の入試問題に現はれた新傾向と著者の経験とにより、種々の重要問題に解答を施したるもの	▲自學自習受驗參考用書として、外國地理を編述せるもの	▲人文地理に重きを置き、各頁欄外に過去の問題を抽出し記憶に便なるよう編んだ受驗參考書	▲東京、神奈川、埼玉、群馬、栃木、茨城、千葉の六府県及交通線の關係上山梨縣、靜岡縣大半の案内記事を取めたもの	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲國民新聞社が全國温泉十六佳選の公定を企て、主催せる温泉講演會の速記で、十六佳選の使命一五來欣造外四篇	▲泉質から適應症を見出す(三十四項)病症から特效藥を見出す(十七項)の二章より成る病氣別の温泉案内	▲鐵道沿線の名勝史蹟その他行樂地の概略並に普通一般の旅行者の參考となるべき事項を記述せるもの	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引	▲東海、關東、關西、四國、近畿地方、北陸、東北、北海道、支那、南洋、朝鮮、滿洲地方、五十音順索引

地理・紀行 (満鮮・支那案内・紀行)

田唐傳三	新東京俺らが見物	布四六装入判	383	一、五〇	交蘭社	月七	▲新興大東京を實地行脚した著者が十五區を五日に分けて面白く述べた見物記、附録帝都の復興状況
松川二郎	東京日がへりの行樂	布四六装入判	583	一、八〇	誠文堂	月六	▲半日の行樂と一日の行樂の二部に分けて日多摩秩父方面外四十五章
大阪毎日新聞社	京都新百景	布三六装入判	450	一、八〇	新時代社	月四	▲中京、京東、京北、京西、京南に分けて、三本木あたり(山口八九子)以下各方面の人々の京都に關する百篇收載
金木菘花	洛中洛外	上四六装入判	231	一、五〇	明星書院	月一十	▲京の史蹟を探るの隨筆集で、京の回顧、三十三間堂、知恩院、嵯峨野の秋、宇治外廿一篇、附録人生と藝術外二篇
石原初太郎	御嶽昇仙峽と其奥	並菊判	116	八〇	上田泰文堂	月八	▲甲斐の名勝勝野の概観御嶽昇仙峽風景論、羅漢寺山、金櫻神社、其他御嶽昇仙峽に關するもの全部詳述
田山花袋	山水百記	洋四六布入判	430	一、八〇	博文館	月四	▲土佐の海岸、鳴門、千光寺、石見の海岸、筑後川下り、戸下温泉、霧島登山、北山川の溪谷外九十三篇
横山健堂	長周遊覽記	背四六洋布入判	415	二、五〇	郷土研究社	月八	▲長周山水の大觀、自然趣味に恵まれたる二州、天下無二の石柱溪、新八十八ヶ所の萩町外三十三ヶ所より成る長州の研究
島浪男	名札所と四國遍路	布三六装入判	441	一、八〇	寶文館	月九	▲四國八十八ヶ所の名利其他より成る四國遍路記で、徳島から高知まで、高知から伊豫路へ外二篇
平岡雅英譯	日本旅行記	布四六装入判	344	一、八〇	ロシヤ研究所	月一十	▲プロチャチン提督の秘書として來朝した著者が、兩國代表の會見顔末を詳細に手記せるもので、日本に於けるロシヤ人外一篇

満鮮・支那案内・紀行

地理・紀行 (満鮮・支那案内・紀行)

師尾源藏	新朝鮮風土記	上四六装入判	519	二、五〇	萬里閣	月九	▲日本内地及支那事情と比較しながら朝鮮の人情と風俗或は政治と經濟と社會相其他を平易に述べたもの
小西榮三郎編	新朝鮮・滿洲・支那案内	洋三六布入判	291	二、五〇	聖山閣	月七	▲朝鮮滿洲南支那を包含したる案内書で、旅行上の注意、朝鮮の部、滿洲の部、支那の部の四篇
杉本文雄	滿洲とはどんな處か	並四六装入判	296	一、五〇	大阪屋號	月三	▲無限の天物産を包蔵する極東の寶庫、滿洲に就いて説述せるもので、滿洲、大連市、南滿洲鐵道株式會社外十三章
馬郡健次郎	大支那案内	布四六装入判	477	二、五〇	春陽堂	月一十	▲大支那への旅行案内記で、旅行日程と費用、朝鮮經由奉天まで、大連經由ハルビンまで、支那本部の巡歴外四編
後藤朝太郎	支那旅行通	並四六装入判	211	七〇	四六書院	月四	▲支那旅行の心得、支那旅行の季節、支那漫遊の支那産物の相談外三篇
小西榮三郎	朝鮮滿洲支那案内	布三六装入判	803	二、五〇	聖山閣	月七	▲朝鮮滿洲支那に關する最新の旅行案内に、地圖市街圖寫眞版挿入
友田宜剛	飛ぶ鳥物語	背四六洋布入判	453	二、五〇	三成社	月十	▲支那滿洲及朝鮮旅行の印象記で、耳のみや見、歸雁外二十五篇
與謝野品子	滿蒙遊記	布四六装入判	344	二、三〇	大阪屋號	月五	▲晩春より初夏に亘る三旬滿蒙の地に遊んだもの
久保天隨	出門一笑	布四六装入判	294	一、五〇	萬里閣	月十	▲金剛山の一句、朝鮮古都めぐり、冬の赤城山の歴史外六篇の隨筆を收む
網貝香塘	江南の詩の旅	上判新四六装入判	318	三、三〇	帝國教育會	月一十	▲蘇州、蘇州の沿革其他、城内、蘇州府城、城外、雲巖山と天平山其他、杭州、水路蘇州から杭州へ其他

運塚麗水	滿鮮趣味の旅	布四六判	320	三、〇〇	大阪屋號	月四	▲昭和四年の春より夏に亘つての著者の朝鮮市、滿洲古遊記で、朝鮮の四季、偉大なる大連、胡沙吹く風外卅七篇。
------	--------	------	-----	------	------	----	--

歐米案内・紀行

瀧本二郎	歐洲旅行案内	洋四六判	417	三、八〇	案歐米旅行社	月三	▲旅行者が知らねばならぬ各都市の開拓及植民事情、外國旅券以下四十一篇。
瀧本二郎	米國旅行案内	布四六判	389	三、九〇	案歐米旅行社	月四	▲日本人旅行者に必要と思はれる事項を廣く網羅した書で、海外旅券の種類、北米合衆國入國法外六十五篇。
酒井潔	巴里上海歡樂郷案内	並四六判	300	一、五〇	竹醉書房	月八	▲巴里の歡樂郷(ミュージック・ホール外十、一章)、巴里の真相、上海の歡樂郷の三篇にて述べたもの。
北川彌一	世界を嗅ぐ	上四六判	513	一、八〇	春陽堂	月八	▲メリデアンデー、山芋とゴルフ、アリゾナリイの旅外八篇。
鶴見祐輔	自由人の旅日記	布四六判	526	一、八〇	日本評論社	月二	▲鶴見氏の前後二十年に亘る世界遍歴の思を展べたもの、うち五篇を採録せるもので、少年の日、北米横斷飛行其他。
小川玄々子	醫者の見た歐米	並四六判	183	七〇	同仁會	月一十	▲醫者として小川氏が見た歐米の日常茶飯事を紹介せるもので、郵便の失敗、在米日本學生の生活振り外二百一十一篇。
時野谷常三郎	歐洲史蹟觀	洋四六判	432	三、四〇	目黒書店	月六	▲歐洲の史蹟に關する感想及觀察記で、現代命の史蹟外六十一篇。
八木彩霞	歐亞を縦横に	洋四六判	533	二、五〇	文化書房	月一十	▲約一年半に亘る旅行記で、横濱から巴里まで、巴里滞在、ロンドン滞在、瑞西伊太利旅行外二篇。寫眞多數挿入。

永田青嵐	外遊高所より観る	布四六判	242	一、三〇	日實業社	月六	▲著者の歐米旅行記で、ワシントン、露國の印象、獨逸の圍棋と聯珠、歐洲平和の瘡、歐洲聯邦論、世界鼎立論其他。
塚田公太	外遊よしの隨	洋四六判	348	一、〇〇	一橋出版社	月九	▲外遊中に著者が直接見た事聞いた事讀んだ事等をありの儘に記述せるもので、在支那人紡績の發展外九十九篇。附録二篇。
濱田本悠	社會人類は祈る	洋四六判	309	二、〇〇	濱田家	月三	▲人類は祈る、訪歐第一印象記、歐羅巴の僧院、合衆國印象記外廿篇。
濱次郎	ソヴィエツトを行く	並四六判	339	一、〇〇	自彊館	月一十	▲昨年本年始めに掛けてソヴィエツト、青年労働者大會見物外十四篇。一發賣禁止。
馬都健次郎	ジャズの歐羅巴	並四六判	317	一、二〇	萬里閣	月六	▲キヤピンの獨逸人、ステツキなしのロンドン、シネマの怪青年外百四十六篇。
遠藤利男	世界の最下層を行く	背四六判	447	一、五〇	日本書院	月三	▲大世界の各國各民族のどん底生活を描寫せるもので、アメリカ合衆國、イギリス、トルコ、南洋外廿五篇。
道家齊一郎	歐米女見物	並四六判	404	一、〇〇	白鳳社	月十	▲各國異なる美人の表徴、男には見せない映畫外國の遊廓外五十五篇。一特價版。
島洋之助	貞操の洗濯場	並四六判	503	一、六〇	赤燧閣	月三	▲英、米、佛、伊、獨をはじめ文化の尖鋭を鏡ふ、歐米諸國の歡樂境を赤裸々に描寫せるもので、嬌漫あめりか女其他。
島洋之助	童貞の機關車	並四六判	496	一、五〇	赤燧閣	月九	▲踊る素脚、亞米利加編(神の不在外五篇)、類笑む乳房、歐羅巴編(生きてゐる外三篇)、歎く心臓、維編(夜の歡樂郷外十二篇)。
高チャップリン著	僕の旅	並四六判	268	八〇	中央公論社	月四	▲喜劇王チャップリンの「外遊記」の全譯で、道草を食はう、忘れられぬ倫敦の一夜外十二篇。

地理・紀行 (海外殖民地案内)

スノードン夫人著 濱野修 譯	和 田 軌 一 郎	泉 芳 環	難 波 勝 治	竹 井 十 郎	吉 山 基 德	長 永 義 正	大 山 卯 次 郎	辻 小 太 郎
赤 露 を 旅 し て	若 き ソ ヴ ェ ト と 戀 と 放 浪	印 度 漫 談	新 天 地 を 求 め て	踏 査 富 源 の 南 洋	我 等 の 發 展 地 メ キ シ コ	カ ム チ ヤ カ 大 觀	一 奇 談 阿 弗 利 加 土 產	プ ラ ジ ル の 同 胞 を 訪 ね て
並 四 六 判	並 四 六 判	布 四 六 判	布 四 六 判	洋 四 六 判	並 四 六 判	上 四 六 判	並 四 六 判	洋 四 六 判
188	328	404	458	823	214	213	565	414
一、〇〇六	一、三〇六	二、三〇二	二、五〇八	二、八〇三	一、三〇六	一、二〇八	一、九〇三	二、〇〇二
平 和 出 版 社	世 界 の 動 機 社	京 都 文 書 院	大 連 中 日 協 會	博 文 館	日 本 植 民 社	萬 里 閣	赤 爐 閣	日 伯 協 會
月 五	月 四	月 二 十	月 八	月 五	月 十	月 九	月 八	月 七
▲餓えたる國民、我等の計畫、幽鬼、教育委員會?、宣傳委員會?、露西亞の軍事的勢力、レーニンと會ふ外九章。	▲若きソヴエトの自役、スターリン會見、教師外十一篇。▲國境脱出記、にわか	▲精神文化と神話哲學の橋盤地たる印度を漫談の形式にて説いたもので、動物篇、植物篇、事物篇外五篇。	▲世界に散在する日本殖民地の現状を披瀝せるもので、ハワイの印象、中米と日本人、ポルトレギア外百廿九章。	▲ジャワを中心として蘭領印度諸島に互つての産業状態や經濟生活、社會生活其他に關する踏査研究で、爪哇の國と人外十四篇。	▲世界無比の親日國メキシコに就ての真相を述べたもので、メキシコとはどんな國か、産業經濟と有望事業外七章。	▲わが水産業の一大寶庫カムチャツカの視察記で、北洋漁業を觀る、北洋漁業労働者の生活外二篇。	▲東阿中堅英領諸國、土人の話、主要なる産業、市場雜聞、モンバサ港より奥地ウガンダへ、歐洲人對土人問題外十篇。	▲南米の事業及び我が移民の狀態を説いた旅行記で、往航記、ノロエステ滞在記、第一回モチアナ地方旅行記外十四篇。

地理・紀行 (山岳案内・紀行)

冠 松 次 郎	熊 澤 正 夫	矢 澤 米 三 郎	藤 木 九 三	仲 摩 照 久 編	山 田 揚 之 助	江 越 信 胤	甘 利 造 次	商 工 省 商 務 局 編
黒	上	白	雪・岩・アルプス	日 本 ア ル プ ス	プ ラ ジ ル を 直 視 し て	コ ロ ン ビ ヤ 國 事 情	コ ロ ン ビ ヤ 國 事 情	神 祕 境 英 領 北 ボ ル ネ オ
部	地	岳	山 岳 案 内 ・ 紀 行	山 岳 案 内 ・ 紀 行	山 岳 案 内 ・ 紀 行	山 岳 案 内 ・ 紀 行	山 岳 案 内 ・ 紀 行	山 岳 案 内 ・ 紀 行
布 四 六 判	洋 四 六 判	布 三 五 判	洋 四 六 判	布 判 四 六 倍	並 菊 判	並 四 六 判	並 四 六 判	上 菊 判
466	290	72	408	232	600	907	89	234
二、五〇二	二、三〇二	一、〇〇四	三、五〇八	三、〇〇一	二、五〇七	四、五〇八	二、五〇二	二、〇〇二
第 一 書 房	刀 江 書 院	岩 波 書 店	梓 書 房	新 光 社	日 本 植 民 社	萬 里 閣	日 本 植 民 社	文 原 堂
月 五	月 六	月 五	月 五	月 七	月 一	月 二	月 二 十	月 二
▲日本アルプスの中心である黒部の山岳と、谷とに就て述べたもので、黒部川の山と谷、黒部溪谷概観其他。	▲地勢と交通、上高地の四季、温泉、旅舎、牧場、その他、登山とテント生活、外二篇。附録、眞の説明外一篇。	▲高山植物帯の種類、貴重動物の棲息、場其他で知られてゐる白馬岳を紹介せるもの。附録、登山日程、登山心得。	▲研究(岩登りのヒント外三篇)紀行「日本アルプス」(小槍外五篇)譯章二篇及び詩八篇を収む。	▲「日本地理風俗大系」第六卷の一部として發刊されたもので、各權威者の研究及び三百餘の寫真から成る日本アルプスの集成。	▲何故に吾人の移住地としてブラジルを推奨するかに、ブラジル國向け日本移民の推移、ブラジルに於ける日本移民問題等。	▲一般渡航者又は企業者若しくは移民教育上の研究で、我々移民事業の沿革、伯國農産物の順位外四十六篇。	▲コロンビヤ共和國は何處でどんな處であるか、何んな物が生産するか、コロンビヤ國の石油外十八篇。	▲該地の歴史、地理、地勢、氣候、保健、天然、富源、伐木、農業、行政、貿易、輸出、入税率表、郵便、電信、條令等を詳述。

冠松次郎	双六谷	布四六判 裝入判	412	二、五〇 一、三〇	第一書房	月六	▲信越三國に境する秘境双六谷を中心として述べたもので、双六谷概観、双六谷を中心として、谷渉り外十一章。
舟田三郎	岩登	背函菊洋布入判	132	一、八〇 一、三〇	目黒書店	月六	▲廣汎なる登山科學のうちの岩登りに就いて述べたもので、岩登の發展と概念、岩登者、用具、岩場其他。
武田久吉	尾瀬と鬼怒沼	背函四六判 布入判	369	三、〇〇 一、八〇	梓書房	月八	▲寫眞版百圖を収めて尾瀬と鬼怒沼に就いて述べたもので、尾瀬と鬼怒沼、初めて尾瀬を訪ふ外四篇。
大島亮吉	山	洋函菊布入判	492	三、〇〇 一、八〇	岩波書店	月三	▲故大島氏の遺稿集で、雪崩に就いて、石狩岳より石狩川に沿ふて、山への想片、穂高岳スキー登山外一章。
青木純二	山の傳説	布函四六判 裝入判	369	一、八〇 一、三〇	丁未出版社	月七	▲日本アルプスの峻嶺に秘められた多くの傳奇を収めたもので、みくりが池、姫川由来、借り女外百十四篇。
高畑棟材	山を行く	洋函四六判 布入判	506	二、五〇 一、三〇	朋文堂	月六	▲山に關する紀行文集で、春の愛鷹連山、初夏の兩神山、晩春の神流川上流へ、五月の金峰山外十八篇。附神流川雜藁。
板倉勝宜	山と雪の日記	並函四六判 裝入判	172	二、〇〇 一、三〇	梓書房	月三	▲板倉氏の遺稿集で、旅の一日、夏休みの日記より、春の上河内へ外十二篇。
吉澤一郎	登山高記	布函四六判 裝入判	289	二、三〇 一、三〇	古今書院	月三	▲山行の簡単なスキー登山、降雪期に於ける不愉快な山の思ひ出(四篇)。
辻村伊助	ハイランド	背函菊布入判	255	三、〇〇 一、八〇	梓書房	月九	▲故辻村氏の遺稿で、「ハイランド」の記録と日本北アルプスの登山紀行等を収めたもので、飛騨山脈の縦走外七篇。
辻村伊助	スイス日記	背函菊布入判	408	四、五〇 一、八〇	梓書房	月九	▲山紫水明の國瑞西に遊び歸來成りし著者の遺稿で、スイス日記、續スイス日記の二篇。

本間久雄著
滯歐印象記

定價二・二〇 送料一二 東京堂

ヤングハズバンド著 田邊主計譯	エヴェレスト登山記	布四六判 裝入判	436	二、五〇 一、三〇	第一書房	月七	▲「アジアの心臓」と呼ばれるヒマラヤ山脈中の秘峯エヴェレストの登攀を録せるもので、マウントエヴェレスト外廿八章。
日本山岳會編	山日記	洋菊半布 布入判	480	一、三〇 一、三〇	梓書房	月六	▲自昭和五年六月至昭和六年五月、自由日記欄住所欄及び登山の注意、服装と用具、登山用品目録其他十五項。

著者	書名	形態	頁數	定價	送料	發行所	月行發	内容大意
美濃部達吉 法學博士	現代憲政評論 —選舉修正論其の他—	洋函四六判 布入	439	二、〇〇	—	岩波書店	二月二	▲政治上の時事問題に關係する論説を收めたもの。選挙修正論、樞密院論、貴族院論、時事評論二十七篇。
吉野作造 法學博士	現代憲政の運用	洋函四六判 布入	491	二、五〇	—	一元社	二月二	▲我國現代の憲政運用の實際を對象として批判せるもので、昭和初年の政界の推移、學的考察を要する二三の問題外二篇。
吉野作造 法學博士	現代政局の展望	洋函四六判 布入	289	一、五〇	—	日本評論社	四月四	▲昭和四年度の政界の出来事を批判せるもの。現代政局の展望、最近の政界に於けるもの。現に於ける國家的社會的乃至國際的局面上に現れた諸問題の中その重要問題を解説せるもの。
高木斐川編著	重要現代局面觀 —問題—	新函四六判 布入	528	三、三〇	—	教文社	九月九	▲現代に於ける國家的社會的乃至國際的局面上に現れた諸問題の中その重要問題を解説せるもの。
安部磯雄	政治道徳論	並四六判 製	115	三〇	—	クララ社	一月一	▲政治と政治道徳(立憲政治の意義其他)誰に投票すべきか(選挙の常道其他)政治家の道徳論(政治界の掛引其他)。
高橋清吾 早稲田大學教授 政治學博士	現代政治の進むべき道	上四六判 製	272	二、〇〇	—	有斐閣	一月一	▲政治に無關心であるのは現代政治の本質と理想を知らぬ故である。本書は政治について明確な智識を興ふべく書上たものである。

九、政治・社會

政治一般

劇場

犬を飼ふ人のために

三版 傾ける 大地 賀川豊彦著
再版 青年は佛陀を如何に見る 小瀧 淳著
再版 パード少將南極探險 齋藤 進譯
九版 麻 雀 入門 武田俊一著

エース・J・R・アイザックス編
齋藤進・菅東卓共譯
編者は世界最高の演劇雜誌シ
アター・アーツ・マガジン主筆、
筆者は英米獨佛の演出家作家の
評論の集大成、挿繪の優秀さと
俟つて完璧の演劇研究書として
推奨する。
菊版天金豪華版 定價參圓八拾錢
舞臺寫眞四十葉 送料拾八錢
木下豊次郎著
著者は犬を愛する程の人なら
知らざるなき斯界の權威者、犬
を飼ふ人のためにといふより飼
れる犬のための考へてこの書は
世に出たのだ。あらゆる犬種を
網羅する至上入門書!
四六版箱入特製 定價壹圓八十錢
名犬寫眞三十葉 送料拾錢

英作文

早稲田大學・立教大學講師
エツチ・ガブリエル・パード 共著
生粹の英人パード先生と杉浦
先生の共著になる最新刊、すべて
昭和四五年年度の入學試験問題か
ら採り、組織的で體系的なのが最
大特色である。
新四六版特製 定價壹圓
總頁三四〇 送料八錢

新機軸

水田勇賢著
既に國漢文界に名聲高き水田
先生第四の名著世に出づ。譯註の
妙は今更言を要しない。一字一句
缺さぬ全譯にしてこの至廉さは
出版界の脅威となつてゐる。
新四六版特製 定價壹圓七拾錢
總頁七二〇 送料拾貳錢

新大鏡

杉浦正一著
三版徹底英語解釋法 杉浦正一著
再版 孟子 新解 水田勇賢著
再版 唐詩選 新解 水田勇賢著
再版 大學中庸 新解 水田勇賢著
再版 徹底英語解釋法 杉浦正一著

東京 神田 錦町

力大社

振 七 三 一 三 三

政治・社會 (政治一般)

弘田直衛	山浦貫一	朝日新聞編輯	朝日新聞編輯	石井滿	横尾惣三郎	澤村康	竹内雄	藤井悒	大山卯次郎
内閣更迭五十年史	議會政治と政黨	樞密院問題	婦人參政權の話	婦人參政權の話	歐米議會見聞記	中歐諸國の土地制度及び土地政策	英國憲法史概論	英國勞働黨の組織・沿革・政策	米國の政治組織及其活動
布面四六判	並三五判	上四六判	上四六判	並四六判	上四六判	布面菊裝入判	洋面菊布入判	並四六判	洋面四六判
739	110	196	137	273	200	710	278	104	318
三、五〇	一〇	五〇	五〇	五〇	一、〇〇	五、〇〇	二、三〇	五〇	一、二〇
春陽堂	誠文堂	朝日新聞社	朝日新聞社	アルス	農村研究會	改造社	文精堂	千倉書房	盟國協同會
月四	月九	月九	月一十	月一十	月一十	月三	月三	月七	月一十
▲討論内閣、元勳調和内閣の執權、第一次伊藤内閣、憲政黨内閣、第一次桂内閣、大隈内閣外四章にて論述。	▲議會政治と政黨の關係、議會の職能、貴族院の會期外五章である。議會の解散と停會、兩院の會期外五章である。	▲事實に基づいて樞密院の沿革、組織と權限、政府と衝突した實例外二章。	▲論議の時代より實現の時代にはいつてゐる婦人參政權に就て述べたもので、婦選要求の聲、日本の現狀外六章。	▲市町村がら國政へ、日本婦人の歩み來し道か？外二篇。	▲英吉利の議會、ノルエー議會、獨逸議會、埃太利議會を見ざるの記、米國議會外十二篇。	▲獨逸、オーストリア及びハンガリー三ヶ國の土地制度及び土地政策を論述批判せるもので、戰前獨逸の土地政策外七章。	▲英國憲法史を解り易く説明せるもので、アングロ・サクソン時代、國會の發達、行政機關の發達外十二篇。	▲イギリス勞働黨の組織、政策及びその歴史的發展を敘述せるもので、社會黨としてのイギリス勞働黨外二篇。附録一章。	▲米國憲法の歴史的、合衆國及各州の國法上の性質、合衆國及州政府の權限外五篇。附録一章。

政治・社會 (政治一般)

角田敬三	山田中譯	川邊喜三郎	松下齊光	日佛會館編	鈴木明子譯	淡路三郎譯	松山武著	松山武著	ア・ウオロビヨフ著
弗外交	政戰小數黨の勝利	前人政戰哲學	フランス政治思想史	佛蘭西科學	ブライトン法治國論	憲法の本質	近代民主政治	近代民主政治	プロレタリア政治學
並四六判	並四六判	並四六判	新六判	並菊判	洋面菊布入判	並四六判	並菊判	並菊判	並四六判
423	140	170	0	121	512	191	328	308	226
一、〇〇	八〇	一、三〇	一、三〇	一、〇〇	三、八〇	八五	六〇	六〇	八〇
同人社	東洋經濟出版部	萬里閣	日本評論社	岡書院	章華社	白揚社	岩波書店	岩波書店	天人社
月一十	月一	月四	月四	月十	月九	月十	月五	月九	月六
▲アメリカ合衆國の重要なる帝國主義的諸活動の事實を確認しその因果關係を討究せるもので、アメリカ帝國主義の活動外二篇。	▲英國自由黨の名士ラムゼー・ミユラー博士の「ロビンソン・ザ・グレート」の譯で、議會政治の危機外七章。	▲米國政治の眞相を暴露せるもので、政治の普遍的調、見事に芝居をやる事、徒黨と結んで勝負せよ外廿四章。	▲十六七八世紀に於けるフランスの政治思想の發展の歴史で、中世の脱却とフランス王國の確立外八章。	▲法政學、山路鎮史、千葉素一、杉山直治郎經濟學、竹内謙二の二篇。	▲ブラントンの法治國論で、國策を中樞とする社會教化論。	▲憲法の本質に關するラツサレルの論文を收めたもので、當面の任務、憲法の本質に關する第二回の講演外三篇。	▲第三卷は運用上より見たる若干の民主政治合衆國の部の續きで、聯邦政府の運轉の實況外十五篇。	▲第三編「立法部の衰頹、民主政治の類型、政治に於ける金力、民主政治の將來等五八より八〇まで。	▲宇宙は如何に構成されたか、自然經濟時代史と結ばれたるロシヤの革命運動外八章。

政治・社會 (政見・選舉・政黨)

近藤 榮藏譯	プロレタリア政治學	並 四六判	160	六〇	無産社	月四	▲無産階級の政治的活動方針を書いたもので、プロレタリア獨裁、農民問題、民族問題、戦略と戦術、共産黨活動のタイプ等。
コヴレンコ著 治譯	プロレタリア政治學入門	並 四六判	154	五〇	スマル書房	月二十	▲資本主義、第一インダリーナシヨナルとバリ史から外九章。
村山 藤四郎	政治的戰略戰術に就ての二斷章	並 菊判	115	六〇	希望閣	月一	▲日本のマルキストによつて從來最も閉却され來つた政治的指導と政治的戰術の主要なる特質を考察せるもの。
高 權三	近朝鮮政治史	並 四六判	304	一五〇	鋼鐵書院	月九	▲朝鮮國民の政治的理想的の政治上に一大變動を及ぼした李朝の建設外三章。
早武 瀨田義英雄一	公民教科書	洋 菊判	480	二、四〇	松邑三松堂	月二十	▲個人と社會、共同生活、家族社會、家族關係、親族關係、戸籍相續、政治生活の意義、自治生活、國家生活、國際生活以下數編。
濱口 雄幸	強く正しく明るき政治	並 四六判	150	三〇	春秋社	月一	▲民政黨總裁濱口雄幸氏の確固たる大信念を最も端的に表現せる書で、強く正しく明るき政治外冊二篇。
犬 養毅	景氣か不景氣か	並 四六判	86	一〇	誠文堂	月二	▲余は國民に眞の景氣を約束する、政友會の八大政策、解散は不當なり、政黨の争は政策で、行詰れる内治外交外五章。
江 木翼	危道を排して常道へ	並 四六判	60	一〇	春秋社	月二	▲吾々の主張の根柢、硝子函の中に於ける政治、整理緊縮の結果は何、金解禁の前と後外四章、及比例代表法に關する私見を收む。
安部 磯雄	國民の審判に訴ふ	並 四六判	228	六〇	先進社	月一	▲社會主義の首たる安部氏が、我黨の一般失業政策外六章にて論述。

政見・選舉・政黨

政治・社會 (政見・選舉・政黨)

野 依秀市	帝國臣民に訴ふ	並 四六判	64	二〇	世界業社	月四	▲普選第二次總選舉に大分縣に立候補した野依氏の政治經濟社會各方面に對する演説を收めたもの。
民 衆社編	日本はどうなる	並 四六判	56	一〇	民衆社	月二	▲再び政友會内閣出現せば(富田幸次郎)鋭角的對立(中野正剛) 財政の緊縮と金解禁(勝正憲)等三篇を收む。
鈴木 梅四郎	昭和維新の大國是	並 四六判	107	五〇	帝國協會	月一	▲日本帝國の世界に於ける位置、人心地廢を證明する社會世相、昭和維新の大國是外廿章附録平和的世界統一政策。
勞農黨本部編	大山郁失は斯く叫ぶ	並 四六判	89	二〇	春秋社	月五	▲第五十八議會に於ける質問演説、同志山宣の死と我々の覺悟、勞農黨の綱領、政策の三篇を收めたもの。
大日本雄辯會編	永井柳太郎氏大演説集	洋 四六判	332	一五〇	雄辯會	月二	▲永井氏の各所に於ける最近の演説を收めたもので、傍若無人論、新興勢方の擡頭を祝して外十三項。
水野 鍊太郎	我觀談屑	上 四六判	401	一五〇	萬里閣	月二十	▲普選選舉と國民の自覺、立憲政治の理論と實際、佛國の國難を救ひたる舉國一致内閣外廿三篇の政治觀世相觀を收む。
長尾 永五郎	田中 兩内閣を筆の裁判に	布 四六判	361	一八〇	太神書院	月三	▲田中瀆口兩内閣に於ける幾多の出來事を評論せるもので、田中内閣の卷、瀆口内閣の卷合理的姓名判斷の卷の三編。
中澤 辨次郎	瀆口内閣の小作立法批判	並 四六判	108	五〇	帝國日通信社	月二	▲民政黨内閣が立案した「小作立法」を社會學的農政學的見地に立脚して批判せるもので、法的批判の社會的基準外一章。
山本 宣治	論文集	並 四六判	456	一八〇	ロゴス書院	月二十	▲議會開争篇(第五十六議會と關ふ外八篇)▲政治開争篇(運動員の任務外八篇)▲雜篇(電車生物學外八篇)▲發賣禁止▲獅子吼する各政黨の主張を收めたもので、いかなる人を選ぶべきか、立憲民政黨の主張外九章。
政經研究會編	各政黨の主張	並 四六判	126	三〇	千倉書房	月二	

政治・社會 (政見・選舉・政黨)

北村 巖	來問 恭	大井 一 哲	朝日新聞 政治經濟部編	山崎 又次郎	朝日新聞社編	朝日新聞社編	赤坂 三郎	政治研究會編	朝日新聞社編
七七八裂の無產政黨史	無產政黨行進譜	政黨亡國論	比例代表の話	比例代表法と多数本位代表法	第二回普選總選舉大觀	明るき選舉のために	清き選舉、正しき政治	何黨を選ぶべきか	散は投ぜられたり
並 四六判	並 四六判	並 四六判	上 四六判	洋 四六判	並 四六判	並 四六判	並 四六判	並 四六判	並 四六判
147	318	70	189	213	242	151	148	156	101
三〇	一六〇	三〇	五〇	一五〇	一〇〇	三〇	三〇	二〇	二〇
紅玉堂	忠誠堂	問題研究所	朝日新聞社	株式會社善	朝日新聞社	朝日新聞社	寶文館	政治研究會	朝日新聞社
月三	月一十	月一	月二十	月十	月三	月一	月一	月一	月一
▲下の外八章	▲下の外八章	▲下の外八章	▲下の外八章	▲下の外八章	▲下の外八章	▲下の外八章	▲下の外八章	▲下の外八章	▲下の外八章

政治・社會 (國家・國體)

堀 眞琴	馬場 恒吾	栗林 貞一	淺尾 勝彌	關 壯一郎	近藤 榮藏	山 川 均	北 村 巖	麻 生 健
國家論	現代人物評論	地方官界の變遷	政界の尖端を行く人々	政界疑獄史	新勞農黨の批判	單一無產政黨論	第二普選と赤き陣營	無產黨はどう闘ったか
洋函菊布入判	洋函四六判	洋函四六判	洋 四六判	背洋布 四六判	並 四六判	並 四六判	並 四六判	並 四六判
310	521	629	323	232	57	126	132	279
二、三〇	一、五〇	二、八〇	一、五〇	特一、三〇	二〇	五〇	三〇	八〇
千倉書房	中央公論社	世界社	第一出版社	日本書院	無產社	文藝出版部	紅玉堂	鹽川書房
月九	月九	月八	月七	月三	月一	月一	月二	月四
▲國家論の一般的外國論研究の二篇	▲西園寺公望と内田康哉、若槻禮次郎論、山梨半造と齋藤實外評論廿二篇	▲濱口雄幸論、田中義一論、床次竹二郎論、朝野内閣時代外七章	▲政治維新以後現在に至る迄の地方官の更迭	▲政民兩黨を語る、總裁を狙ふ人々、尖端を物紀行外一章	▲明治初期より現代に至る迄の幾多の疑獄事件を網羅するもので、山城屋及三谷家事件、教科書事件外十六章	▲大山一派新黨勞農黨の出現を批判し、エセマルキシズムと斷づ。附録として「勞農派」の行動を検討す	▲マルクス主義立場よりの合法無產政黨論で政治的統一戦線へ！、無產政黨問題の再吟味の下に外八章	▲第二次普選に於ける無產黨の戦跡を敘述せるもので、弾壓をハネ飛ばして(大山都夫)取けても恨みなし(松岡駒吉)其他

政治・社會 (國家・國體)

永井 亨	佐藤 清勝	里見 岸雄	里見 岸雄	里見 岸雄	中柴 惠洲	佐藤 鐵太郎	大谷 光瑞	長野 朗	鶴田 東三
國家より社會へ	世界に天皇政治	國體に對する疑惑	思想的嵐を突發して	日本前史を終る	日本國民に告ぐ	吾等は日本人なり	國民之自覺	危勢の打開	現實の日本と英雄の出現
並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判
335	321	361	246	429	330	410	418	213	215
一、三〇六	一、三〇八	一、五〇八	一、五〇六	一、五〇〇	一、〇〇二	一、八〇二	六〇六	九〇四	五〇六
早稲田大學出版部	忠誠堂	アルス	アルス	アルス	瑞景閣	民友社	東京支社	平野書房	日黎明社
四月	十一月	一月	九月	四月	十一月	七月	二月	八月	十二月
▲國家より社會へと移りゆくその日、の世相を描いたもので、國體及民族、政黨及政治を論じた。國體及民族、政黨及政治の論評外一章。	▲我が國史の研究によつて得た結果を記述し、是を歐米の所説と對照せるもので、西洋政治の論評外一章。	▲我が國史の國體に對する疑惑を五十項目に於て天皇の尊嚴と國體の眞理を詳述し合理的に釋明せる書。大衆版。	▲國民史上に於ける教勅の意義、教勅に對する把握の變化、國體の精華と教育、家庭に於ける生活軌範外六章。	▲人格的共存共榮の社會を確實に建設する根本法に就て説述せるもので、宗教の陣營、教育と教化の死物狂ひ外三章。	▲「我」を尋ねて「眞我」を得せよ、吾人行く可き眞の道、政治と政黨、吾等の依據す可き大道外十六章。	▲金匱無缺の我が國體を如何にして擁護すべきかを説いたもので、日本國民は先づ第一に如何に自覺すべきか外五章。	▲我民族の地位、所謂國難來と思想善導、食糧問題、衣服問題、住宅問題、生活の安定、節約外十一章。	▲我國振古の公典たる自治の大纲を述べ更正制、財用外四章。	▲世界機構の一部として日本の社會的根據外一章。附録一章。

政治・社會 (國際・外交・植民)

外務省情報部編	ハツチンソン著	森田 敏譯	杉村 陽太郎	松原 一雄	杉村 陽太郎	法蘭西博士	外務省條約局編	外務省條約局編	外務省條約局編
國際事情	歐洲聯盟の必然性	聯盟十年	國際關係通鑑	時代の進運と國際聯盟	威海衛還付の爲めの條約	米國獨逸間調停並仲裁々々	戰爭地棄に關する條約	米國獨逸間調停並仲裁々々	戰爭地棄に關する條約
洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判
619	192	192	434	54	340	96	46	26	96
三、〇〇八	一、五〇二	一、五〇二	二、〇〇三	一、一五〇	一、一五〇	五、〇〇四	三、〇〇二	二、〇〇二	二、〇〇二
頌國際事情	第一出版社	協隆會社	協隆會社	協隆會社	出版大學	協隆會社	協隆會社	協隆會社	協隆會社
十月	九月	五月	七月	三月	十月	十一月	一月	一月	一月
▲「國際事情」昭和四年四月より昭和五年に至る六十餘部を材料として編めるもので、新賠償支拂案の概要其他。	▲歐洲諸國が如何にしてかゝる聯盟組織を必要とするかの事情を縱横に論述せるもので、ヨーロッパ合衆國の誕生外十一章。	▲建設十年後の國際聯盟の活動を如實に記述せるもので、聯盟の此頃、聯盟理事會、聯盟總會外一章。	▲日本支那米歐國際聯盟を中心として東支鐵道問題、太平洋會議、不戰條約、日支關係、經濟聯盟、倫敦海軍縮小會議。	▲軍國主義と侵略主義、精神的の連帶關係、米國と露國、移民問題、世界大戰後、ムソリニストレーゼマン、關稅休戰。	▲ヴェルサイユ、華府及ロンドンの三大國際會議と日本との因果關係を詳述したもので、關する取極、希臘支那間條約、領江英租界還付に關する交換公文。	▲英和文對譯、米國獨逸間調停條約、米國獨逸間仲裁々々判條約。	▲英佛和文對譯、戰爭地棄に關する條約、批准書寄託、條約の加盟國、條約第一條中の字句の解釋に關する日米間交換覺書。		

政治・社會 (國際・外交・植民)

東亞經濟調查局編	川村竹治	井上雅二	ウイン・ルーデル著 齋藤進譯	早坂二ワ 郎著	國際問題研究會編	外交時報社編	石井菊次郎	新渡部稻造編	外務省條約局編	
滿洲讀本 昭和五年版	臺灣の一年	移住と開拓 第一卷	スバイとスバイ (特高警察と軍事探偵)	國際スバイ戰	世界の王者は誰ぞ	支那關係條約集	外交餘錄	太平洋問題	上海の支那國法院に 關する協定	
並製 菊判	並製 菊判	並製 菊判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 菊判	
380	114	380	310	328	383	859	526	359	36	
一、〇〇 二、〇〇	三、〇〇 四、〇〇	一、五〇 二、〇〇	一、三〇 一、〇〇	一、三〇 一、〇〇	一、五〇 一、二〇	五、〇〇 一、八〇	三、八〇 一、八〇	一、三〇 一、〇〇	二、〇〇 三、〇〇	
東亞經濟 調查局	時事研究會	通日本植 民社	カオリ社	大衆公論社	アルス	外交時報社	岩波書店	題太平洋 調查會	盟國協 會聯	
月七	月九	月六	月九	月六	月八	月九	月六	月九	月八	
▲著しく經濟的發展をなせる滿洲の實相を述べたもので、滿洲の展望、滿洲の日本人、産業界の現状外六章。附録一章。	▲臺灣の現狀とその諸問題を概説するもので、總督の再興外五章。内地人の臺灣觀、日月潭電力工事の再興外五章。	▲南洋開拓事業の創始、盛衰の岐路に立てる日本、我國人口問題の特殊性と其の對策、カナダの移民事業外廿二章。	▲日米戦争は起るべきか起らぬか。歐洲大陸には今や如何なる危機をはらんでゐるか。列強スバイ戰の烈しき露骨さを述べた書。	▲日米戦争は起るべきか起らぬか。歐洲大陸に逆活動の近代的發展の跡を辿つてその組織、務活動の卓越せる密偵の三篇。	▲密偵の近代的發展の跡を辿つてその組織、務活動の卓越せる密偵の三篇。附録一章。	▲極東に於ける日米、世界に於ける英米が如何に猛烈に覇權を争つてゐるかを述べたもので、前に後兩篇より成る。附録一章。	▲各種の條約協定取極及び議定書其他を収めたもので、支那に關する多數國間條約、支那國と他國間條約外三篇。	▲約四十年に亘る著者の外交官生活を通じての歴史の資料たり得べきもの其他を収めたもので、日本外交概論外一篇。	▲昭和四年の秋わが京都に於て開かれたる第七回太平洋問題調查會大會の記録で、一九二七年第二回會議以後の活動經過其他。	▲英支和文對譯！支那國法院に關する協定！外交部長宛外國領事署名者往翰！各署名委員外交代表者宛個別的復翰。

政治・社會 (軍縮・國防・兵事)

本多熊太郎	朝日新聞社編	山川端夫	政治經濟部編	平田晉策	石丸藤太	本多熊太郎	馬郡健次郎	李浩水	金浩水
米國の脱帽 米國間の倫敦會議解説	ロンドン會議の真相 若槻全權報告講演	倫敦海軍々縮會議の成果	海軍縮小の話 附：統帥權論	軍縮批判	軍縮に目醒める 附：ロンドン軍縮會議の真相	軍縮會議と日本	滿蒙開發への躍進	朝鮮に於ける土地問題	滿蒙開發への躍進
並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判
103	43	124	216	66	397	119	211	127	211
三、〇〇 四、〇〇	一、〇〇 二、〇〇	五、〇〇 四、〇〇	五、〇〇 六、〇〇	二、〇〇 二、〇〇	一、六〇 一、〇〇	五、〇〇 六、〇〇	一、〇〇 六、〇〇	五、〇〇 四、〇〇	一、〇〇 六、〇〇
天人社	朝日新聞社	盟國協 會聯	朝日新聞社	天人社	萬里閣	外交時報社	人格社	勞働者書房	人格社
月九	月七	月一十	月七	月八	月五	月一	月二十	月九	月二十
▲米國上院の外交、海軍兩委員會に於ける論戰の速記で、海軍の立場より見たる條約の價値外八章。附千九百三十年倫敦海軍條約。	▲會議開會前と軍縮會議一條約の主要問題！英米の態度！我が三大原則！附録、不戰條約！倫敦條約（華府條約と對照）。	▲會議開會前と軍縮會議一條約の主要問題！英米の態度！我が三大原則！附録、不戰條約！倫敦條約（華府條約と對照）。	▲會議開會前と軍縮會議一條約の主要問題！英米の態度！我が三大原則！附録、不戰條約！倫敦條約（華府條約と對照）。	▲會議開會前と軍縮會議一條約の主要問題！英米の態度！我が三大原則！附録、不戰條約！倫敦條約（華府條約と對照）。	▲會議開會前と軍縮會議一條約の主要問題！英米の態度！我が三大原則！附録、不戰條約！倫敦條約（華府條約と對照）。	▲會議開會前と軍縮會議一條約の主要問題！英米の態度！我が三大原則！附録、不戰條約！倫敦條約（華府條約と對照）。	▲會議開會前と軍縮會議一條約の主要問題！英米の態度！我が三大原則！附録、不戰條約！倫敦條約（華府條約と對照）。	▲會議開會前と軍縮會議一條約の主要問題！英米の態度！我が三大原則！附録、不戰條約！倫敦條約（華府條約と對照）。	▲會議開會前と軍縮會議一條約の主要問題！英米の態度！我が三大原則！附録、不戰條約！倫敦條約（華府條約と對照）。

軍縮・國防・兵事

政治・社會 (軍縮・國防・兵事)

平田晋策	石尾市太郎	高津正道	ゴロウイン著 石丸藤太譯	西野雄治	村田懸磨	河村幹雄	佐藤清勝	富士辰馬譯	平田晋策
軍縮の太平洋戦争 不安と	大西洋より太平洋へ	第二の世界大戦 英米の争覇	太平洋防 世界第二大戦	次の極東戦争 米國側の論	次の戦争と我海軍	日米不戦論	皇國の日米戦近し 危機	アメリカは如何に 日本と戦ふか?	米國は日本に挑戦するか
並四六判 製入	並四六判 製入	並四六判 製	上四六判 製	並四六判 製	上四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製
214	296	301	304	358	289	153	208	256	55
九〇 六	一三〇 八	一三〇 八	一五〇 八	一〇〇 六	一〇〇 八	六〇 四	八〇 六	一三〇 二	三〇 二
天人社	鹽川書房	大鳳閣	萬里閣	朝風社	目白書院	海軍研究社	宮本武林堂	大衆公論社	政教社
月五	月二	月九	月九	月二十	月五	月三	月八	月五	月四
▲ロンドン條約效力發生後の我海軍が果して ▲国防を全うするや否やを精細に検討するもの で、ロンドン海戦の敗北外十八章。	▲大戦前の世界列強の動きより戦後の國防問 題をあらゆる方面より觀察批判せるもので、 大戦の世界的影響外廿章。	▲第二の世界大戦來を具體的事實に基いて論 證せるもので、米國共産黨の見解、なぜ英米は 必ず戦ふか? 外十五章。	▲ワシントン會議以來今日に至る迄の露國兵 題を介紹するもの。	▲陸軍の民衆化を目標とし、陸軍の真相を平易 に説けるもので、人口問題、國防の本質帝國 陸軍の重責外廿章。	▲日米戦争を豫想しての海軍政策に涉つて論 述せるもので、戦争か革命か、海軍の任務、 艦隊の編制の三篇。	▲戦はずして亞米利加を屈服させるにはどう すればよいかを説いたもので、日米に既に戦 ひつゝあり外四十篇。	▲亡國の實例、我等の敵、世界形勢の變化、 日本外七章。米國の對外政策、米國の海軍 擴張外七章。	▲精密的確な統計の研究に於て世界に冠絶す るロシア海軍當局より發表された日米未來戰 争の戦争と戦略を述べたもの。	▲著者と米國大使の問答及び大使武官に 對する公開状態で、米國大使會見記、米國海軍 政策に對する疑問の二篇。

政治・社會 (軍縮・國防・兵事)

池崎忠孝	平田晋策	岡田銘太郎	佐藤鐵太郎	佐藤六平	福永恭助	三家信郎	海軍省教育局編	海軍省教育局編	兵林館研究部編
米國怖るゝに足らず	極東戦争と米國海軍	列強太平洋争覇の實想と 帝國の自衛	國防新論	國防原論	海軍物語	海軍の物語	陸戦操式	陸戦教範	教練銃取扱上の危害豫防法
並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並三五判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製
300	319	210	464	350	266	148	300	300	37
七〇 八	一三〇 八	一〇〇 〇	二〇〇 〇	一八〇 八	一三〇 八	一〇〇 二	二〇 四	三〇 四	二五 二
先進社	天人社	自衛社	民友社	兵用圖書社	一元社	誠文堂	兵用圖書社	兵用圖書社	兵林館
月二十	月二十	月二十	月一	月八	月九	月二十	月九	月八	月四
▲ハリマンの現勢、日米必戦、陸戦か、海戦か、 ▲日米海軍の現勢、普及版、 ▲軍縮後の日米海軍、極東策戦を縦横に解剖 リカのもの、中華民國の挑戦、帝國主義アメ リカの攻勢外六篇、附録二篇。	▲戦争とは何ぞ、近世戦争の性質、國防とは 何ぞ、國防の手段、太平洋問題、國際競争の 實相外四章にて論述。	▲帝國國防の本義に就き論述せるもので、國 防問題に對する吾輩の境遇、帝國國體と軍備 帝國國防の本義外十七章。	▲世界の大勢を對象として國防の基礎觀念を 徹底的に紹介し、國防の原理を高調せるも の。	▲日本を始め列強海軍のプロファイルを描いた 海軍のナンセンス四篇外六篇。	▲現在の我國海軍に就て物語つたもので、沿 世の道外七章。	▲海軍用教本にして陸戦隊の各個教練より大 隊教練射撃に到る迄詳記したる陸軍の歩兵操 典なり。	▲海軍の陸戦隊としての必須の教本にして陸 軍の戦争綱要陣中要務令に相當するもの。	▲學校又は青年訓練所生徒が教練銃を使用す る際の危害豫防法を記す。	

政治・社會 (地方行政)

兵林館研究部編	陸軍省編	陸軍航空本部編	陸軍省醫務局編	陸軍省編	小林 登里	日本國防普及會編	自治研究同人編	
教練銃取扱保存法	機關銃歩兵砲射擊教範	飛行機工教程	陸軍藥局法	軍隊教育令	入營者の心得	壯丁營門を眺めて	自治研究全集 第五卷	
四六判 並製 24	洋布 珍製 200	洋布 珍製 230	洋布 珍製 550	洋布 珍製 200	並製 四六判 110	洋布 珍製 300	洋布 珍製 1700	
二五	二五	二五	二五	二五	四〇	七〇	六四〇	
兵林館	兵用圖書社	兵用圖書社	兵用圖書社	兵用圖書社	文藝社	水明書院	良書普及會	
月三	月四	月十	月九	月十	月二十	月五	月一	
▲學校又は青年訓練所生徒の教練銃の取扱方法及びこれが入手方法を記す。	▲歩兵、騎兵、砲兵、輜重兵に於ける機關銃、歩兵の歩兵砲の射撃方法を詳細説明記載す。	▲航空兵諸軍隊に於ける飛行機工術の教程を示せるもの。	▲日本藥局法と同様のものにて陸軍獨得の藥局法。	▲日本軍隊の堅確なる軍人精神並嚴肅なる軍紀の要素を涵養するを主眼とす教育の基礎となるもの。	▲兵役に關する意義から、現役兵の一般の智識、國民兵の心得、補充兵の心得、點呼の心得、其の他陸軍に關するすべてを書く。	▲兵役法關係の諸問題、短期現役と幹部候補生、下士及憲兵志願、教育と内務等六章百七十節にて論述。	▲地方自治の骨子及精神に就いて述べたもので、地方自治の觀念、地方自治制度の沿革、外五章。附録地方自治制度の改正要旨。	▲地方自治行政並に其の事務に關する學術研究の昭々乃至實際問題を検討せる月刊誌自治研究の昭和四年度分合本。索引。

政治・社會 (支那事情)

富田 健治	警察と政治	警察行政の理論と實際	警察研究同人編	警察研究	警察年鑑	警察閑話	消防寫真帖	支那事情	支那研究	支那土地制度研究	長野 朗
上四六判 240	布裝 一、八〇	布裝 一、八〇	青函菊 革入判 1500	青函菊 革入判 1500	並製 四六判 45	並製 四六判 210	洋判四六倍 布入判 103	並製 四六判 335	並製 四六判 441	洋判四六倍 布入判 424	支那事情 (支那事情)
一、六〇	一、八〇	一、八〇	五、六〇	五、六〇	二、〇〇	一、八〇	三、〇〇	一、五〇	三、〇〇	二、二〇	政治・社會 (支那事情)
良書普及會	東京弘文館	良書普及會	良書普及會	良書普及會	警眼社	警眼社	消防日學會本	東亞同文會	岩波書店	刀江書院	支那事情 (支那事情)
月一	月五	月五	月二十	月二十	月四	月四	月一十	月三	月六	月十	支那事情 (支那事情)
▲反國家的運動の有ゆる闘争乃至思想運動に於ける其の實際を徹し眞摯なる檢討と警察戰術の秘策を如實に取扱つたもの。	▲警察法論、警察實務論警察より見たる社會批判の三大綱領の下に理論と實際の研究、歐米各國の警察制度批判其他の詳説。	▲警察行政及其の事務に關する學術研究乃至實際問題を検討せる月刊誌警察研究の昭和五年分合本。索引。	▲一道三府四十三縣樺太臺灣朝鮮關東廳南洋廳等我版圖に屬する一切の警察事項を網羅せるもの。	▲隨感、隨筆、翻譯、感想、資料等數十篇を蒐めたるもの。	▲昭和四年春の帝都消防出初式に於ける天皇陛下の全國消防御親閱に初め全國組頭會議、大日本消防協會發會式等を收む。	▲内部の情勢(甲午役後の清國外五章)外務の壓迫(敵と味方外六章)我邦の對支那策(當局政府の無策外一章)。	▲現代支那研究の態度(飯西利八郎)新しき中華民國の建設と日支兩國の關係(王大楨)外専門家十氏の支那研究を收む。	▲支那の政治社會經濟の根本をなす土地制度に就いて述べたもので、土地制度の沿革、土地の整理外三篇。			

長野 朗	支那の真相	並四六判 製入判	296	一、五〇 一、二〇	千倉書房	月六	▲刻下の緊急問題たる全支那の真相に就て説いたもので、政治篇、外交篇、經濟篇、社會篇の四篇。附録三民主義。
山口慎一 譯編	支那問題研究資料 第一輯	並四六判 製	221	六〇 四〇	黎明社	月二十	▲支那國民革命と社會階級(陳獨秀)支那資產階級の發展(屈維宅)支那國民革命の指導者は誰か?(彭述之)外五章。
山口慎一 譯編	支那問題研究資料 第二輯	並四六判 製	142	五〇 四〇	黎明社	月二十	▲支那のソヴェート政權と社會主義、支那革命は低落したか?二つの國內戦争、八七會議と一年來の支那革命外四章。
稻坂 結	近世支那外交史	洋函菊 布入判	420	三、五〇 二、四〇	章華社	月四	▲近世支那の外交史を説いてわが東洋外交史學界に一石を投じたもの。
矢野 仁一	近世支那外交史	洋函菊 布入判	1000	八、五〇 四、五〇	弘文堂書房	月六	▲十六世紀初人の渡來に始り、十九世紀日清戦争直前に及ぶ。史料として歐支支那文凡てを涉獵す。
長野 朗	支那革命史	並四六判 製	303	一、〇〇 八	改造社	月一十	▲全世界が等しく見詰めてゐる今世紀の最大の問題たる支那の革命を政治、社會、經濟の各方面から討究せるもの。
山口慎一 譯編	支那革命論文集	並四六判 製	221	九〇 四	スマ書房	月一	▲支那革命發展の歴史を如實に描かれた支那國民革命と社會各階級(陳獨秀)黨と日和見主義(蔡和森)外論文六篇。
鈴江 言一	支那革命の階級對立	布函四六判 製入判	512	二、〇〇 一、二〇	大鳳閣	月九	▲軍閥及官僚、地主土豪劣紳並に農民、ブルジョアジリ帝國主義、インテリゲンチヤ、労働者等五章にて論述。
プロレタリア科學研究所編	支那の大革命	並四六判 製	260	五〇 六	共生閣	月二十	▲支那革命研究の意義、帝國主義の侵入と軍閥支配、反帝國主義反軍閥の闘争、農業革命の進展外三章。
村田 孜郎	支那の左翼戰線	上四六判 製	328	一、五〇 一、八	萬里閣	月四	▲支那に於ける左傾運動の歴史を概括的に收めたもので、三月革命記、萌芽時代、中國共產黨の組織外十三篇。

田中 忠夫	革命支那農村の實證的研究	布函菊 製入判	444	二、五〇 一、八	衆人社	月二	▲支那人としての立場に立つての支那研究で支那農村組織外六篇。
安倍 源基	國民黨と支那革命 ―共產黨との關係―	洋函四六判 布入判	322	一、五〇 二、二	人格社	月九	▲國民黨の前身時代より説き起して最近に至る迄の革命運動を敘述し其の現状を批判し將來に論及せるもの。
北川 鹿藏	パンツングーシズムと同胞の活路	並四六判 製	47	三〇 四	大通民論社	月一	▲日本の經濟的基礎と滿蒙の重要性、滿蒙人と日鮮人は同じ民族である、通族と漢族とは相和するから外四章。
プロレタリア科學研究所編	ソヴェート支那の成長	並四六判 製	171	五〇 四	共生閣	月一十	▲中華共産黨の現勢(藤枝丈夫)第一回支那政府(藤野啓次)外三篇。
平野 春江	日本と支那の將來	並四六判 製	296	一、〇〇 二	出雲岸版産場	月八	▲精論、支那民族の系統的思想、自然及經濟地理、人文地理、支那民族の心理外四章。
金崎 賢	支那の建設	和菊 製判	108	五〇 六	中協日會文	月二十	▲二十年來北京順時報の主筆として支那を凝視して來た著者が軍閥の横行と擾亂に終始する支那に對し自覺を促したるもの。
長野 朗	自由支那へ	上四六判 製	340	一、五〇 八	萬里閣	月二	▲日支關係の歸趨其他を極めて詳細に解剖せるもので、反文化侵略、政治侵略反對、國民黨と對外運動外六章。
岡部 三郎	三民主義	並四六判 製	80	二、五〇 二	三省堂	月一十	▲支那の三民主義に就いて解説した小冊子。
後藤 朝太郎	支那勞農階級の生活	並四六判 製	80	二、五〇 二	三省堂	月二	▲支那通の著者が中華民國の勞農階級の生活を述べた小冊子。
後藤 朝太郎	支那民情を語る	洋函菊 布入判	586	四、二〇 一、八	雄山閣	月六	▲春の南京城、愛國運動の裏面から見た支那の社會の印象、北京の宮城に深ふ民國の情緒、支那社會の印象外七十九篇。

政治・社會 (露西亞事情)

酒匂秀一	夏秋龜一	山内一雄	他和律	尾瀬敬止	露西亞通信社編	南滿洲鐵道株式會社庶務部調査課編	露西亞諸民族の研究	露西亞事情集 第十編	長永義正	後藤朝太郎
ロシヤはどうなる?	赤露の秘密	ソウエート共和國 その政治・經濟・社會	C・C・C・P エス・エス・エス・エル サウエート社會主義共和國國旗	新露西亞畫觀	露西亞事情集 第十編	露西亞諸民族の研究	露西亞事情集 第十編	グロテスク支那	哲人支那	
並製 四六判	上製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	上製 四六判	並製 四六判	洋函菊布入判	洋函菊布入判	上製 四六判	布裝 四六判	
272	296	258	306	155	307	287	287	283	335	
一、三〇六	一、五〇八	一、三〇八	一、五〇八	一、八〇八	一、〇〇六	三、八〇八	三、八〇八	一、五〇八	一、五〇八	
通日露貿易社	萬里閣	日本評論社	アルス	アルス	通露信西社	大阪毎日	大阪毎日	萬里閣	千倉書房	
月六	月十	月四	月四	月九	月三	月四	月四	月六	月一十	
▲ソウエート聯邦の今日と明日、ソウエート聯邦の對外關係外四篇。附録十三年史。	▲ソウエート聯邦の今日と明日、ソウエート聯邦の對外關係外四篇。附録十三年史。	▲ソウエート聯邦の今日と明日、ソウエート聯邦の對外關係外四篇。附録十三年史。	▲ソウエート聯邦の今日と明日、ソウエート聯邦の對外關係外四篇。附録十三年史。	▲ソウエート聯邦の今日と明日、ソウエート聯邦の對外關係外四篇。附録十三年史。	▲ソウエート聯邦の今日と明日、ソウエート聯邦の對外關係外四篇。附録十三年史。	▲ソウエート聯邦の今日と明日、ソウエート聯邦の對外關係外四篇。附録十三年史。	▲ソウエート聯邦の今日と明日、ソウエート聯邦の對外關係外四篇。附録十三年史。	▲ソウエート聯邦の今日と明日、ソウエート聯邦の對外關係外四篇。附録十三年史。	▲ソウエート聯邦の今日と明日、ソウエート聯邦の對外關係外四篇。附録十三年史。	▲ソウエート聯邦の今日と明日、ソウエート聯邦の對外關係外四篇。附録十三年史。

政治・社會 (露西亞事情)

堀利彦	北村巖	高山洋吉	伊藤銳太郎	伊藤好道	山内封介	白鳥計介	茂森唯士	南黒キ	トロッキ	北條不二夫
ロシヤ革命十一月七日	ロシヤ大革命秘史	輸入ロシヤ大革命史 第二卷	その時皇帝は何をしてゐた?	ソヴェート政權獲得史	資本主義の發達	資本主義の發達	ソヴェート國家の現勢	暴露されたソヴェートロシヤ	ソヴェートロシヤを覗く	
並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	
50	153	230	150	251	491	503	147	270	76	
二〇二	五〇四	一、五〇八	三〇四	五〇四	一、〇〇八	一、〇〇二	五〇四	七〇八	五〇四	
無産者	紅玉堂	南蠻書房	動世界社	南蠻書房	白揚社	白揚社	戦旗社	富士書房	紅玉堂	
月十	月三	月三	月六	月五	月二十	月二十	月六	月六	月九	
▲一九一七年十一月七日ロシヤに起つたプロレタリア革命を物語的に書いたもの。	▲一九一七年十一月七日ロシヤに起つたプロレタリア革命を物語的に書いたもの。	▲一九一七年十一月七日ロシヤに起つたプロレタリア革命を物語的に書いたもの。	▲一九一七年十一月七日ロシヤに起つたプロレタリア革命を物語的に書いたもの。	▲一九一七年十一月七日ロシヤに起つたプロレタリア革命を物語的に書いたもの。	▲一九一七年十一月七日ロシヤに起つたプロレタリア革命を物語的に書いたもの。	▲一九一七年十一月七日ロシヤに起つたプロレタリア革命を物語的に書いたもの。	▲一九一七年十一月七日ロシヤに起つたプロレタリア革命を物語的に書いたもの。	▲一九一七年十一月七日ロシヤに起つたプロレタリア革命を物語的に書いたもの。	▲一九一七年十一月七日ロシヤに起つたプロレタリア革命を物語的に書いたもの。	▲一九一七年十一月七日ロシヤに起つたプロレタリア革命を物語的に書いたもの。

政治・社會 (列國事情)

池田林儀	新興ドイツ魂	洋布	四六判	475	二、〇〇〇	萬里閣	月八	▲鈍重牛の如き獨逸民族が亡國の如き慘敗の窮苦に堪へ如何にして復興したかを述べたもので、獨逸復興の原動力外十篇。
露西亞通信社編	新興ロシアを語る	並製	四六判	155	五〇	通露信西社	月二十	▲ロシアの觀點(中平亮)最近ロシアの實相(近藤義晴)映畫業者の觀たるソヴェイト映畫(根岸耕一)外三篇。
山下徳治譯著	ソヴェイトロシア印象記	並製	四六判	100	七〇	自由社	月十	▲レニングラードは手掛を與へる、創られつつある新しき世界、ロシアの學校は何をして居るか外三篇。
昇曙夢	最近のソヴェイトロシア	並製	四六判	77	二五	三省堂	月二	▲最近のソヴェイトロシアの事情を各方面から簡単に述べた小冊子。
ロシヤ問題編	ソヴェイト・ロシヤ辭典	並製	四六判	370	一、〇〇〇	希望閣	月五	▲ソヴェイト、ロシアに於ける制度、組織、歴史、地理等の文獻事項及び有名な政治家、社會運動家其他の人名篇の二部にて收む。普及版。
希望閣譯	ソヴェイト同盟共産黨第十六回大會に於ける中央委員會の政治報告(スターリン)外四章を收む。	並製	四六判	193	五〇	希望閣	月九	▲ソヴェイト同盟共産黨第十六回大會に於ける中央委員會の政治報告(スターリン)外四章を收む。
潮博士著	農民運動	並製	四六判	225	八〇	叢文閣	月七	▲運動の前提條件となつたものを解明せるもので、農民組織外六章。一發賣禁止。
高山洋吉譯著	ロシア革命と労働組合	並製	四六判	84	三〇	スマル房ク	月四	▲「ロシア革命と工場委員會」及び「ロシア革命と労働組合運動」の二篇を收む。
戸ノグイエフ著	ロシア共産黨史	並製	四六判	279	五〇	希望閣	月一十	▲「ロシア革命と工場委員會」及び「ロシア革命と労働組合運動」の二篇を收む。

列國事情

政治・社會 (列國事情)

久允	鳩のアメリカを語る	並製	四六判	340	一、三〇〇	大鳳閣	月四	▲世界文化の最尖端を行くアメリカ、暗黒そのもの、アメリカの正體を暴露せるもので、モーゼの墓外四篇。
池崎忠孝	世界を脅威するアメリカニズム	並製	四六判	208	一、二〇〇	天人社	月四	▲世界を脅威するアメリカニズム、日本に於けるアメリカニズムの氾濫、アメリカの病根は何處にあるか外二篇。
清澤冽	アメリカを裸體にす	布裝	四六判	370	一、五〇〇	千倉書房	月一十	▲アメリカを脅威する中の問題、内と外から見た米國外一篇。
飯島正チ譯著	ムソソリイニ牢獄脱走記	並製	四六判	430	一、五〇〇	赤爐閣	月一十	▲數年の流刑に處せられたニツチガリバリ島に服役中同志二人と幾度か失敗を重ねた後脱走せる道程を克明に描けるもの。
北郷逆譯	反ファシズム闘争	並製	四六判	202	一、〇〇〇	大衆公論社	月二十	▲數年の流刑に處せられたニツチガリバリ島の二篇及附録一篇。
守田有秋	燃ゆる伯林	上製	四六判	311	一、三〇〇	平凡社	月七	▲戦争と革命の血を火に蓋はれたるヨーロッパに滞在した著者の體驗記で、未來を語る、自然及び人外二篇。
小杉史郎譯編	ソヴェイト・ドイツの樹立へ!	並製	四六判	91	四〇	新人社	月二十	▲選挙後に於けるドイツの危機(ノイパウエル)ドイツ社外八章の譯。
マネジメント社編	他山の石	並製	四六判	43	一〇	マメント社	月六	▲ドイツ人が祖國復興のために、何事も徹底的に無駄を省いて血の惨むやうな奮闘をしてゐる實例を蒐録したものである。
エルマヤ・ルーア著	革命が生んだ今日の獨逸	洋装布入判	四六判	269	一、八〇〇	第一出版社	月十	▲革命の原因、社會黨聯立内閣、ワイマール會議、條約の實施、通貨膨脹と安定、ロカールノ會議と産業復興外八章。
齋藤レ、ベル著	獨逸革命とその後	洋装布入判	四六判	324	二、〇〇〇	先進社	月六	▲世界大戦中の獨逸の社會主義、舊組織の倒壊、共倒れ争闘の開始、無産大衆の革命化、最近の狀勢外五章。

社會學・社會史

河村 陶川	排日戦線を突破しつゝ	並四六判 製入判	504	一、五〇 二、二	先進社	月二一	▲アメリカに於ける社會解剖と心理解剖で、排日戦線が旅外四篇。アンクルサムは語るわが文が旅外四篇。
ゴウノル 山知夫著	一億二千萬	並四六判 製入判	253	一、〇〇 六	世界社	月六	▲アメリカのプロレタリア生活スケッチで、一億二千萬外十六篇。
香川 巳之介著	世界の脅威アメリカニズム	並四六判 製入判	354	一、五〇 二、三	歐亞社	月二十	▲資本主義制度の代辯者としてのアメリカニズムに辛辣な批判を下せるもので、アメリカニズムと史的背景外十一篇。
安江 仙弘	猶太國を視る	上四六判 製入判	330	一、三〇 〇	織田書店	月二十	▲著者が半年間パレスタインに滞在し又歐洲各地の猶太有力者と會見して得たる觀察記で、赤化思想の源泉を敬摘せるもの。
貫 傳 松	社會學要論	洋四六判 布入判	214	一、五〇 二、二	法曹閣	月三	▲社會的結合關係及び結合構成の要素に關する論述で、本質論、構成論の二章七節より成る。
赤神 良讓	社會學入門	洋四六判 布入判	370	二、六〇 二、三	丁酉出版社	月九	▲社會學の大體を平易に説いたもので、社會學とはどんな科學であるか、社會學の分類と研究法外二章。
岡田 忠一	入門社會學講話	洋四六判 布入判	378	三、三〇 一、八	中文館	月四	▲學として其の取扱ふ問題の甚だ廣汎な社會學を平易に説述せるもので、社會生活、國家の社會的方面外三章。
永井 亨	社會の講話	並四六判 製入判	275	一、五〇 四	千倉書房	月一	▲轉換期に於かれた日本の社會に就いて説述せるもので、社會の組織と現象、道具と舞臺等五章廿九節。
杉山 榮	社會科學十二講	洋四六判 布入判	512	二、〇〇 二、三	新潮社	月二	▲マルクス、エンゲルスの多くの文獻中に散在してある社會理論を統一せるもので、科學とは何であるか外十一講。

カール 内正久著	社會問題二十五講	布四六判 製入判	571	二、五〇 二、二	改造社	月六	▲社會主義の本質及主要門派、カール・マルクスと國際的社會主義運動に對する彼の意義佛蘭西に於ける社會主義外廿一講。
フラン ス學會編	フランスの社會科學 —現代に於ける諸傾向—	洋四六判 布入判	609	三、八〇 一、八	刀江書院	月二	▲社會學經濟學政治學法律學心理學倫理學宗下十三氏が各分擔し論述す。
木村 毅	社會科學の話	並三五判 製入判	104	一、〇〇 二	誠文堂	月二十	▲社會科學の意義、社會科學の階級性、社會科學の研究方法、プロレタリア社會科學外二章にて論述す。
田中 惣五郎	東洋社會黨考	上四六判 製入判	300	一、七〇 八	一元社	月六	▲東洋社會黨並に樽井藤吉に關する精密な記述で、東洋社會黨考、東洋社會黨々則草案、樽井藤吉の手紙外六篇。
理想 社編	新興社會理論	並四六判 製入判	260	一、〇〇 二	理想社	月一十	▲我國の基本的階級の構成過程(波多野鼎)將來社會の構成形式としての労働組合(丸山岩吉)外九篇。
石濱 知行	社會變革過程の諸問題	布四六判 製入判	496	二、八〇 一、八	天人社	月十	▲現代資本主義社會の諸研究、労働史の諸研究、原始共同組織の諸研究、日本社會史の諸研究の四篇にて論述す。
本庄 榮次郎	近世封建社會の研究	布四六判 製入判	171	二、〇〇 四	改造社	月三	▲徳川時代の社會經濟上の變化と封建社會崩壞の事情とを論述せるもので、政治社會狀態財政の窮乏外八章。
山野 邊辰雄	社會組織と奴隸制度	洋四六判 布入判	238	一、五〇 二、二	明文堂	月十	▲遠く埃及時代の奴隸制度に筆を起しその變遷を述べ現時代の社會組織に論及せるもので、埃及時代に於ける奴隸制度外九章。
モルガ ン著	古代社會	並四六判 製入判	444	一、五〇 八	共生閣	月五	▲野蠻より未開を経て文明に至る人類進歩の徑路の研究で、發明及び發達を通じての知の發達外一篇十三章。
モルガ ン著	古代社會	並四六判 製入判	442	一、五〇 八	共生閣	月十	▲下巻は第二編、政府觀念の發達(つゞき)及び家族觀念の發達、財產觀念の發達の三編、四編を収めたもの。

高島素之	土田杏村	室伏高信	室伏高信	室伏高信	室伏高信	室伏高信	室伏高信	室伏高信	室伏高信
英雄崇拜と看板心理	文明は何處へ行く	全日本に呼びかける	モダン日本を語る	日本は何處へ行く	政治を暴露せよ	日本	全日本に呼びかける	東方人の理想	文明の還落
洋四六判 布八判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	新四六判 判並製	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判
362	338	313	313	205	103	307	313	312	325
一、五〇 二二	一、五〇 八	一、三〇 八	二、三〇 二	二、三〇 二	三〇 二	七〇 八	七〇 八	七〇 八	七〇 八
忠誠堂	千倉書房	田舎社	田舎社	田舎社	田舎社	忠誠堂	忠誠堂	忠誠堂	忠誠堂
月二十	月三	月二	月四	月四	月四	月七	月七	月七	月七
▲故高島素之氏晩年の諸論文を収めたもので、 欲的研究的傾向外廿四編の代理行使、社會思想の 観念的傾向外廿四編	▲現代文明に何を要求しようとするか、如何なる もので、文明のシグナル外九講	▲政治へ！政治へ！、何人のための日本であ るか、日本は何處へ行く、無産黨は何をいふ 新日本とは何か外十九章	▲日本をどうする、マルクスとエンゲルス、 アメリカニズムとソヴエチニズム、モダン日 本を語る外四章	▲現實を語る、日本は何處へ行く、何を彼等 はおぼんちやる、希望手絶望乎！なんぢの認 識を戦ひとれ外二章	▲政治へ！政治へ！強盗の巢、六百のおしや べりの驢馬、政黨の社會學、何人のための日 本であるか外二章	▲日本について、商工日本手農村日本手、商 工日本手農村日本手其の二、日本の理想外三 章、普及版	▲政治へ！政治へ！これがわれわれの日本だ れ！希望手絶望乎！なんぢの認識を戦ひと れ！外一章、普及版	▲東方人の宣言、光は東方より、東洋の政治 思想、東洋の社會經濟思想、東方人の理想外 七章、普及版	▲文明の没落（自由國と奴隸國、自由社會に ついて外五章）土に還る（進歩手没落乎、機 會の論理外五章）普及版

社會思想・社會主義・思想問題

室伏高信	室伏高信	室伏高信	布利秋	内山賢次	佐藤莊一郎	加藤朝鳥	加藤朝鳥	小池エ四郎	河合榮治郎
街頭の社會學	反亂の社會學	日本没落か？	裸體禮讀	二〇三〇年の世界	世界は動く	革命草案	汝の靴を見よ	思想體系	思想體系
並四六判	並四六判	並四六判	上四六判	上四六判	洋四六判	並四六判	並四六判	市面菊 裝入判	市面菊 裝入判
343	353	446	256	334	375	247	56	582	582
七〇 八	七〇 八	一、八〇 二	一、三〇 八	一、八〇 二	一、五〇 二	一、〇〇 八	二〇 四	四、〇〇 一八	四、〇〇 一八
忠誠堂	忠誠堂	萬里閣	萬里閣	先進社	東京堂	アルス	クララ社	日本評論社	日本評論社
月七	月七	月六	月二十	月九	月九	月六	月七	月七	月七
▲故文明は何處へ行く、鶴見祐輔の解剖、評論 とは何か、金！金！金！、何人と結婚す可き 乎外廿三章	▲日本への反亂、共產主義は革命的であるか 新聞について、没落期の女性を讚美す、社會 主義者としての老子外廿六章、普及版	▲近代日本の社會機構を遺憾なく解剖せるも ので、貴族のピフテキ主義、更生のない青年 日本娘のトタン張り外二百六十三章	▲裸體が如何に自然であるか、美であるか其 他を凡ゆる方面から科學的に検討せるもので 裸體主義とは何か？外十五章	▲次の百年間に於ける世界のあり得べき發展 を取扱つたエツセイを収めたもので、二〇三 〇年の世界外八章	▲人間は違つたものになる、修正下のデモク ラシイ、アメリカに與ふる言葉、共產主義と 魔術外論説廿篇	▲人生と宗教、近代宗教の客觀的表現、現代 の勢力ある各近代式國家の實力及びその抗争 力外十五篇、改訂版	▲靴から見た世界、靴のために苦勞をしない 階級、財産所有者の我儘、社會主義は可能か 外一章	▲千八百七十八年代の英國、英國理想主義と 學風外十一章、索引	▲千八百七十八年代の英國、英國理想主義と 學風外十一章、索引

政治・社會 (社會思想・社會主義・思想問題)

河合榮治郎	ボグダノフ著 雄譯	山川均	堀田昇一	ラウドブルッフ著 昌譯	エンゲルス著 彦譯	堺利彦	堺利彦	ライトブルッフ著 昌譯	ムジエ著 藪譯
グリーンの思想體系	社會意識學概論	社會主義の講話	社會主義入門	社會主義文化論	社會主義的發展	社會主義學說大要	社會主義大意	社會主義文化論	女性に對する社會主義の修正
布面裝入判	菊半截	布面裝入判	布面裝入判	布面裝入判	布面裝入判	布面裝入判	布面裝入判	布面裝入判	布面裝入判
692	382	320	137	122	288	80	34	130	271
五、〇〇〇	四〇〇	一、五〇〇	五〇〇	六〇〇	七〇〇	三〇〇	二〇〇	六〇〇	一、八〇〇
日本評論社	改造社	千倉書房	紅玉堂	同文館	白揚社	無産社	無産社	同文館	萬里閣
月十	月十	月二	月十	月十	月十	月十	月一	月十	月五
▲グリーンの道徳哲學、グリーンの社會思想外、第二章にて論述。附索引。	▲イデオロギイの科學的體系的的研究を問答體に收めたもので、原始イデオロギイの時代、權威的イデオロギイの時代、現代の時代、社會主義とは何か? 現代生活の疑惑と不満、社會主義とは何か? 外十四章。附録十五章。	▲近世社會主義の誕生、資本主義社會の發展、資本主義の發展は如何にしてその崩壊を導くか外二章。附録禁止!	▲經濟形態と觀念形態、社會主義的協同思想、社會主義の文化理念、民主主義の危機、社會主義と國民外四章。	▲空想的社會主義、マルクスの二大發見、科學的社會主義等三章より成る、附録唯物史觀について外三章。	▲マルクス學說を簡単に理解するための手引として書かれたもので、無産階級の獨立の學問、唯物史觀解説其他。	▲社會主義の本質を論じ、無産階級の理論が終に帝國主義戦争反對理由を明にす。	▲經濟形態と觀念形態、社會主義の文化理念、民主主義と我等、社會主義と法律、社會主義の家族觀、ゲエーテと我等。	▲パアナアド・ショウ氏の論旨を批判し、私産物とは何ぞや外十六章。	▲社會主義と資本主義、政良的手段に依る社會主義の發展、附録一篇。

政治・社會 (社會思想・社會主義・思想問題)

麻生久	室伏高信	室伏高信	津久井龍雄	黒色青年聯盟編	文藝社編	巴トリック著 山田敬徳譯	社會理想研究會編	室伏高信	ベン・リッジ著 大譯
社會主義の講話	共産主義の講話	無政府主義の講話	國家社會主義問答	無政府主義論集	理想郷物語	社會改造運動の心理學的考察	バクレーニン全集	田園・工場・仕事場	近代青年の叛逆
三五判	三五判	三五判	四六判	四六判	菊半截	四六判	四六判	四六判	四六判
106	106	106	42	64	74	238	285	313	437
一〇〇	一〇〇	一〇〇	二〇〇	二〇〇	一五〇	一〇〇	八〇〇	七〇〇	一、五〇〇
誠文堂	誠文堂	誠文堂	政治批判社	黒色青年聯盟	文藝社	立命館大學出版部	近代評論社	忠誠堂	春秋社
月一十	月一十	月一十	月十	月一十	月三	月二十	月一	月七	月三
▲社會主義と資本主義、政良的手段に依る社會主義の發展、附録一篇。	▲國家としての一つの國家形態であるか外十項。	▲古代社會、社會主義的と無政府主義的、支那の無政府主義、無政府主義とは何か、經濟的國家社會主義に就ての質問に答へたもので、國家擁護の理論的根據、反動的愛國運動と如何に對立するか外三章。	▲無政府主義の理論と實際を簡明にし、したるもの。	▲結婚の延引、分配について外十六項にて社會思想の目標としてあるかを説く。	▲現時流行の社會改良案を検討せるもので、學向後の第一歩外五章。附録一篇。	▲パリ・コンミュンと國家概念(新居格譯)ジュラ同盟への書翰・ジュラ同盟の仲間(原五郎譯)外七篇を収む。	▲工場、農業の可能性、小工業と工業的村落、頭腦労働と手仕事外五章より成るクロボトキンの論說。附録一篇。	▲キリアの神祕的幽幻境、フラツパー國の因襲、愚行の道を開く鍵、子供の三時代、秘密希望のスクリーン外廿八章。	▲社會主義の神祕的幽幻境、フラツパー國の因襲、愚行の道を開く鍵、子供の三時代、秘密希望のスクリーン外廿八章。

菊田 一 雄	土田 杏村	室伏 高信	室伏 高信	新居 格 譯	小池 四 郎 譯	赤松 克 磨	赤神 良 讓	井 森 陸 平	内 田 繁 隆
社会はどうかなる? —資本主義社会の批判—	マルキシズム批判	社会思想批判	社会思想批判	資本主義? 社会主義? 共産主義?	社会主義か資本主義か —世界の観念を異めたマルクスの大論—	社会民主主義の旗の下に	反対表現の思想	プロレタリア解放思想批判	日本政治思想史
並 四六判 製 14)	並 四六判 製 310	並 四六判 製 343	並 四六判 製 374	並 四六判 製 123	並 四六判 製 269	並 四六判 製 228	並 四六判 製 338	並 四六判 製 244	布 菊 四六判 製 451
一、〇〇 二	一、〇〇 二	七〇 八	七〇 八	三〇 四	一、二〇 八	七〇 六	一、三〇 〇	九〇 八	三、五〇 一八
マ ス ル ク	第 一 書 房	忠 誠 堂	忠 誠 堂	天 人 社	千 倉 書 房	忠 誠 堂	天 人 社	廣 文 堂	巖 松 堂
月 七	月 七	月 七	月 七	月 五	月 七	月 一 十	月 九	月 九	月 一 十
▲資本主義社会の特色、利潤を得る道、資本世界の現勢等六章。—改訂版—	▲国家社会主義、共産主義、無政府主義、サングリカリズム、モリスの藝術的社会主義外六章。附録社会主義。—普及版—	▲共産主義(共産主義の理論、共産主義の農民政策外一章) —普及版—	▲セリグマンの資本主義、プロクウエーの立場から論議せるもの。共産主義をそれら	▲社会主義か資本主義の何れかを選びとらねばならぬ岐路に立つ。英國國民の議會に於ける大論戦を収めたもの。	▲共産主義運動に對する批判で、共産黨嚴正か外十章。産業合理化を如何に認識し如何に闘ふ	▲人間思想反對表現の法則、社会過程の螺旋社会人線外八項。	▲社会主義の諸分派、マルキシズムの人世觀唯、我が國體とマルキシズム。	▲日本の思想史を一つの學史として系統づけ中世より明治維新迄を中心に思想史の發展に伴ふ政治乃至社会史的研究を遂ぐ。	▲右傾と左傾の十字街に立てる我が國の思想問題を取扱つたもので、我等の國家外甘講及び社会問題外卅章の批判を収む。

岡本 瓊 二	池 岡 直 孝	細野 雲 外	奥田 宏 雲 編	奥田 宏 雲 編	杉山 謙 治	森 戸 辰 男	藤村 一 雄
思想問題講話 —思想問題解説批判—	最近思想問題批判	思想悪化の因	現代思想と宗教	社会科学と宗教	日本学生思想運動史	大学の顛落	学生思想問題雑話 —高等はどうかして下傾したか—
並 菊 四六判 製 290)	並 菊 四六判 製 446	洋 菊 四六判 布八判 644	並 菊 四六判 製 154	並 菊 四六判 製 159	並 菊 四六判 製 157	並 菊 四六判 製 110	並 菊 四六判 製 169
一、〇〇 二	三、〇〇 二	三、八〇 一八	八〇 四	八〇 四	五〇 六	三〇 四	八〇 四
第 一 協 會 出	株 明 治 會 社	巖 松 堂	大 東 出 版 社	大 東 出 版 社	基 督 者 学 生 運 動 出 版 部	同 人 社	日 本 評 論 社
月	月 四	月 四	月 十	月 十	月 十	月 五	月 二
▲右傾と左傾の十字街に立てる我が國の思想問題を取扱つたもので、我等の國家外甘講及び社会問題外卅章の批判を収む。	▲最近の思想問題を批判し日本に於ける社会主義思想及運動の發達史等を論述せるもので思想及思想問題外八章。	▲新聞紙の社会記事と資料として記述したもので、教育界の實相、宗教界の實相、社会環境の三篇。	▲社会宗教としての佛教—渡邊海旭、現代思想と野圓空外六篇。附録 闘争と宗教の起原	▲宗教と社会運動—赤松克磨、マルキシズムと二木保茂外十一篇。	▲深刻化してきた現代学生層に於ける思想問題—学生思想運動乃至無産青年運動史の二章にて説述。	▲文化的制度としての全大學を社会的、文化史的観點から根本的に検討せるもので、大學の顛落外二篇。	▲学生思想問題について其の實情を明らかにせるもので、どうして彼等は左傾したか、父兄の立場外五篇。

マルキシズム・レーニズム

▲哲学、経済学、社会主義空想的社會主義から科学的社會主義等三編十三章にて論述。

政治・社會 (マルキシズム・レーニズム)

青木俊三	秀文	山内房吉	セムコフスキイ編	セムコフスキイ編	セムコフスキイ編	上村正夫	ソヴェート科學	ソヴェート科學	ブレイハノフ	太田泰二	バレーニ	永田廣志	レニ	新城信一	バシユカニ	佐藤榮	青木恵一	平田良衛	河上辰男	森戸辰男	山田辰男	由利保一	リヤザノフ	三木清	
マルクス主義への道	マルクス主義十八講	マルクス思想讀本	マルクス學教科書	マルクス學教科書	マルクス學教科書	マルクス主義綱領問題	マルクス主義の旗の下に	マルクス主義の旗の下に	マルクス主義の根本問題	マルクス主義の根本問題	マルクス主義基礎理論	マルクス主義と婦人問題	マルクス主義と婦人問題	マルクス主義と婦人問題	マルクス主義と法理學	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話
四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	
440	244	248	314	306	274	116	297	263	151	225	100	374	208	208	213	355	261	226	226	226	226	226	226	226	
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	五〇	一〇〇	八〇	二〇	五〇	一〇〇	七〇	七〇	七〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
共生閣	秀文閣	弘文社	スマ書房	スマ書房	スマ書房	共生閣	プロレタリア科學研究所	プロレタリア科學研究所	共生閣	紅玉堂	共生閣	共生閣	共生閣	共生閣	共生閣	スマ書房	共生閣	我等社	希望閣	希望閣	希望閣	希望閣	希望閣	希望閣	
月七	月五	月四	月七	月七	月七	月十	月九	月二十	月九	月四	月二十	月二十	月九	月九	月五	月九	月六	月六	月六	月六	月六	月六	月七	月七	
▲一青年労働者の苦しい経験、眞理の探究等をテーマとするもので、マルクス主義への道をツアリの牢獄にて外一篇。	▲社會主義・共産主義・無政府主義(堺利彦)マルクスの生涯と學說(細道兼光)エンゲルスの生涯と其著作(福富正雄)外十五講。	▲プロレタリアートの解放への道を照らすマルクス主義の社會學外三篇。	▲社會進化の鐵則、資本主義最後の段階、ユートピア及科學的社會主義の三篇を説けるもの。	▲マルキシズムの史的準備、ダーウインとマルクス、自然的條件と技術、基礎及上層建築の理論外二篇。	▲第四卷は辯證法、辯證法的唯物論、世界觀としてのマルキシズムの三篇を収めたもの。附録第三篇史的唯物論への補遺。	▲カール・マルクスの一八七五年社會民主黨綱領の批判、ゴータ綱領草案に對するフリードリヒ・エンゲルスの見解外一篇。	▲モスコフに於て發行されてゐる「マルクス主義の旗の下に」誌の諸論文を譯出して編輯せるもの。	▲階級理論と資本主義社會における階級闘争(エヌ・ゴニークマン)音楽と階級闘争(イ・オルロフ)外二篇。	▲辯證法的唯物論を組織立て、説明せるもので、マルクス主義の根本問題、辯證法と論理學外一篇。	▲マルクス及びエンゲルスの生涯とその學說を収めたもので、カール・マルクスの生涯外二篇。	▲マルクスの學說、國際労働運動に於けるマルクス主義のための闘争、宗教及び求神に抗して外七章。	▲現代婦人に課せられた任務を論じ更にマルクス主義的批判を加へたもので、マルクス主義と結婚問題外三篇。	▲法的一般理論の諸課題、抽象的諸科學における具體的なるもの、構成の方法、イデオロギーと法外五章。	▲マルクス、エンゲルス、レーニン等の國際プロレタリアートの指導者達の農民問題に關する意見を紹介せるもの。	▲近代農業の資本主義的特質(カウツキー)土地收獲遞減の法則(コルデーフ)外二篇。	▲マルクス、エンゲルスの遺稿、フオイエルバツハに關するテーゼ(河上肇譯)フオイエルバツハ論(森戸辰男、櫛田辰藏共譯)を収む。	▲リヤザノフ編、マルクス及びエンゲルスの遺稿「ドイツチエ・イデオロギー」を譯せるもの。	▲フオイエルバツハに關するテーゼ、唯物論的見方と觀念的見方との對立(五項)其他。							

政治・社會 (マルキシズム・レーニズム)

青木俊三	秀文	山内房吉	セムコフスキイ編	セムコフスキイ編	セムコフスキイ編	上村正夫	ソヴェート科學	ソヴェート科學	ブレイハノフ	太田泰二	バレーニ	永田廣志	レニ	新城信一	バシユカニ	佐藤榮	青木恵一	平田良衛	河上辰男	森戸辰男	山田辰男	由利保一	リヤザノフ	三木清
マルクス主義への道	マルクス主義十八講	マルクス思想讀本	マルクス學教科書	マルクス學教科書	マルクス學教科書	マルクス主義綱領問題	マルクス主義の旗の下に	マルクス主義の旗の下に	マルクス主義の根本問題	マルクス主義の根本問題	マルクス主義基礎理論	マルクス主義と婦人問題	マルクス主義と婦人問題	マルクス主義と婦人問題	マルクス主義と法理學	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話	マルクス主義農民問題講話
四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判
440	244	248	314	306	274	116	297	263	151	225	100	374	208	208	213	355	261	226	226	226	226	226	226	226
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	五〇	一〇〇	八〇	二〇	五〇	一〇〇	七〇	七〇	七〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
共生閣	秀文閣	弘文社	スマ書房	スマ書房	スマ書房	共生閣	プロレタリア科學研究所	プロレタリア科學研究所	共生閣	紅玉堂	共生閣	共生閣	共生閣	共生閣	共生閣	スマ書房	共生閣	我等社	希望閣	希望閣	希望閣	希望閣	希望閣	希望閣
月七	月五	月四	月七	月七	月七	月十	月九	月二十	月九	月四	月二十	月二十	月九	月九	月五	月九	月六	月六	月六	月六	月六	月六	月七	月七
▲一青年労働者の苦しい経験、眞理の探究等をテーマとするもので、マルクス主義への道をツアリの牢獄にて外一篇。	▲社會主義・共産主義・無政府主義(堺利彦)マルクスの生涯と學說(細道兼光)エンゲルスの生涯と其著作(福富正雄)外十五講。	▲プロレタリアートの解放への道を照らすマルクス主義の社會學外三篇。	▲社會進化の鐵則、資本主義最後の段階、ユートピア及科學的社會主義の三篇を説けるもの。	▲マルキシズムの史的準備、ダーウインとマルクス、自然的條件と技術、基礎及上層建築の理論外二篇。	▲第四卷は辯證法、辯證法的唯物論、世界觀としてのマルキシズムの三篇を収めたもの。附録第三篇史的唯物論への補遺。	▲カール・マルクスの一八七五年社會民主黨綱領の批判、ゴータ綱領草案に對するフリードリヒ・エンゲルスの見解外一篇。	▲モスコフに於て發行されてゐる「マルクス主義の旗の下に」誌の諸論文を譯出して編輯せるもの。	▲階級理論と資本主義社會における階級闘争(エヌ・ゴニークマン)音楽と階級闘争(イ・オルロフ)外二篇。	▲辯證法的唯物論を組織立て、説明せるもので、マルクス主義の根本問題、辯證法と論理學外一篇。	▲マルクス及びエンゲルスの生涯とその學說を収めたもので、カール・マルクスの生涯外二篇。	▲マルクスの學說、國際労働運動に於けるマルクス主義のための闘争、宗教及び求神に抗して外七章。	▲現代婦人に課せられた任務を論じ更にマルクス主義的批判を加へたもので、マルクス主義と結婚問題外三篇。	▲法的一般理論の諸課題、抽象的諸科學における具體的なるもの、構成の方法、イデオロギーと法外五章。	▲マルクス、エンゲルス、レーニン等の國際プロレタリアートの指導者達の農民問題に關する意見を紹介せるもの。	▲近代農業の資本主義的特質(カウツキー)土地收獲遞減の法則(コルデーフ)外二篇。	▲マルクス、エンゲルスの遺稿、フオイエルバツハに關するテーゼ(河上肇譯)フオイエルバツハ論(森戸辰男、櫛田辰藏共譯)を収む。	▲リヤザノフ編、マルクス及びエンゲルスの遺稿「ドイツチエ・イデオロギー」を譯せるもの。	▲フオイエルバツハに關するテーゼ、唯物論的見方と觀念的見方との對立(五項)其他。						

政治・社會 (マルキシズム・レーニズム)

直井武夫	直井武夫	田村清吉	荒川實藏	川内唯彦	廣瀬定吉	淺野見	竹沼準人	科学研究所	川内唯彦
史的唯物論體系	史的唯物論	史的唯物論	史的唯物論入門	戰闘的唯物論	「ブハーリン唯物史觀」批判	空想より科學へ	「史的唯物論」集	反デューリング論解説	社會主義の發展
並四六判 上四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並新四判
584	539	306	355	232	219	100	156	60	143
二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	二〇〇	五〇〇	二〇〇	二〇〇
希望閣	同人社	スマール	先進社	叢文閣	白揚社	岩波書店	希望閣	政治研究社	共生閣
月十	月八	月八	月七	月九	月十	月九	月九	月七	月四
▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。

政治・社會 (マルキシズム・レーニズム)

安川瀨	和田哲二	堀利彦	堀利彦	長谷川早太	堀利彦	堀利彦	堀利彦	山川均	科学研究所
帝國主義論	資本主義の最高段階としての帝國主義	利潤の出處	労働と資本	共産黨宣言	唯物史觀要約	ゴタ綱領批評	唯物辯證法の話	辯證法的唯物論とは何か	唯物史觀序説
並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判
483	205	60	43	63	80	60	36	34	192
一、三〇〇	五〇〇	二〇〇	一五〇	五〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一、〇〇〇
白揚社	希望閣	無産社	無産社	勞農書房	無産社	無産社	無産社	無産社	科学研究所
月二	月二十	月九	月二	月一十	月二	月一十	月六	月十	月三
▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。	▲「レーニン主義」の史的唯物論に關する數々の思想と表現とが、レーニン主義外八篇。

北野道彦著	瓜生信夫著	武田如三著	平田良衛著	堺利彦著	直井武夫著	佐山ヘーリ著	上田プロペツ著	石澤新二著	西森岩夫著
労働者と農民	清算主義とは何ぞや	イヌクラ時代	何を爲すべきか	左翼小兒病	共産主義左翼小兒病	帝國主義と資本の蓄積	世界帝國主義論入門	帝國主義論	帝國主義
並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判
195	82	584	245	78	140	242	205	452	196
八〇	三五	二五〇	四〇	三〇	四〇	一〇	七〇	五〇	三〇
希望閣	永田書店	白揚社	岩波書店	無産社	希望閣	希望閣	大衆公論社	改造社	共生閣
月五	月一	月四	月七	月七	月二十	月六	月二十	月九	月六
▲農業者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命 ▲労働者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命	▲農業者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命 ▲労働者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命	▲農業者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命 ▲労働者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命	▲農業者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命 ▲労働者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命	▲農業者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命 ▲労働者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命	▲農業者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命 ▲労働者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命	▲農業者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命 ▲労働者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命	▲農業者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命 ▲労働者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命	▲農業者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命 ▲労働者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命	▲農業者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命 ▲労働者農民に判るやう懇切に説明せるもの ▲都市に於ける十月革命より農村の十月革命

瓜生信夫著	高山洋吉著	高山洋吉著	正木康一著	大田黒研究所著	落合文雄著	北野道彦著	直井武夫著	北浦千太郎著	直井武夫著
レーニン主義入門	協同組合に就いて	協同組合論	嵐に抗して	國家と革命	合法的マルクス主義との闘争	農業問題	農業と資本主義	農民生活に於ける新經濟運動	農業に於ける資本主義
並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判
139	126	138	209	189	399	109	238	143	274
二〇	四〇	三〇	八〇	八〇	一三〇	四〇	八〇	三〇	五〇
希望閣	希望閣	白揚社	白揚社	政治研究社	白揚社	希望閣	希望閣	白揚社	白揚社
月七	月十	月一十	月一十	月十	月六	月二	月一十	月一十	月一十
▲資本主義帝國主義國家及び階級に關するマルクス・レーニン主義的見解を平易に解説せるもので、マルクス主義外三章。	▲社會主義建設に關するレーニンの基本的思想を含めるもので、労働者協同組合第三回大會に於ける演説外五章。	▲協同組合に關するレーニンの各發展段階に於ける主要論文を収めたもので、現瞬間の評價に關するもので、邦譯普及版。	▲レーニンがロシア革命の各發展段階に於ける主要論文を収めたもので、現瞬間の評價に關するもので、邦譯普及版。	▲階級社會と國家、國家と革命、國家死滅の凡俗化外三章。附録二章。	▲「ナロードニキ主義の經濟的内容及びビツツル」は如何なる遺産を拒んでゐるか?」の二篇。	▲農業問題總論、レーニンと農業問題、農業問題に於ける同志ゲアルガの修正主義外一章。	▲農業に於ける資本主義、農業に關する資本主義發展の法則に於ける新しき資料の二論文を譯出せるもの。	▲レーニンの一八九三年の執筆に成る最古に屬する論文「農民生活に於ける新經濟運動」の譯。マルクス地代論解説。普及版。	▲農業に於ける資本主義、農業に關する資本主義發展の法則に於ける新しき資料の二論文を譯出せるもの。

政治・社会 (マルキシズム・レーニニズム)

高木孝作	田村清吉	秋山憲夫	山田村夫	直井武夫	廣島定吉	高橋實	佐野雄	西野雄	高橋實	廣島定吉	直井武夫	山田村夫	秋山憲夫	田村清吉	高木孝作				
レーニン主義の基礎	レーニン主義入門	レーニンは何を教へるか?	レーニンの唯物辯證法	レーニンの唯物論と辯證法	レーニン主義と哲學	民族の起源及び其の發達	世界資本主義の現階段	労働價值説の擁護	ブハーリンの誤謬に就いて	ブハーリンの誤謬に就いて	ブハーリンの誤謬に就いて	ブハーリンの誤謬に就いて	ブハーリンの誤謬に就いて	ブハーリンの誤謬に就いて	ブハーリンの誤謬に就いて				
並六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判				
168	150	192	15	249	405	144	508	19	84	84	84	84	84	84	84				
三〇	五〇	七〇	二〇	五〇	一〇〇	二〇	一〇〇	二〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇				
共生閣	スマ書ル房ク	スマ書ル房ク	共生閣	希望閣	白揚社	共生閣	白揚社	改造社	永田書店	永田書店	永田書店	永田書店	永田書店	永田書店	永田書店				
月六	月九	月五	月四	月九	月一	月四	月一	月二	月一	月一	月一	月一	月一	月一	月一				
▲レーニンの仕事の特殊な點は一體何であるかを説明するもので、レーニン主義の歴史的根據外八章。	▲歴史的状況、マルクス主義の基礎、史的唯物論、日和見主義との闘争の四章にて述ぶ。	▲レーニン主義を平易に説いたもので、マルクス主義、小團體から黨へ、ボリシエヴイズム、民族問題外八章。一發賣禁止。	▲デボールの「戦闘的唯物論者レーニン」の全譯である。	▲デボールの「思想家としてのレーニン」より譯出せるもので、戦闘的唯物論者としてのレーニン外二章。	▲レーニンの哲學を彼の多面的な凡ゆる領域の著書に求め系統的に説明する方法論としての唯物辯證法を系統的に説明す。	▲レーニン主義に於て重要な地位を占めてゐる民族問題を説述せるもので、第一期における民族問題外三篇。	▲マルクス主義的政策の基礎をなす具體的な政治的經濟的情勢の科學的分析を試みたスタハリン及ブハーリンの諸論文を収む。	▲マルクス労働價值説の批判に對するヒルファアデリングの反駁で、ボエームパウエルクのマルクス批評外二篇。	▲個々の國に於ける組織化された資本主義、同志ブハーリンに關するコミンテルン執行委員會第十四回總會の決議外五章。	▲エルフルト綱領に從つて社會主義的思想の中で重要なものあり又社會民主主義を了解するに有用なるものを凡て説明せるもの。	▲共產主義に就いて論及せるもので、序説、唯物論、結論等。	▲ムアよりマルクス、エンゲルスに至る迄の社會主義者の生涯と事業史。	▲第一回アメリカ労働者代表との會談、外國的労働者代表との會談、國內の工業化と左翼的逸脫外五章。	▲全ソヴェト同盟第十六回大會に於ける中央委員會の政治報告並に決議を収めたもの。	▲農業政策に關してのスターリンの諸論文を収録せるもので、階級として外五篇の清算の政策に關する問題について外五篇。	▲第六回世界大會後の一年、革命的昂揚、世界經濟恐慌、ストライキ闘争及び失業等三篇のマヌイルスキの論説を収めたもの。	▲第三期に就ての具體的な解説で、第一期第二期の概観、第三期へ！、帝國主義どもの對立外五章。	▲青年運動の全戦野に及んだもので、コミンテルンの擴大執行委員會と政治的情勢、同盟の再組織外廿五章。	▲青年コミンテルン第五回世界大會によつて採用されたもので、帝國主義の支配下に於ける青年労働者其他。一發賣禁止。

政治・社会 (マルキシズム・レーニニズム)

カウツキ	三輪壽	石川眞彦	大田黒研究所編	入江武一	大井三智夫	スターリン	山口信次	マヌイルスキ	科学研究所編	貴司	貴司	貴司	貴司	貴司	貴司
エルフルト綱領解説	共産主義論	共産主義の歴史	最近の問題	社會主義建設の勝利的躍進	サヴェート農民の社會主義的建設	資本主義發展第三期	第三期とは何か	青年運動の闘争戦術	青年運動の闘争戦術	青年運動の闘争戦術	青年運動の闘争戦術	青年運動の闘争戦術	青年運動の闘争戦術	青年運動の闘争戦術	青年運動の闘争戦術
並六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判
295	203	160	441	225	119	148	211	69	136	136	136	136	136	136	136
三〇	一、二〇	一、二〇	一、〇〇	五〇	四〇	五〇	五〇	三〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
改造社	龍生堂	大衆新聞社	白揚社	スマ書ル房ク	希望閣	希望閣	共生閣	スマ書ル房ク	スマ書ル房ク	スマ書ル房ク	スマ書ル房ク	スマ書ル房ク	スマ書ル房ク	スマ書ル房ク	スマ書ル房ク
月九	月一十	月一十	月七	月九	月一十	月一十	月十	月一	月五	月一	月一	月一	月一	月一	月一
▲エルフルト綱領に從つて社會主義的思想の中で重要なものあり又社會民主主義を了解するに有用なるものを凡て説明せるもの。	▲共產主義に就いて論及せるもので、序説、唯物論、結論等。	▲ムアよりマルクス、エンゲルスに至る迄の社會主義者の生涯と事業史。	▲第一回アメリカ労働者代表との會談、外國的労働者代表との會談、國內の工業化と左翼的逸脫外五章。	▲全ソヴェト同盟第十六回大會に於ける中央委員會の政治報告並に決議を収めたもの。	▲農業政策に關してのスターリンの諸論文を収録せるもので、階級として外五篇の清算の政策に關する問題について外五篇。	▲第六回世界大會後の一年、革命的昂揚、世界經濟恐慌、ストライキ闘争及び失業等三篇のマヌイルスキの論説を収めたもの。	▲第三期に就ての具體的な解説で、第一期第二期の概観、第三期へ！、帝國主義どもの對立外五章。	▲青年運動の全戦野に及んだもので、コミンテルンの擴大執行委員會と政治的情勢、同盟の再組織外廿五章。	▲青年コミンテルン第五回世界大會によつて採用されたもので、帝國主義の支配下に於ける青年労働者其他。一發賣禁止。	▲青年運動の全戦野に及んだもので、コミンテルンの擴大執行委員會と政治的情勢、同盟の再組織外廿五章。	▲青年運動の全戦野に及んだもので、コミンテルンの擴大執行委員會と政治的情勢、同盟の再組織外廿五章。	▲青年運動の全戦野に及んだもので、コミンテルンの擴大執行委員會と政治的情勢、同盟の再組織外廿五章。	▲青年運動の全戦野に及んだもので、コミンテルンの擴大執行委員會と政治的情勢、同盟の再組織外廿五章。	▲青年運動の全戦野に及んだもので、コミンテルンの擴大執行委員會と政治的情勢、同盟の再組織外廿五章。	▲青年運動の全戦野に及んだもので、コミンテルンの擴大執行委員會と政治的情勢、同盟の再組織外廿五章。

近藤 榮藏	入交 總一郎	小西 鐵男	無産社編輯部	山 川 均	エレンデン 村田四郎 也譯	高尾 正之助 譯者	須田 照雄 譯者	青年コミンテルン編 須田 照雄	桑原 悅夫 譯者	吉田 繁之 譯者
プロレタリア雄辯學	プロレタリア讀本	プロバガンダ	何から讀むべきか	無産者講話	無産者政治教程 第五部—労働運動史	無産者政治教程 第五部—労働運動史	青年運動教程 —青年運動の根本的問題	戦闘的組合戦術と 右翼清算派	戦略戦術決議録	コミンテルン編
並四六判 製	並四六判 製	洋四六判 布入判	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製
295	200	276	90	160	334	156	155	168	360	360
ハ 六	七 六	一、五 〇 二	三 〇 二	五 〇 四	一、〇 〇 六	五 〇 四	七 〇 六	六 〇 四	一、〇 〇 六	一、〇 〇 六
平凡社	自由社	平凡社	無産社	無産社	共生閣	叢文閣	白揚社	南蠻書房	大田黒社會 科學研究所	大田黒社會 科學研究所
月六	月八	月三	月七	月五	月四	月九	月三	月六	月四	月四
▲無産階級運動に於て唯一の合法的武器とす る雄辯術に就いて説いたもので、學理的、實際 範例の三篇。附録集會の催し方並に通則。	▲労働者の貧乏、プロレタリアの定義、われ 等の祖先、携取はからして行爲される。資本 及び資本のからくり外十章。	▲プロバガンダを各種の方面より科學的に研 究せるもので、プロバガンダの技術、プロバ ガンダと心理外一章。	▲無産階級運動に於ける殆んど唯一の合法的 武器である言論の範例を收めたもので、國際 及び戦争問題外五章より成る。	▲プロレタリア理論の解説書で社會の解剖、 資本主義社會、階級とは何か、労働組合其他 を説く。	▲我が國プロレタリア運動の具體的問題を理 二篇より成る。	▲フランス大革命、マルクス主義の成立、フ ランスに於ける一八四八年の二月革命外六章 附録マルクス小傳外九章。	▲青年コミンテルンの綱領、搾取され壓迫さ れたる者、青年運動における經濟闘争の根本 的諸問題外五章。	▲コミンテルンの方針に對する右派及び調停 の左翼化外八章。一、發賣禁止—	▲コミンテルン第一回世界大會より第六回世 界大會までを收めたもので、コミンテルンの 根本的任務に關する指針其他。	▲コミンテルン第一回世界大會より第六回世 界大會までを收めたもので、コミンテルンの 根本的任務に關する指針其他。

守田 有秋	守田 有秋	堺 利彦	淺野 研汲 編	山内 房吉	高エメ 山洋1 吉譯者	關 口 熊 吉	石川 三四郎	近藤 榮藏
世界革命家全集 第五卷—補遺篇	世界革命家全集 第四卷—女性篇	パリ・コンミュンの話	世界プロレタリア革命史(一) 巴里・コンミュン	國際労働運動史教程	國際労働運動史	北米社會運動史	フランス社會運動史	プロレタリア雄辯學
並六新 製判四	並六新 製判四	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判	並四六 製判
261	200	64	32	107	161	218	237	295
五 〇 六	五 〇 四	二 〇 二	七 〇 四	五 〇 四	五 〇 四	一、〇 〇 六	一、〇 〇 六	ハ 六
解放社	解放社	無産社	紅玉堂	紅玉堂	戦旗社	解放社	解放社	平凡社
月一十	月十	月二	月八	月六	月九	月三	月二	月六
▲マラーとシャロツト・コルデイ、ウオロフス キイの死、ラザアレと其の死、カルト・アイス ナア外十一篇。附録露國憲法完譯。	▲ブレシコウスカヤ、エメリン・パンカアスト ナ、カウエル其の他の傳記。	▲無産者の手に政權が握られた最初の経験、 僅か二ヶ月であつたにせよ其勝利と失敗とは 尊い経験だ、ロシア革命との關係。	▲プロレタリア解放運動史上に於ける一大記 念的存在の巴里コンミュンの闘争畫集。	▲フランス革命とその結果、資本主義の成長 と近代的労働者運動の發生、空想的社會主義 一八四八年の歐洲革命外六章。	▲フランス大革命、チアチズム、マルクス 主義の發生、國際労働者協會外五章。	▲社會運動の意義及び目錄、北米労働運動の 特性、世界戦争と労働界、米國に於ける農業 の投機性外廿五章。	▲フランス大革命、一八三〇年革命とリオン の運動外十五章。	▲フランス大革命、一八三〇年革命とリオン の運動外十五章。

茂木實臣編著 高島素之先生の思想と人物
 ▲近代日本が生める優れた思想家高島素之氏
 の人物思想経歴等について記述せるもので、
 思想篇、人物篇の二篇。

小泉保太郎	渡邊政之輔	小林五郎	北野村鐵	原哲夫	市丸節	野中雅士	山川均
左翼労働組合運動	左翼労働組合の組織と政策	赤旗勝つのか? <small>我が國労働組合運動の経緯</small>	ダラ幹罪悪史	鐘紡罪悪史 <small>第一卷</small>	鐘紡争議と減給問題	鐘紡の解剖	労働組合の話
並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製
338	400	196	141	126	112	385	347
一〇〇 八	一〇〇 六	五〇 四	五〇 四	三〇 四	五〇 四	二〇 二	一、五〇 八
スマ 書ル 房ク	希 望 閣	一 元 社	紅 玉 堂	戰 旗 社	明 星 書 院	日 本 書 院	千 倉 書 房
月十	月十	月十	月六	月四	月四	月四	月八
▲左翼労働組合の全国的結成問題、いかにし て闘争し組織して行くか、経済闘争と政治闘 争との結合外十八章。 ▲左翼労働運動指導者としての渡邊政之輔の 遺著で、組合組織の問題、左翼労働組合の政 策外九章。 ▲日本の労働組合運動は今や反省の秋ではな いのが! 非合法派共産主義労働組合、中間 派労働組合外五章。 ▲社会民衆黨の巻、ダラカン血闘記、二萬圓 争議事件、雨か風かストライキの火蓋は 切られた外三章。 發賣禁止 ▲鐘紡の日本の地位、従業員の階級別、職工 採用の内幕を記述す。 ▲鐘紡争議を中心として減給問題を研究せる もの、鐘紡争議と減給問題、労働の増減と 作業能率との關係外十七章。 ▲武蔵社長引退事情、武蔵専制王國と重役對 株主戰、恵まれたる女工生活、大整理の必要 外十七章。 ▲労働死力を盡して争ひつゝある労働組合は 何か? 附録労働組合法批判。							

農村問題・農民運動

▲農村問題の如何なるものかを究明せるもの
 で、農村問題緒論、現代に於ける農村の地位
 農村生活の實態外十三章。

中澤辨次郎	山川均	別府重夫	谷村啓雄	高尾正之助	フニルンベルグ	野高赤	東エル	有野レ	野坂
農村問題講話	新方向轉換	工場新聞	メイデーの話	合理化と労働青年の狀態	プロレタリア闘争論	産業合理化と如何に闘ふか	合理化の理論と實際	労働組合論	労働組合論
並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製
464	118	69	91	328	119	549	276	87	87
一、八〇 二	五〇 四	二五 二	三〇 二	一、〇〇 八	五〇 四	三、五〇 一八	五〇 四	二〇 二	二〇 二
改 造 社	無 産 社	新 人 社	共 生 閣	同 人 社	世 界 社	春 陽 堂	希 望 閣	希 望 閣	希 望 閣
月五	月二	月二十	月四	月十	月七	月十	月九	月一十	月一十
▲農村問題の如何なるものかを究明せるもの で、農村問題緒論、現代に於ける農村の地位 農村生活の實態外十三章。	▲我が國左翼労働組合の行つた方向轉換をマル キシズムの立場より批判し今後の方途を指示 す。	▲工場新聞に就て理論及び技術の兩方面から 具體的に記述せるもので、工場新聞は何故必 要か外四章。	▲メイデーは國際的労働者の闘争日である 外七章。	▲生産に於ける労働青年の數と役割、青年に 對する法律上の保護規定、失業と青年、農業 に於ける青年外五章。附録三章。	▲野呂四氏の論説を収めたもの。高橋、細迫、 野呂四氏の論説を収めたもの。	▲産業合理化の本質を究明し、如何にそれと 闘争すべきかを指示せる赤松、高橋、細迫、 野呂四氏の論説を収めたもの。	▲方法論に基づいて生産の「死せる」諸因子 の合理的諸根拠外十二章。 ▲科学的方法論に基づいて生産の「死せる」諸因子 の合理的諸根拠外十二章。	▲レニンの労働組合法を讀み易きやう編集 し詳細なる註を附加せるもので、資本主義治 下の労働組合運動外二章。	▲労働組合に關するマルクス主義理論への入 門書で、労働組合の發生と發達過程、労働組 合と政治闘争外二章。

坂井哲三著 世界の農業・農民問題 洋四六判 布八判 61 三、三〇 先進社 月一十

▲歐洲諸國に於ける農業理論とマルクス主義の立脚點から綿密な統計を與へて敘述せるもので、戦前のドイツ農業状態其他。

階級問題・職業問題

小池四郎	俸給生活者の階級的任務	四六判	120	三〇	クララ社	月六	▲階級とは何ぞや、中間階級とは何ぞや、俸給生活者の現状、俸給生活者はそれ自身を如何に見るか外二章。
青野季吉	サラリーマン恐怖時代	四六判	334	一、三〇	先進社	月六	▲サラリーマンの物質的、精神的生活を内實を解剖し、且闘争の實際と解放の道を闡明せるもの。
猪俣津南雄	日本無産階級の戦略	四六判	188	五〇	文藝戦線出版部	月六	▲日本無産階級の一般戦略、日和見主義的戰略と「戦略」的日和見主義、ブルジョア民主主義の役割外二章。
近藤榮藏	失業と無産階級	四六判	43	一五	無産社	月五	▲「資本主義社會は戦争と失業の時代である」とし社會組織の變革に至る過程を論じ無産階級は何を爲すべきかを説く。
向坂逸郎	インテリゲンチヤ	四六判	332	一、五〇	大衆公論社	月六	▲インテリゲンチヤ問題(ツエトキン)インテリゲンチヤの行方(チャルマン)外三篇及附録二篇。
緒方潤	就職と面談の秘訣	四六判	247	一、〇〇	財政經濟時報社	月二	▲現今の就職難問題、失業問題に對する解決策で、就職世相の推移、如何にして就職關門を突破すべきか外二篇。
諸橋有信	就職と面談の秘訣	四六判	366	一、二〇	博文館	月四	▲各方面の實例に徴して就職一切の事項に關し平易に説述せるもので、就職から見た社會相、就職必勝法外十六章。
井上好一	就職問題の解決	四六判	289	一、三〇	新建社	月五	▲知識階級とは何か、知識階級の歴史的發達、學校卒業生の就職方法、就職職線の具體的實景外十一章。

婦人問題・兩性問題

尾崎定一	彼れは斯くして就職せり	四六判	180	六〇	丁酉出版社	月二十	▲卒業は近づく、誠首は恐い、ハツキリの説明、温雅なN省、蝦蟇の脂胞、私も大學の學生で、外數篇より成る就職秘話。
壽木孝哉	學校から社會へ	四六判	504	一、〇〇	先進社	月一十	▲就職準備、銓衡委員の採用心理、就職必勝法、有力銀行會社待遇厚薄の見分方と其實例外二篇。附録婦人の職業選擇と其方法。
小山文太郎	中學生の未來展望	四六判	370	一、二〇	培風館	月九	▲進退兩難の岐點に立つてゐる中學生の未來展望、未來燦然の三篇。
堺利彦	貧富戦と男女戦	四六判	317	一、三〇	中央公論社	月二	▲現時の社會組織の缺陷と生活不安の原因を戦ひ外二篇。
早坂二郎	現代人の生活戦術	四六判	514	一、八〇	新潮社	月二	▲最高度の資本主義國に生れて闘争したアプトンシンクレアの人生觀、戀愛觀、社會觀等を譯せるもの。
林恒彦	現代人の生活指導	四六判	309	一、五〇	千倉書房	月一十	▲近代人としての生活戦術を説けるもので、知識階級とは? サラリーマン階級とは? 國家機關の解剖外十三篇。
高橋清三郎	英國の失業問題	四六判	179	五〇	朝日新聞社	月九	▲失業國イギリスの失業對策を詳叙せるもので、失業の常住對策、救済事業と救護、産業合理化と労働外四章。
土田杏村	失業問題と景氣恢復	四六判	296	二、五〇	第一書房	月四	▲失業問題解決策の理論的考察で、失業問題と金融理論の研究、景氣恢復と金融理論の研究の二篇より成る。
戸塚松子	近代日本女權史	四六判	82	三五	紅玉堂	月八	▲總説、女權崩壞時代、女權勃興時代、現代婦人の状態、婦人の將來等五章にて論述。

政治・社會 (社會諸問題・社會諸相・新聞)

池上三郎	原田讓二	平野岑一	棟尾松治	後藤武男	岡見護郎	栗島秀雄	添田啞蟬坊	讀賣新聞社
紅玉堂の貞操切符	インク街に播く	新聞の知識	新聞學概論	新聞企業時代	新聞の話題	ラッシュアワー展望	淺草底流記	案内廣告に釣られて
並四六判 製105	並四六判 製327	並四六判 製202	布菊裝判 製387	並四六判 製347	並三五判 製110	上四六判 製317	並四六判 製309	並判四六判 製284
二五	一六〇	二〇	三三〇	一三〇	一〇	一五〇	一五〇	一五〇
紅玉堂	一元社	新東京日社	巖松堂	改造社	誠文堂	萬里閣	近代生活社	大阪屋號
月四	月三	月二十	月五	月六	月九	月十	月十	月十
▲シンクレア著「眞鍮の貞操切符」の荒筋を述ぶ。	▲新聞理論及び生活の断片を収めたもので、子を招く、死顔に化粧する、新聞と社會との共同責任外卅篇。	▲新聞に關するあらゆる知識を網羅せるもので、新聞、新聞社、通信網を張る、記者の活動外三篇。	▲實際的な資料を整理し新聞の社會的價値、新聞の經營、新聞の製作等につき詳密な研究を遂げたもの。	▲現代企業發達の中で最も著しい進歩を告げた新聞企業の研究で、原理篇、現勢篇、人物篇、政策篇、財政篇の五篇九章。	▲新聞由來記、新聞紙誕生の歴史物語、新聞變遷の道程、新聞の記事は何う變つたか、新聞價値の語外五章。	▲「月夜の裸女、死にたい女、統計に表はれた不正乗客、僕は代議士だ外廿六篇。	▲「淺草朝から夜中まで、淺草島瞰圖、具師の群、乞食、女給行狀記外十四篇よりの群、淺草に關する記述。	▲僅か三行五行の新聞の案内廣告から描かれた世相の裏面を覗けるもので、七圓で解決する「萬事」とは外卅八篇。

政治・社會 (年鑑・辭典)

北海出版社編	大原社會問題研究所編	東京政治經濟研究所編	中日文化協會編	通日露社賀編	山口六郎次	青木節一編著	年史刊行會編	朝日新聞社編
北海道年鑑	日本勞働年鑑	政治經濟年鑑	滿蒙年鑑	日露年鑑	國際年鑑	國際聯盟年鑑	昭和四年史	檢閱制度批判
並四六判 製515	並四六判 製748	洋菊布入判 製710	並四六判 製663	背判四六判 華入倍製795	洋菊布判 製1207	並四六判 製263	布菊裝入判 製683	並四六判 製91
一三〇	三〇〇	三〇〇	一五〇	一〇〇	一〇〇	八〇	二八〇	二〇
北海出版社	同人社	日本評論社	化中協日會文	通日露社賀	化國協日會文	朝日新聞社	年史刊行會	朝日新聞社
月一	月二十	月二十	月二十	月二十	月三	月六	月二	月一
▲北海道の梗概、地理、氣候、警察及司法、産業概観、商取引、社寺及宗教、社會的施設スポーツ外卅三章。	▲昭和四年に於ける日本勞働者の各方面に亘る状態と運動とこれに對する施設對策に關する事實の記録で勞働者状態外五部。	▲最近十年間に於ける我國政治經濟の重要事項を檢討しその變遷推移の實相を示したるもので、政黨輿論以下十八部。	▲滿蒙概観、地理、行政、鐵道、水運、通信、勞働事情外十一篇。	▲日露關係の部(一般關係、漁業關係其他)重要事件其他。	▲一九二九年より一九三〇年までの聯盟事業の總記録で、政治經濟財政軍事其他凡ゆる方面に就て平易に記述す。索引。	▲一九二九年の世界、政治、經濟、教育及び宗教、學術界、文藝と美術、演劇、映畫、音樂スポーツ外三篇。	▲一九二九年の世界、政治、經濟、教育及び宗教、學術界、文藝と美術、演劇、映畫、音樂スポーツ外三篇。	▲新聞檢閱問題(關口泰)演劇の檢閱に就て(高田保)映畫と演劇の檢閱(村山知義)外二篇。附録檢閱關係法規。

新聞研究所編	朝日新聞社編	大阪毎日新聞社編	東京日日新聞社編	國民新聞社編	時事新報社編	東京堂編	東京書籍商組合編	社會思想社編	田所輝明編	共生閣編輯部編
日本新聞年鑑	朝日年鑑	毎日年鑑	國民年鑑	『時事』年鑑	出版年鑑	出版年鑑	出版年鑑	社會科學大辭典	社會科學小辭典	プロレタリア辭典
昭和六年版	昭和六年版	昭和六年版	昭和六年版	昭和六年版	昭和五年版	昭和五年版	一九三〇年版			
並四六判 製入判	並四六判 製	並四六判 製入判	並四六判 製入判	並四六判 製	並四六判 製入判	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製
369	815	800	594	798	700	564	1400	1362	155	435
三〇〇 一八	二〇〇 二二	一〇〇 二二	二七〇 二二	二五〇 一八	一〇〇 一八	一五〇 三〇	一〇〇 一八	二〇〇 一〇	一〇〇 一八	五〇 六
新聞研究所	朝日新聞社	大阪毎日社	啓成社	時事新報社	東京堂	東京書籍商組合事務所	改造社	白揚社	共生閣	甲府月堂
月二十	月十	月十	月九	月十	月五	月八	月五	月六	月十	月二十
▲全新聞線の高速進展、代表各社經濟事情、府縣別及社別實況、廣告代理業一覽表、全國新聞事業關係者名鑑其他を收む。	▲レーナス・ト・ニュース、グラビヤ、皇室始め、政治、外交、經濟、社會、學藝、家庭等各項を網羅す。	▲内外百載の年鑑、特輯として内外人物篇を創設、別刷附録に家庭醫典を添ふ。	▲憲法、宮廷、土地、天文氣象、人口、政治、軍事、外交、世界、宗教、教育及出版其他に分つて收載せる年鑑。	▲憲法、皇室、土地人口、政治、國防、外交、財政、經濟、社寺教育、裁判行刑、警察、社會事業其他十一項に分つて收載。	▲出版界一年史(昭和四年度)、出版諸統計、昭和四年度出版圖書總目錄、雜誌總目錄(發行所住所入)外三部。	▲昭和四年度から五年への出版界、創刊雜誌一覽、今日の出版廣告の種々相、昭和四年度圖書類別目錄其他。	▲廣く社會運動社會思想社會問題に關する記説及び之に關聯ある社會科學諸般に及んで諸家が敘述す。項目配列五十音順。索引。	▲各種社會學說及び社會運動、團體、術語、哲學教育其他の全社會科學の領域に及ぶ。	▲資本主義社會に於ける凡ての現象凡ての理論のうち階級闘争の發展の見地から重要である事柄を五十音順に收めたもの。	▲本縣の諸官公署は勿論銀行、會社に到るまで有ゆる部門に亘つて輯録せる縣職員錄。

共生閣編輯部編	新聞研究所編	山梨出版社編
訂改プロレタリア辭典	昭和新聞名家錄	山梨縣職員人名錄
並三六判 製	並四六判 製	並四六判 製
435	528	155
五〇 六	一〇〇 一八	五〇 四
共生閣	新聞研究所	甲府月堂
月二十	月二十	月十
▲プロレタリア運動に關する重要な事柄を網羅し解説したものの一冊。	▲代表的新聞人及び新聞關係業者一千名の略傳を載す。	▲本縣の諸官公署は勿論銀行、會社に到るまで有ゆる部門に亘つて輯録せる縣職員錄。

著者	書名	形態	頁数	定價	送料	発行所	月行發	内容大意
奈良 正路	法律學の根本問題	洋装四六判	2・6	一、八〇	一、三〇	日本評論社	月二十	▲法律學の根本問題、國家に對する研究の重要性、法律の機能と道徳規との關係について第二章にて論述。
東京帝國大學教授 牧野 英一	法律における價値の論理	洋装菊判	427	三、五〇	一、八〇	有斐閣	月十	▲法律の概念的合理化、擬制と類推、擬制の歴史的外質と理論的性質、並製三法として論述。
パテユカーニス著 山之内 一郎譯	法の一般理論とマルキシズム	洋装四六判	410	一、八〇	一、二〇	改造社	月八	▲法の一般理論の諸課題、抽象的諸科學に於ける具體的なもの、構成、イデオロギイと法外五章、附録註釋其他。
レオン・デュギエ著 木村 常信譯	公法變遷論	洋装四六判	355	二、三〇	一、二〇	大鐘閣	月三	▲何故公權力の觀念を基礎とする公法體系が行政、責任外一章。
船田 享二	羅馬法	洋装菊判	568	五、五〇	二、四〇	刀江書院	月四	▲ローマ法に就て敘述した書で、外史、内史(訴訟に關する法以下三編)の二部及び物權、債權、相續の三卷。
宮澤 俊義譯	法の精神 下卷	洋装菊判	450	八〇	六	岩波書店	月四	▲その性質及びその種別に於て考案せられたる商業との關係に於ける法に就て外十一篇を收む。

10. 法律

法理・法律一般

範師島豊 範師島豊 學中鷺尾 師講大帝 授教商高
 論教校學 論教校學 論教校 士學文 士學法
 著夫正本山 著三富 萬 郎太村田直 著一喜屋長 著助捨本藤

音樂の學習

送價三菊
 二四判
 一八〇面
 八〇頁入

斯界の權威山本先生
 倒該目なる蘊蓄を傾
 二公開されたる學法

圖画の學習

送價三菊
 二二判
 一八〇面
 八〇頁入

寫生畫、圖案、用器
 百餘部に附して懇切な
 極新體に於て詳切な

體操科教練の參考

送價二四
 一八六
 一八〇面
 〇〇頁入

多年教授上の體験に
 基き完成せる教練專
 の受驗者及小檢指導
 員の實典

現代倫理學の理念

送價三菊
 二五判
 一五〇面
 八〇頁入

倫理學の根本問題
 勿論一般倫理學の
 要論が新論に立
 たらぬに於て、密に
 考察せられたる論場

日本民法總論

送價四菊
 三六判
 一三〇面
 八〇頁入

著者の精緻なる頭腦
 と鋭なる教育眼と
 は、遂に新學研究の
 途に於て、新學研究
 彦にめたる。

京東座口替振 行發堂明大 區田神市京東
 番八八七七四 七十三町川小

末弘 嚴太郎	法窓 雜誌	布函四六 裝入判	450	二、五〇 二二	日本評論社	月十	▲司法官と社會思想、法律家より見たる休銀問題、如何なる小作法を制定すべきか、法窓漫談、問答色々外三篇。
大森 洪大	裁判 夜話	背函四六 革入判	523	二、五〇 一一	日本評論社	月五	▲裁判夜話、陪審制度夜話、検事長を殺した判の話廿七篇。大思想家を渦中に捲き込んだ裁判の語。
花井 卓藏	訴訟 論 草	洋函菊 布入判	635	三、〇〇 一八	春秋社	月六	▲日露講和問題に關聯して起りたる兇徒囁集被告事件の辯論を筆記せるもの。附軍國議會史要。
花井 卓藏	訴訟 論 草	洋函菊 布入判	615	三、〇〇 一八	春秋社	月七	▲大正九年京都府知事の冤罪に就て爲せる辯論速記及び防集(教科書事件外八篇)。
花井 卓藏	訴訟 論 草	洋函菊 布入判	496	三、〇〇 一八	春秋社	月八	▲大正十一年九月十八、二十、二十二日の三日間東京地方裁判所に於てなせる満鐵事件の辯論速記。附録陪審法に就て。
花井 卓藏	訴訟 論 草	洋函菊 布入判	586	三、〇〇 一八	春秋社	月八	▲大正三年七月六日東京地方裁判所刑事第三部訴訟庭に於ける軍艦金剛事件の辯論速記。附録論庭符。
花井 卓藏	訴訟 論 草	洋函菊 布入判	593	三、〇〇 一八	春秋社	月十	▲箕浦翁及高見氏詐欺事件の辯論速記及び「カイヨウ夫人の獄地概」附載。
津曲 藏之丞	契約自由と労働法の指導原理	並 菊 製 判	152	一、〇〇 八	刀江書院	月九	▲明治裁判史を色彩する詩人寧齋殺し野口男三郎の警肉事件の辯論。附録管蠡鈔。
栗生 武夫	婚姻法の近代化	上 菊 製 判	200	一、八〇 一八	弘文堂書房	月八	▲前世紀の初めから今世紀二十年代へかけての歐洲立法の凡てを集め、婚姻法の世界的動きを示し、日本現行改正要綱を論ず。

山田 敬授 還曆	山田教授還曆祝賀論文集	背 菊 革 判	778	六、〇〇 一八	有斐閣	月五	▲帝大教授として令名ある山田博士の還曆を祝して、現代法學界の權威十有七氏が各々得意の論文を執筆したもの。
和田 小次郎 譯	イングリ 法律目的論	布 菊 裝 判	221	一、七〇 一八	巖松堂	月九	▲本書は一九二三年版の全譯で目的を以て全▲立法及法學に對するザグイニ一及テイボー兩氏の代表的論争を一書に收めたもの。
長場 正利 譯	ザグイニ一 法典論議	布 菊 裝 判	176	一、三〇 二	巖松堂	月九	▲マルクシズムの觀點より法の一般理論を取扱つたもので、法とは何ぞや、階級利益と階級意識外九章。
研究 及び 國家理論	階級法及び階級司法の問題	並 四 製 判	66	三、〇〇 二	希望閣	月二十	▲サヴエーロシヤに於ける裁判所の構成社會防衛の方法の意義、條件付裁判制度外五章。附録赤色テロと白色テロ。
研究 及び 國家理論	法及び國家理論論議(2)	並 四 製 判	125	六、〇〇 四	希望閣	月二十	▲現行法律語に關する歴史的考察を試みたもので、緒論、法律語の現行態、法律語の歴史の三章。附論及索引。
渡部 萬藏	現行法律語の史的考察	洋函菊 布入判	338	四、五〇 一八	萬里閣	月二十	▲國家、法理、權威義務、世界法系、憲法、行政法、刑法、訴訟法、國際公法、民法、商法、國際私法などを概説したもの。
星野 通	法學通論 概説	背 四 布 判	278	一、五〇 〇	廣文堂	月四	▲最近の傾向たる法律の民衆化を其重點として、容易に一般法理を現解出来るやう説いたもの。上卷一憲法、行政法、民法、商法外二篇。
安積 伊二郎 編著	法律 提要	革函三五 裝入判	814	特三、七〇 〇〇	教文社	月六	▲下卷一刑法、刑事訴訟法、陪審法、警察法、指紋法外二章。
安積 伊二郎 編著	法律 提要	革函三五 裝入判	872	特三、七〇 〇〇	教文社	月六	▲法律知識涵蓋の一般的解説一憲法、裁判法、刑法、盜犯等防止法、刑事訴訟法、陪審法、行政法、警察法其他。
横田 秀雄	法律 提要	洋函四六 裝入判	1300	三、八〇 一八	教文社	月二	▲法律知識涵蓋の一般的解説一憲法、裁判法、刑法、盜犯等防止法、刑事訴訟法、陪審法、行政法、警察法其他。

法律 (憲法・選舉法・計理士法)

安積 伊二郎	法律提要	洋四六判 布入判	472	三、〇〇〇 特三、〇〇〇	教文社	月四	▲容易に一般法理を理解し且つ應用出来るやうに解説す。民法、商法、民事訴訟法の三項に分類して解説す。
大澤 一六	大衆法律教程	上四六判 製	372	一、三〇〇	六和書房	月六	▲日常家庭生活に極く密接な關係を有してゐる必要な法律部分を選んで解説せるもので、結婚、妻、子供外廿章。
渡部 萬藏	サインス法律辭典	總三六判 革入判	496	二、八〇〇 一、八〇〇	松山房	月十	▲法の重要事項を網羅し英、獨、佛三箇國語對照、撰擇された參照條文を挿入せり。
東川 德治編	典海	背菊 革判	1130	一、六〇〇 三〇〇	有斐閣	月三	▲東川氏二十有餘年の苦心に成る支那法制辭典で、明清の成語を主として凡ゆる古代語を收めたるもの。
法律評論社編	法律年鑑	背四六判 革	2056	一〇、〇〇〇 三六	法律評論社	月二	▲最近一箇年間に於ける學說・判例並に決議訓令回答の要旨全部及び著書雜誌統計新法令等法律に關する諸事項を網羅す。
佐々木 惣一	日本憲法要論	背菊 革入判	726	五、〇〇〇 一、八〇〇	金刺書店	月二十	▲前論法及び國家、序論、日本帝國の憲法總論、第一編日本帝國の構成、第二編日本帝國の組織、第三編日本帝國の作用。
宮澤 俊義	選舉法要理	洋四六判 布入判	307	一、七〇〇 二二	一元社	月七	▲現行選舉法の全體を體系的に敘述せるもので、選舉人、選舉區、被選舉資格、選舉手續、選舉に關する争訟外二章。附録四章。
奈良 正路	判例を中心としたる普通選法	布菊 裝判	550	四、〇〇〇 一八	日本評論社	月二	▲判例を中心としたる選舉運動・選舉費用・罰則の二篇十二章。
東京地方裁判所編	選舉法大審院判例抄録	並三六判 製	52	一、五〇〇	巖翠堂	月一	▲自昭和三年一月至同四年十一月間に於ける普通選法選舉違反大審院判例の要旨を蒐めたもの。

憲法・選舉法・計理士法

法律 (行政法・諸法・警察)

星川 貞四郎	選舉法質疑並判決例	洋四六判 布入判	413	二、〇〇〇 一、二〇〇	警眼社	月二	▲新選舉法及舊法の判例を取りて解釋せるもので、選舉の取締と選舉犯罪、選舉運動の費用、選舉犯罪の三章。
内務省警保局編	選舉法質疑並判決例	並菊 製判	292	二〇〇	良書普及會	月二	▲内務省司法省が回答せる實例及通牒並に判決例を事項別に分類し、條文を配し關係法條を引照したるもの。
司法省刑事局	衆議院議員選舉法輯覽	並四六判 製	435	二、三〇〇 一八	清水書店	月二	▲現行衆議院議員選舉法の改正要旨、大審院判例、内務省司法省の訓令回答、決議、大審院院檢事局決議、當選訴訟判例等。
岡田 亥之三郎	選舉實際の解釋と判例	並菊 製判	278	九〇	清水書店	月一	▲衆議院議員選舉法を逐條順に配列し之に判例要旨訓令回答の要旨並に簡單な法條解釋を與へたるもの。
中瀬 勝太郎	計理士提要	洋四六判 布入判	140	一、〇〇〇	尙文堂	月三	▲計理士法施行に至る迄の經過、計理士業務の現代と將來、計理士の登録、計理士の業務計理士と罰則外十章。
坂元 順吾	計理士提要	並四六判 製	493	一、八〇〇	大同書院	月五	▲計理士關係事項を詳論せるもので、計理士の職能、計理士關係法令集、計理士試験提要國際會計會議外六章。
野村 信孝	行政法大綱	布菊 裝入判	591	五、〇〇〇 一八	巖松堂	月四	▲行政官廳、官吏、行政行為、行政救済、公の行及等にて論述。
豊田 久二	醫事行政例及判例の解説 —開業醫と法律知識—	洋四六判 布入判	238	一、八〇〇 一三	春秋社	月七	▲行政例判決を収めて解説せるもので、醫師に關するもの、醫業廣告、解剖並に骨格及胎兒死體保存外六章。
池松 重行	醫事行政論	布四六判 裝入判	513	二、五〇〇 一三	刊醫藥行會令	月十	▲醫事行政に關する諸般の法規を研究し實務に對して通俗的に解説せるもの、並に判例に對照して通俗的に解説せるもの、醫師法解説外五編。

行政法・諸法・警察

清水 玄	健康保険法提要	布面菊 裝入判	244	二、〇〇	一八	日本評論社	月六	▲行政法としての健康保険法を闡明せるもの。財政的總論、被保險者、保險給付、保險の財源外七章。
村田 福次郎編	市町村事務提要	青面菊 革入判	1450	六、五〇	二四	良書普及會	月五	▲市町村制並に其の附屬法規を根拠とし之に關する法規訓令達告示通牒照會回答事務取扱要項其他を輯録す。
戸田 吉郎	家屋賃賃價格調査令詳解	並 菊 判	220	一、〇〇	二二	良書普及會	月一	▲家屋稅調査委員、第一次家屋稅調査委員、第二次家屋稅調査委員、家屋の賃賃價格の決定其他。
菊池 武夫	正改市町村制詳解	並 三六 判	378	六、五	六	鳥 鮮 堂	月三	▲最近改正せる市町村制に詳解を付し、且又本法に關係ある附屬法及び準用法律律用省令を抄録せるもの。
東京地方改良協會	市町村事務令規	並 菊 判	210	一、五〇	一〇	良書普及會	月四	▲市町村自主權に基く事務を初め、國府縣の委任事務に關する訓令通牒及之に基きて發せられた命令規程を法條順に蒐録。
逓信省貯金課	受持 集配郵便局便覽	洋 菊 判	276	一、三〇	一八	警 眼 社	月一	▲現金拂を請求する時、郵便爲替を組む時、集金郵便を委託する時其他受取人の住所を受け持つ局名を知る便利な書。
水谷 平吉	改訂市町村公債	並 四六 判	260	一、七〇	一〇	良書普及會	月三	▲地方自治團體の起す公債につき詳述せるもの。
良書普及會編	改訂 新稅法提要	並 菊 判	430	八、五	六	良書普及會	月三	▲地租所得稅、營業收益稅、利子稅を初め改正の諸稅法並に地方稅に涉り解説せるもの。
田中 勝次郎	所得稅法精義	布面菊 裝入判	4-3	三、五〇	一八	巖 松 堂	月五	▲稅務の專門家又は學術的に所得稅法の理論を研究する人々の爲に論述せるもので、納稅義務者外十章。
矢部 俊雄	最新會社稅法の精解	洋面菊 布入判	630	三、五〇	一八	文 精 社	月九	▲會社の諸稅中最も重要にして而も難解とされてゐる所得稅、營業收益稅及資本利子稅に就て詳述せるもの。

大塚 辰治	改訂 市町村財務規定	上 菊 判	500	三、六〇	一八	良書普及會	月八	▲這般地方財務規定の改正を機に、根本的に改訂し緊急なる市町村財務整備に資するものにして實例判例をも増補す。
松井 春生	資源調査法令義解	並 菊 判	24	一、五	二	良書普及會	月一	▲軍需に關する法規を統一して新定せられたる該法規の總説を試みたもの。
有光 金兵衛	訂改公文例規及公文例	並 菊 判	450	二、七〇	一八	良書普及會	月七	▲萬般の行政機能の法的行爲及民衆の意思表示に關する法令及慣行に依る法的作用を、實例を示して詳釋せるもの。
河内 嘉睦	例實工場法の扶助註釋	布面菊 裝入判	218	一、八〇	一八	大同書院	月二十	▲著者が多年實際的に關係し來れる工場法上の扶助問題に關して解説せるもので、扶助の性質外四章附録工場法。
朝日新聞社編	朝日民衆講座(13) 労働組合法をめぐりて	並 四六 判	127	二、〇〇	二	朝日新聞社	月六	▲労働組合法案について——渡邊鐵藏、新組合法案の批判——孫田秀春外三篇の労働組合法案批判講演會に於ける講演速記。
柴田 義彦	労働組合法講話	布面四六 裝入判	323	一、二〇	二	弘 文 館	月二十	▲労働組合法及組合法の目的沿革を始めとし諸外國の立法例を解説し我が労働組合法案に及べるもので、労働組合の沿革外三篇、労働組合の労働者團結法の歴史的発展、労働組合法の解説外一編。
松永 義雄	労働組合法とは何ぞや	並 四六 判	298	一、〇〇	八	邦 光 堂	月二十	▲第五十九議會に提案されんとする労働組合法案の解説を中心としてその勞資兩方面の批評其他を収録す。
政治 日新 經濟部編	労働組合法の話	上 四六 判	169	五、〇	六	朝日新聞社	月二十	▲總則、疾病保險、災害保險、廢疾者保險、保險擔當者相互保險、及他の義務者との關係、手續の六篇にて譯述。
岡田 甲子之助譯	獨逸労働保險法	布面菊 裝入判	687	四、五〇	一八	出川 印刷 部	月五	▲瓦斯事業法の實施以來法文解釋の上に種々な疑問を生じた實際問題に就て論述せるもの。
水越 致和	瓦斯事業法概論	洋面菊 布入判	240	二、五〇	一八	永 全 社	月二十	▲瓦斯事業法の實施以來法文解釋の上に種々な疑問を生じた實際問題に就て論述せるもの。

法律 (行政法・諸法・警察)

水本信夫	大野寛正	武藤運十郎	吉原隆次	伊達光美	田村豊	三田村武夫	渡正監	土屋正三	佐々木俊雄
借家法 學說總攬	土地貸借と係争の實例	借家人のための法律と戦術	特許法詳論	日本寺院法論	現行警察法汎論	警察強制的研究	營業警察の限界	警察教養論	警察手職手眼
洋函菊 布入判	並四六判	並四六判	洋菊 布判	布菊 裁判	洋菊 布判	洋函四六判 布入判	並菊 製判	並菊 製判	洋函四六判 布入判
721	(1)	183	440	5 ⁹	420	307	76	255	240
五、五〇 二四	三〇 四	八〇 四	三、八〇 一八	五、〇〇 一八	二、三〇 一八	一、六五 一八	四〇 二	一、五〇 一八	四〇 四
大同書院	大野家	希望閣	有斐閣	巖松堂	大學書房	松華堂	良書普及會	自動車界社	大原書房
三月	月一十	月四	月七	月四	月一十	月七	月十	月一	月十
▲借家法概論、借家法學說實例要旨、借家法判例全文集、貸借判例要旨、借家法關係條文、借家法關係書式を収む。	▲小作争議と地主及對策、提米支拂請求訴訟提起と順序、損害賠償、争議と訴訟に就て原告の態度外二章。	▲借家争議に關し借家人への具體的戦術を説いたもので、借家人に關する法律、借家契約の成立外五章。附録借家法其他。	▲特許法の全編を詳解したもので、本版は民事訴訟法改正に伴ふ改訂を施し、工業所有權保護同盟條約の説明を加へて全部改訂版。	▲現行寺院法規の全般に亘り組織的に解明し、たもので、尙参考にして寺關係判例要旨類集を収録す。	▲治安、風俗、交通、衛生、産業等に分ち警察法一般を論述せるもの。	▲憲法行政法刑事訴訟法其他警察權行使に關する總論の規定を採入れて解説せるもので、警察強制的通論外十章。	▲警察講習所の教科書で序説、營業の觀念、營業の自由と契約の自由、營業に對する制限其他を収む。	▲初任巡查教養、卅教習期間、教習所の教科書、編制、教授等にて論述した講習所の教科書。	▲司法警察官並に行政警察官として行ふべき職務の一般を掲載せるもの。

法律 (民法)

水野豊	佐瀬昌三	佐瀬昌三	警察法令研究原會	我妻榮	藤本捨助	石田文次郎	松岡義正	鳩山秀夫
自動車事故の裁判例と批判	自動車連轉手と過失犯 附 損害賠償問題	交通事故と賠償責任	美容術試験問題其の解答	民法總則	日本民法總論	現行民法總論	民法論	民法研究
洋函四六判 布入判	布函菊 裝入判	上函四六判 裝入判	並四六判 製	布函菊 裝入判	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	背函菊 革入判	布函菊 裝入判
255	230	240	100	666	439	541	961	297
一、五〇 一八	二、八〇 一八	一、五〇 一八	四〇 四	四、五〇 一八	三、三〇 一八	三、八〇 一八	八、〇〇 二四	二、三〇 一八
自動車界社	海文堂	文原堂	大原書房	岩波書店	大明堂	弘文堂	清水書店	岩波書店
月五	月一	月四	月十	月五	月二十	月十	月二十	月五
▲法廷に持ち出された自動車事故に對する裁判上の事實問題を取扱つたもので、民事裁判の實例外二篇。	▲一般業務上過失犯より自動車連轉手等操縦員のもので十章より成る。	▲交通事故と不法行為に就て、過失のいろ／＼と判例、損害と其の賠償に對して、企業者と使用主の賠償問題、被害者の過失、企業者との業務上過失に關する法律問題を説述せるもの。	▲警察令に依つて施行される美容術試験問題の概要と其の解釋を収む。	▲個人主義民法の根本原則を説明し又各制度に就ての交渉を明らかにせるもので、權利の立體外四章。索引。	▲著者が高松高等商業學校に於て講義せし所を内容として論述せるもので、社會生活と法權利の主體外八章。	▲緒論(四節)權利の主體(三節)權利の客體(六節)權利の變動(法律行為外一節)條文索引。	▲物權法の概念、物權通論、占有權、所有權、地上權、永小作權、地役權、留置權、先取特權、質權、抵當等十一章にて論述。	▲現行民法の物權に就いて論述せるもので、不動産物權の得喪變更に關する公信主義及び公示主義を論ず其他。索引。

鳩山秀夫 法學博士	東 季彦 法學士	中川善之助 東北帝國大學教授	穂積重遠 東京帝國大學教授	牧野英一 東京帝國大學教授	民法の基本問題 第三卷	判例民事法 第八卷 昭和三年度	新民法總則要覽	債權法總論	債權總論 上卷	債權總論 下卷	高窪喜八郎編 法學博士
布函裝入判	洋函布入判	洋函布入判	布函裝入判	布函裝入判	布函裝入判	布函裝入判	並製判	並製判	並製判	洋函布入判	洋函布入判
392	695	290	495	533	526	352	170	484	1008	853	1008
二、七〇 一、八	三、〇〇 二、二	三、三〇 一、八	三、八〇 一、八	四、三〇 一、八	四、〇〇 一、八	八〇 六	一、七〇 一、八	四、三〇 一、八	八、五〇 二、四	七、五〇 二、四	七、五〇 二、四
岩波書店	有斐閣	岩波書店	有斐閣	有斐閣	有斐閣	清水書店	大同書院	巖松堂	法律評論社	法律評論社	法律評論社
月六	月十	月四	月三	月四	月九	月一十	月四	月六	月六	月六	月六
▲承諾の効力發生時期、第三者の爲めにする債務免除の契約、事務管理の起原及び本質其他判例研究十九篇。附録五篇補遺四篇。	▲日本民法を研究するに當つて最も重要な獨逸民法を全譯せるもので、總則、債權關係の法、物權外二編。	▲親族關係(狹義の親族法)家族關係(家族法)婚姻關係(婚姻法)親子關係(親子法)後見法概観、相關法概観外一章にて論述。	▲簡明な口語體を以て所謂社會法學的に民法改訂して説明し批判したもので、本版は舊書を改訂して改訂されたもの。	▲博士は自由法論に關する研究の第三次の仕事として茲に一法律の發達における判例の職能を考へることにした。	▲東京帝國大學民法研究室の諸員が中心となつて大審院の民事法に關する判決を研究批判し集録したもので、最近十年間の試験問題及やう編述したもので、最近十年間の試験問題及拔萃表を添付す。	▲債權法の理論を簡潔に説述し、同時に我が國現時の判例法を引用せるもの。	▲債權の意義及び性質、債權の成立及びその要素、目的の態様による債權の種類等二章にて論述。	▲大正七年以降現今に至るまでの民法債權總論に關する大審院以下各裁判所の判例、司省訓令回答及法曹會決議其他を網羅せるも	▲上卷——債權法の由來其他。 ▲下卷——多數當事者の債權其他。	▲理論的な債權總論で、全編を貫くに法理論とロイマ法ドイツ普通法の知識を以てし而も債權法上の重要問題を盡く解説す。	▲民法、民事訴訟法、商法、仲裁法等に就き、簡明率直に解決を與へたもの。

高窪喜八郎編 法學博士	石田芳穂譯 法學士	池田寅二郎 法學博士	川村宗嗣 京大教授	末川博 京大教授	堀口壽 法學士	信託と證券社編 法學博士	水口吉藏 法學博士	水口吉藏 法學博士	水口吉藏 法學博士
債權總論 下卷	シヌタ ムラ	國民民事法講話	日本民商中華民國・商法 法令對照	權利侵害論	年齡と權利	商事法研究 第四年第一集	最新商法判例研究	最新商法判例研究	商法論叢
洋函布入判	布函裝入判	布函裝入判	布函裝入判	布函裝入判	布函裝入判	洋函布入判	洋函布入判	洋函布入判	洋函布入判
853	397	250	363	500	250	121	613	606	606
七、五〇 二、四	三、五〇 一、八	二、〇〇 一、八	二、〇〇 一、八	三、八〇 二、七	一、五〇 一、二	一、五〇 一、八	五、〇〇 一、八	四、五〇 一、八	四、五〇 一、八
法律評論社	巖松堂	清水書店	東亞同文會	弘文堂書房	誠明堂	信託證券社	海文堂	萬里閣	萬里閣
月六	月十	月四	月二十	月六	月一	月四	月二十	月二十	月二十
▲上卷——債權法の由來其他。 ▲下卷——多數當事者の債權其他。	▲理論的な債權總論で、全編を貫くに法理論とロイマ法ドイツ普通法の知識を以てし而も債權法上の重要問題を盡く解説す。	▲民法、民事訴訟法、商法、仲裁法等に就き、簡明率直に解決を與へたもの。	▲國民政府は最近新に民商法一典主義に依る民法各編並に會社保險手形海商土地法等二千餘條を公布す。其邦譯比較對照なり。	▲不法行為に關する研究の一部で、一般史的考察より外國の例を概観し權利法律の相關不合法行爲に於る逆法性の發現等七章。	▲年齡と法令との關係を明にし當歳より百歳迄各人の權利義務を年齡別に列擧したもので、	▲有效期間附貨物引換證の效力(西本辰之助)擔保附社債の受託會社と信託違反(板橋菊松)外八章。	▲大正十四年乃至昭和四年の大審院判例に對し一々明快なる批判を加へたもの。	▲法律解釋の價値の標準、合名會社員の持分を論ず、取締役の責任解除外十八篇。	▲法律解釋の價値の標準、合名會社員の持分を論ず、取締役の責任解除外十八篇。

西原 寛一	株式會社法の範圍内に於ける特殊法規の研究	並 菊 製 判	176	一、二〇八	刀江書院	月九	▲現代最も有力な企業形態たる株式會社に於ける特殊法規の研究で、設立關係法規、株式關係法規外五節。
小川 郷太郎	新銀行法理由	背函菊 革入判	454	五〇〇	日本評論社	月五	▲昭和三年三月廿日公布せられた新銀行法の立法理由を明らかにせるもので、銀行法制定の經過、銀行法理由の二篇。
銀行研究社編	銀行關係判例全集	洋函菊 布入判	262	一、七〇八	文雅堂	月六	▲昭和三年十月以降同四年末迄に發表された判例並に法曹會決議の中銀行業務に關係あるもの百十一項を収む。
中 田 秀雄	銀行質疑惑應答集	洋函四六 布入判	320	一、八〇八	銀行問題研究会	月一十	▲銀行業務に關する法律上の問題に一々明答を與へたるもの。
栗 栖 越 夫	歐米社債法概論	洋函菊 布入判	316	三〇〇	啓明社	月六	▲歐米諸國の社債法制及び社債制度を主として、米社債研究の二篇。
佐々 穆	各國比較會社法論	洋 菊 布 判	783	六〇〇	啓明社	月二	▲社債、社債法、會社法社債權者等凡そ社債に關係する事項に就いての詳細なる論述である。
小町 谷操三譯	商 法 史	並 菊 製 判	212	一、八〇二	有斐閣	月三	▲ボール・ユグラン氏の原著にして商法史の指導概念と大綱と資料とを極めて簡潔にしかも力強く示したものである。
水 口 吉藏	陸上物品運送法論	背 菊 革 判	556	四、五〇八	有斐閣	月三	▲我が商法の規定する運送法を論究したるもの引換證論を叙す。
西島 彌太郎	船荷證券論	洋函菊 布入判	510	四、〇〇八	弘文堂書房	月四	▲船荷證券に關する立法運用上の合理性を求め、歐米諸國の實例制度を批判しつつ、我現行法の不備を有効ならしめんとす。

鈴木 武志	取引所法通論	洋函菊 布入判	230	三、五〇八	大同書院	月七	▲取引所法令に就ての解説で、複合決済法と差金取引、取引所法の性質、取引所法人、會員と取引員外十二章。
大阪株式取引所編	取引所に關する判例集	背函四六 革入判	834	三、八〇八	大同書院	月六	▲明治廿五年より昭和五年三月迄に大審院其他に於ける株式米穀等の取引所に關する民事刑事の判決例等を輯録す。
田 中 耕太郎	手形法概論	布函菊 裝入判	653	四、〇〇八	有斐閣	月九	▲手形關係の特異性の指摘を主眼とせるもので、手形法序説、基本手形、振出、裏書、引受、支拂其他。
大野 義昌	英國手形法要論	背函菊 革入判	398	三、五〇八	有斐閣	月七	▲英國手形法に就て述べたもので、爲替手形小切手、約束手形の三章。附録 The Bills of Exchange Act, 1892 (原文)
梶 康 郎	判例手形法要覽	背函四六 革入判	323	特三、八〇二	帝國教育會	月九	▲實際上の便宜の爲に手形法規を釋明せるもので、總則、爲替手形、約束手形、小切手の四章より成る。
大澤 一六	大衆手形法教程	上 四六 判 製	316	一、二〇六	六和書房	月六	▲日常心得て置くべき手形に關する事柄を平易に説いたもので、手形の種類、約束手形の振出外三章。
竹野 竹三郎	新民事訴訟法釋義	背函菊 革入判	523	四、〇〇八	有斐閣	月六	▲實際家をして法律の理解に要領を得せしめるやう新民事訴訟法を解釋せるもので第百八十一條迄を収む。
松岡 義正	新民事訴訟法註釋	洋函菊 布入判	203	二、〇〇八	清水書店	月七	▲改正民事訴訟法の逐條解釋で、第二卷は二十一條から八十八條迄を収む。
山田 正三	改正民事訴訟法	背函菊 革入判	250	三、五〇二	弘文堂書房	月八	▲一、訴訟關係の複數及訴訟參加、二、訴訟關係の發展變更(一)訴訟成立要件、二)判決手續に於る立法主義。

法律 (訴訟法・判例)

早稲田大學教授 中村 宗雄	司省長官 長尾 茂二	東京地方裁判所法學士 栗山 茂二	普文學會	普文學會	普文學會	水本 信夫	松村 久平	尾高 武治	齋藤 常三郎
改正民事訴訟法評釋	改正民事訴訟法解釋	朝鮮民事訴訟法	新稿民事訴訟法要覽	新稿民事訴訟法要覽	改正民事訴訟法要覽	新民事訴訟法要覽	新民事訴訟法要覽	強制執行手續	破産法及和議法研究
布 菊 裝 判	青 菊 判	並 菊 判	並 三六判	並 三六判	並 三六判	青 菊 判	青 菊 判	洋 菊 判	布 菊 判
263	516	136	368	320	817	222	288	276	380
二、五〇 一八	四、五〇 二七	一、〇〇 六	八〇 六	八〇 六	六、三〇 二四	一、八〇 一八	二、〇〇 一八	三、〇〇 一八	三、〇〇 一八
巖松堂	清水書店	松山房	清水書店	清水書店	大同書院	立興社	立興社	清水書店	弘文堂書房
月四	月四	月九	月八	月八	月十	月八	月十	月二十	月六
▲新法中問題とすべき非法人社團又は財團の當事者能力、選定當事者、訴の變更、缺席手續、準備手續等に就き評釋す。	▲改正民事訴訟法の起草に關與し又當局者としての著者が逐條的に法の沿革、並に其解釋を簡明端々に與へたもの。	▲新法に依る訴訟手續、人事訴訟法、強制執行手續、民事争訟調停手續、仲裁手續、破産手續、和議手續等の概説。	▲改正民事訴訟法を受験者に尤も便利なやうに編述し最近十年間の試験問題及拔萃表を添附した受驗參考書。	▲改正民事訴訟法を受験者に尤も便利なやうに編述し最近十年間の試験問題及拔萃表を添附した受驗參考書。	▲民事訴訟の系統的な理論を骨子とし實例を配合せるもので、訴訟主體、訴訟行為、權利保護の要件及訴訟要件外五編。	▲改正民事訴訟法を主とし同施行法、同費用法、同印紙法に關する訓令回答通牒決議判例協議學說及實例の要旨を採録せるもの。	▲司省長官官制、民事局主管に係る訓令通牒回答及大審院判例其他より要旨を採り之を各種目に分類して收む。	▲假差押と假處分の手續、假差押事件に於ける保證金額を定むる標準、金錢債權に付ての強制執行概説外九章。	▲破産財團、破産發財人の職務、ニハンガリー改正和議法、其の他勞農ロシヤ、スイス、ルーマニア、トルコ和議法に付いて。

法律 (刑法)

東北帝大教授 久禮田 益喜	法曹 會編	矢島 八洲夫	法律新聞社編	半田 健次郎	青木 徹二	間 運吉
刑法學概説	大審院判例要旨類纂追録	實生活に判例新話	判決要録	判決要録	民商法判例集	破産和議の話し
青 菊 判	洋 菊 判	上 四六判	革 菊 判	洋 菊 判	洋 菊 判	並 四六判
630	328	257	1202	920	1,335	96
五、〇〇 一八	二、〇〇 二	八〇 六	六、〇〇 一八	六、五〇 二四	一、五〇 二四	五〇 四
巖松堂	法曹會	朝日新聞社	法律新聞社	調査所	同文館	三省堂
月四	月一十	月二十	月一十	月八	月五	月四
▲社会的文化科學としての刑法學の立場から嚴密な批判を加へ刑法原理を體系的に論述したものを。	▲大審院判例第六卷乃至第八卷に於ては、大審院判例の要旨を各法令に分類し其條草の順序に従つて收録せるもの。	▲社會生活に緊密な關係ある新判例を抜き出して社會生活に關するもので、質貸借關係、會社社員との關係外八篇。	▲昭和四年三月より同五年二月に至る大審院判例各條別に類纂せるもの。	▲昭和五年六月迄の刑事訴訟法に關する判例索引を附す。	▲民法商法の判例集を極く最近まであつめたもので、青木法律事務所で參照用として諸刊行物中から採書したものを行。	▲一般人士の忽にす可らざる和議法の知識を平易に詳述した常識顧問。

法律 (國際法・六法・法規集)

京大教授、九大教授 宮本英脩	司法書記官 古田正武	正木亮	中央社編	實田實男	實田實男	實田實男	立作太郎	佐々木
刑法學 第四分冊各論上	盜犯防止法解説	監獄法概論	刑法改正豫備草案 盜犯等防止法解説案	貞操蹂躪と其の裁判	貞操蹂躪と其の裁判	貞操蹂躪と其の裁判	平時國際法論	國際私法提要
並製判	並製判	並製判	並製判	並製判	並製判	並製判	並製判	並製判
160	40	180	120	273	273	273	707	365
一、三〇 一八	二五 二	一、三〇 一八	四五 六	一、〇〇 六	一、〇〇 六	一、〇〇 六	五、五〇 一八	三、〇〇 一八
弘文堂書房	良書普及會	清水書店	中央社	二松堂	二松堂	二松堂	日本評論社	大同書院
月四	月七	月九	月六	月一	月一	月一	月十	月九
▲第二編各論、第一部個人の法益に關する罪 一生命身體、二自由、三名譽、四財産	▲總説及立法理由、防衛權、防衛の範圍、加 重の必要、刑期延長、正當防衛の觀念及範圍、 正當防衛の意義、盜犯防止其他	▲監獄法を専門的な立場から誰にもわかるや う解釋せるもので十三章二十七節より成る。	▲司法省の立案に係る刑法改正豫備草案及び 盜犯等防止及處分に關する法律解説を採録せ るもの。	▲生命にも換へ難い貴重なる貞操の蹂躪問題 に對し如何にその權利を保護すべきかを九章 に對して論述す。	▲貞操蹂躪の問題に對する法律知識を收めた もので、貞操蹂躪とは何ぞや、不法行為に因 る貞操蹂躪外七章。	▲國際私法に關しての概説で、總論(國際私 法の必要外九章)國際民法(國際物權法外四 章)國際商法(國際會社法外四章)。	▲國際法の基本觀念、國際法上の主體、人、 船舶及び空間の國際法上の地位、國家の國際 關係の機關外三篇にて論述。	▲國際法の基本觀念、國際法上の主體、人、 船舶及び空間の國際法上の地位、國家の國際 關係の機關外三篇にて論述。

六法・法規集

法律 (六法・法規集)

至誠書院編	大澤一六監修	吾孫子勝	水谷幸二郎	三省堂編輯所編	三省堂編輯所編	三省堂編輯所編	三省堂編輯所編	三省堂編輯所編	三省堂編輯所編	日本法政學會編
新六法全書	帝國重六法大全	口語六法	模範六法全書 (昭和五年版)	特輯六法全書 (昭和五年版)	註釋六法全書	受驗用六法	學生用民事訴訟法	學生用刑事訴訟法	帝國憲法	帝國憲法
並製判	並製判	並製判	並製判	並製判	並製判	並製判	並製判	並製判	並製判	並製判
883	2042	703	876	1184	2272	810	389	230	214	214
二、〇〇 六	五、八〇 一七〇	二、〇〇 一〇	一、五〇 六	三、八〇 一三	四、五〇 一八	一、〇〇 六	八〇 六	五〇 四	四〇 四	四〇 四
至誠書院	昌弘社	日實本業社	三省堂	三省堂	修教社	東京弘文館	三省堂	三省堂	日學本會	日學本會
月四	月一十	月九	月五	月六	月一	月七	月三	月一	月二十	月二十
▲關係條文を網羅し重大參照條文には提要を 明示せるもので、憲法民法商法民事訴訟法刑 法刑事訴訟法等。	▲憲法及關係法令、裁判所構成法及關係法令 の六法及重要法規を收録す。	▲六法のうち民法の規定をすべて平易な現代 語で意譯しかつその難解な術語や特殊用語に 懇切な註釋を施せるもの。	▲六法全書として最も詳密に編輯したもの。	▲上下二段に組み、下段に條文を收録し、上 段には條文の註釋と法律一般の手續上の書式 とを掲ぐ。	▲受驗用、學習用として憲法、裁構法、民法 要附屬法規を特輯したるもの。	▲法學生の爲に特にノートを兼ねて居る民事 訴訟法。	▲法學生の爲に特にノートを兼ねて居る刑事 訴訟法。	▲大日本帝國憲法、貴族院伯子男爵議員選舉 規則、選舉無料郵便規則、軍令に關する件其 他を收めた法規集。	▲大日本帝國憲法、貴族院伯子男爵議員選舉 規則、選舉無料郵便規則、軍令に關する件其 他を收めた法規集。	▲大日本帝國憲法、貴族院伯子男爵議員選舉 規則、選舉無料郵便規則、軍令に關する件其 他を收めた法規集。

阿部賢一	河野重弘	田所輝明	酒井正三	武田鼎一	石川興二	住谷悦治	御木本隆三	ボグダノフ著 林村恭一譯	村上榮
常誠	浪漫派	プレブス	經濟形態	經濟學新論	經濟學の基礎問題	經濟學說の歴史性・階級性	ムネラ	經濟科學概論	マルクス主義經濟學
並製	洋製	布製	洋製	洋製	洋製	洋製	並製	洋製	布製
213	320	277	357	250	460	420	215	484	264
八〇	一、三〇	三〇	二、三〇	二、三〇	三、三〇	二、三〇	五〇	一、五〇	三〇
雄風館	共生閣	改造社	同文館	敬文堂	弘文堂書房	弘文堂書房	使命社	改造社	改造社
月二十	月三	月七	月一十	月四	月二十	月三	月二十	月九	月五
▲日常生活を左右してゐる經濟についての常識を説いたもので、景氣の話、價格と物價、金融の粗立外四章。	▲マルクス主義者のうち最も難解とされてゐるレーニンの初期の論文を譯せるもので、浪漫主義の經濟學說外二篇。	▲現代の生産、商品價値及び剩餘價値、賃銀とコムバイン外六章。附録四章。索引、トラ	▲空間と經濟(主觀的經濟外一章)時間と經濟(靜態的經濟外一章)の三篇にて論述。	▲著者實社會より收獲したる經驗と理論に依り在來の經濟學の狭義最近學說の論述の煩瑣に事實を照合して不足を補ふ。	▲精神科學的經濟學の基礎を確立せんとし於る經濟學のアリストテレス學文アダムスミスに於る經濟學の基礎問題を詳論す。	▲辨證法的唯物論の立場より經濟學史を概観せるもので、歴史學派、新歴史學派、獨逸・日本の「社會政策學會」を檢討批判す。	▲ムネラ・プリベスに於けるラスキンの經濟思想觀、ムネラ・プリベス經濟學考序文外一章にて論述。	▲マルクス經濟學を通俗平易に述べたもので自然自足社會、商業社會、社會的に組織された社會の三篇。	▲科學としてのマルクス主義經濟學、簡單な商品流通に含まる、恐慌の可能性外三章。附録二項。

大平徳	ボルハルト著 中九一譯	河野重弘	堀利彦	河野重弘	河野重弘	レノ重弘	ペー・ポリリン著 高尾正之助譯	プロレタリア 科學研究所編	大田黒研究所著
マルクス主義經濟學入門	マルクス主義經濟學大綱	マルクス主義貨幣理論	經濟學入門	經濟學とは何ぞや	經濟學教程	「轉形期の經濟學」への批判	資本蓄積と恐慌の理論	資本論入門	
並製	布製	並製	洋製	並製	並製	並製	並製	並製	
106	204	163	170	260	534	179	124	148	
五〇	二〇	六〇	四〇	九〇	一、〇〇	六〇	五〇	四〇	
紅玉堂	改造社	共生閣	白揚社	共生閣	共生閣	叢文閣	科學研究所	大衆新聞社	
月九	月七	月十	月七	月四	月五	月四	月九	月一十	
▲價値論より筆を起し過渡期の經濟に至るまで幾多の實例を示しつゝ、論述せるもので、餘剩價値の生産外九篇。	▲經濟學の意義及び對象、經濟學の階級性及び剩餘價値外四章。	▲正當なる價格と公正なる價格、需要供給の法則の不完全、労働より價値への推移、労働價値説の難關外十五章。	▲貨幣理論に關する論文及びビッグエート經濟に關する論文を收めたもので、名目論と貨幣價値の問題其他。	▲マルクス經濟學の大體を知るに最も適切な「賃銀労働と資本」價値と價格と利潤の二者を譯せるもの。	▲故ステパノフ・スクヴォルツォフの報告に基いて行はれた共産アカデミーの討論を譯せるもので、經濟學とは何ぞや外二篇。	▲マルクス主義の本質、前資本主義的經營形態並びに資本主義への過渡的經營形態、帝國主義外五章。	▲「轉形期の經濟學」への批判(ポリリン)「獨占資本主義」の組織された資本主義(チェルソン)外一篇の論文を譯載。	▲資本主義的蓄積の一般法則——トロンスキ、ノヴィツキー、ヤコブゾーリン、マルクス主義の崩壊理論——クラウスの二篇譯載。	▲資本論を理解するに最も好適なる「賃銀労働と資本」價値、價格及び利潤の二篇を譯述せるもの。

高島素之	カウツキ	改譯資本論解説	並六新 製判四	308	八〇 六	改造社	月一十	▲商品・貨幣・資本(商品外二章)・餘剩價值(生産行程外九章)・勞銀及び資本收入(資本收入外六章)―普及版―
内垣謙三	ホブソ	失業經濟學	並四六 製判	183	七〇 四	同人社	月五	▲資本家的社會の宿命的疾患たる恐慌に關する興味ある分析をなせるもので、消費の不足
岩村忍	ダグラ	金融信用論	並四六 製判	190	一〇〇 六	春陽堂	月八	▲マルキシイズムの迷妄、資産の二つの種類信用の兩面外十章。附録經濟及び産業的デモクラシイ樹立への實際的計畫案。
土田杏村	土田杏村	生産經濟學より	洋函菊 布入判	304	二五〇 一八	第一書房	月一	▲世界の經濟學界に多大の視聽をあつめてゐるダグラス一派の新經濟學說を解説せるもので、ダグラスイズムの研究外一篇。
土田杏村	土田杏村	生産經濟學より	並四六 製判	304	一〇〇 八	第一書房	月二十	▲ダグラスイズム解説とマルキシイズム批評の一端で、ダグラスイズムの研究。労働者銀行の研究の二篇八章。―普及版―
高島佐一郎	高島佐一郎	信用統制と景氣變動	洋函菊 布入判	828	四八〇 二四	同文館	月一十	▲名目主義貨幣理論の發展と新金本位制への解譯力、貨幣的景氣理論に汎歐貨幣制度論への考察外十九章。
山口正吾	カアル・クニース	貨幣論	布函菊 裝入判	544	五〇〇 二四	日本評論社	月四	▲カアル・クニースの代表作「貨幣及信用」の第一節たる貨幣を全譯せるもので、貨幣生成論、資本および利益の移轉外三章。
春日井薫	春日井薫	貨幣の幻覺	洋函菊 布入判	284	一五〇 二二	大同書院	月六	▲凡ゆる貨幣單位の購買力の不安定に關する各種の矯正策等を述べたもので、貨幣の幻覺を觀外七章。
山本米治	山本米治	貨幣錯覺	布函菊 裝入判	219	一五〇 八	日本評論社	月五	▲金本位制度と其理論の樹立、金屬主義と金本位の絕對觀、自然貨幣本位より統制貨幣本位へ外五章。

小林行昌	小林行昌	關說と物價	洋函菊 布入判	336	二五〇 一八	千倉書房	月四	▲關稅の増減と課稅商品の市價の高低との關係を闡明せるもので、關稅轉嫁の理論、關稅轉嫁の實證外一篇。
高瀬莊太郎	高瀬莊太郎	暖簾の研究	洋函菊 布入判	126	八〇 六	森山書店	月二十	▲有力なる財産の一種として一般に重要視されてゐる暖簾に就ての研究で、暖簾の意義及び性質外三節。
樋田研一	樋田研一	農民の經濟學	並四六 製判	70	二〇 二	全國農藝衛生同盟	月四	▲農村と都會、小作制度と農業、商業制度と農業以下六項目に分けて農民の經濟を平易に説述す。
獨占資本主義	獨占資本主義	獨占資本主義	並菊 製判	353	二〇〇 八	大同書院	月七	▲資本獨占化過程の分析(産業集中の分析外二章)・獨占資本主義の諸問題(獨占資本と諸階級外二章)・附録一篇。
猪俣津南雄	猪俣津南雄	没落資本主義の「第三期」	並四六 製判	367	一六〇 八	大衆公論社	月十	▲没落資本主義の「第三期」、世界經濟恐慌の發展に立つ日本資本主義外二章。
森喜一	森喜一	恐慌裡の日本經濟解剖	並四六 製判	378	一三〇 八	白揚社	月二十	▲「第三期」日本への轉向、金融寡頭政治への過程と其現段階、内的諸矛盾と其激化外一章にて説述。
青木北平	青木北平	ブル經濟ABC	並四六 製判	162	五〇 四	文藝出版部	月二	▲産業合理化と無産大衆、金解禁と無産大衆ブル財政と無産大衆、貿易政策と無産大衆、預金部と無産大衆外三章。
北澤新次郎	北澤新次郎	社會經濟論	洋函菊 布入判	487	三八〇 一八	省文社	月五	▲労働者對資本家の幾多の問題に關する研究で、賃銀制度、労働問題に對する諸思潮外四章、參考書、附録二項。
高橋龜吉	高橋龜吉	株式會社亡國論	上函四六 製入判	395	一五〇 二二	萬里閣	月一十	▲現在の株式會社が如何に腐敗し如何に社會を毒してゐるか等に就て述べたもので、株式會社頹廢の研究外一篇十二章。
太田正孝	太田正孝	人情亡國論	布函四六 裝入判	316	一五〇 二二	萬里閣	月一	▲人情亡國論―婦人の經濟領域(にはか作り大要(生活は欲から外十四章)。

經濟・商業 (經濟史・經濟學史)

下田將美	經濟と生活	上四六判	343	一、八〇	一元社	月四	▲大量生産と購買力過少、大資本主義は何處へ往く、現代女性生活の過渡相、新しき産業平和の世界の外十五篇。
前田繁一	日用品の買方	並四六判	123	五〇	經濟知識社	月十	▲豫算生活の不正札、不合理な生活振り、商店に依つて違ふ損失外一篇。
榊原平八	暮らし方の研究	並四六判	226	五〇	新政社	月二十	▲人間生活に對する疑惑、數字に表はれた大衆の生活、消費の合理化問題、家財管理の合理的な生活。
益富政助	節約讀本	並菊判	364	一、三〇	鐵道青年會	月一	▲我國の經濟的復興に關して通俗に説述せるもの、節約の國家的必要、節約の家庭及個人的必要外二篇。
野田兵一	新聞經濟面の讀み方	並四六判	426	一、三〇	第一出版社	月四	▲新聞經濟面の概観、金融記事の讀み方、信託の話、保險の話、外國爲替の記事、公債と社債の外二篇。
長谷川光太郎	經濟記事の見方	並三五判	112	一〇	誠文堂	月九	▲新聞の經濟記事と金融のこと、安心して儲ける信託、保險のいろ、生活を變化させる物價外三篇。

經濟史・經濟學史

瀧本誠一	經濟史研究	洋函菊布入判	638	五、〇〇	啓明社	月三	▲史論(經濟史の學理的な研究外五章)經濟史(徳川時代)に於ける重農の意義外九章)經濟學(心理派の經濟思想外十一)。
小林良正	經濟史論考	洋三六判	160	五〇	春秋社	月三	▲ヨーロッパ經濟史概説(封建社會、資本家社會の外二篇)。
加藤文雄	綜合經濟史	洋函菊布入判	402	三、三〇	大燈閣	月一	▲原始人民から現時の最高文明國に亘り其發達の過程を採取經濟、農牧遊動經濟、定住村落經濟外三章にて説述せるもの。

經濟・商業 (經濟史・經濟學史)

アツシニレト著	英國經濟組織の史的考察	洋函四六判	341	二、五〇	森山書店	月十	▲英國の經濟史的發展を敘述し古今に亘る重要問題を網羅せるもので、英國の農業制度、出發點としてのマナー外七講。
瀧本誠一	訂改歐洲經濟史	洋函菊布入判	328	二、八〇	株式會社善	月九	▲近世の部、中世の部二部別冊とし、特に近世の部に於ては新に數章を起草し、又東洋に關する記事をも掲録す。
石濱知行	アメリカ資本主義發達史	布四六判	407	一、七〇	千倉書房	月五	▲アメリカ文化の基礎をなす經濟制度變革の歴史の鳥瞰的觀察で、歴史以前のアメリカ、アメリカ革命前後外七章。
栗栖赴夫	日本國民經濟小史	洋函菊布入判	107	一、〇〇	啓明社	月一	▲我國の經濟的發達其のもの、の闡明を目標として記述せるもので、上古時代に於ける經濟狀態外十一。
本庄榮治郎	日本經濟史概説	並菊判	133	一、〇〇	刀江書院	月九	▲金融及交通史に就て論述せるもので、貨幣及金融、交通、經濟狀態の推移の三章。
瀧本誠一	日本封建經濟史	洋函菊布入判	630	四、八〇	株式會社善	月七	▲封建制度、徳川氏及諸大名財政の窮乏、徳川時代の道路驛傳、封建時代の經濟思想外十篇。附録武家制度外三章。
瀧川政次郎	日本奴隸經濟史	洋函菊布入判	562	三、八〇	刀江書院	月一十	▲日本の奴隸制度を主として労働史方面より研究せるもので、日本經濟史上の奴隸制度、日本の奴隸史論考の二部。
細川龜市	日本寺院經濟史論	洋函菊布入判	602	六、〇〇	啓明社	月一十	▲中世社會組織の一動脈たる寺領の發生と其の變遷に對して論述せるもので、寺領の概念本邦寺領の成立と發展外十章。
野呂榮太郎	日本資本主義發達史	洋函菊布入判	339	二、五〇	鐵塔書院	月二	▲日本資本主義發達の歴史の諸條件其他二編にて論述。
野呂榮太郎	日本資本主義發達史	並菊判	339	一、〇〇	鐵塔書院	月十	▲日本資本主義發達の諸條件、日本に於ける土地所有關係の特質外一篇。

經濟・商業 (經濟問題・財界・景氣)

小葉田 淳	日本貨幣流通史	洋函菊 布入判	458	三、二〇 一八	刀江書院	月一十	▲中世に始まり近世初期に至る間の貨幣流通の發達を敘述せるもので、銅錢、金銀の二編附録一篇。
松好 貞夫	土佐藩經濟史研究	布函四 裝入判	321	二、〇〇 一八	日本評論社	月五	▲土佐藩經濟史に關する論文を録したもので、財政、藩札、借知、武家政治と町人の財力外六章。
本庄 榮治郎	増訂 西陣研究	洋函菊 布入判	374	三、五〇 一八	改造社	月五	▲世界市場に於ける工藝品中特殊の地位を占めてゐる我西陣織に就て其の發展の歴史、工業組織等より論述せるもの。
本庄 榮治郎編	明治維新經濟史研究	洋函菊 布入判	812	五、〇〇 二四	改造社	月六	▲幕末の新經濟政策(本庄榮治郎)會社に關する知識の移植(菅野和太郎)明治政府の貸付金(吉川秀造)外十二篇。
關 未代 策譯	經濟學史	布函菊 裝入判	441	三、八〇 一八	巖松堂	月二十	▲社會の狀況並に社會思潮等に關聯して交錯される經濟的理論の起原及進歩の批判的敘述で、經濟學史外十五章。
波多野 鼎	價值學說史	洋函菊 布入判	355	三、〇〇 一八	巖松堂	月十	▲第三卷はデイーツェルの價值學說、クラークの價值學說及び價值學說、マシーナルの均衡價格學說の三章。
八木澤 善次	經濟思想史論	洋函菊 布入判	424	三、八〇 一八	啓明社	月一十	▲經濟學成立の歴史、古典派經濟學、社會主義經濟學、反動的個人主義經濟學の擡頭と發展經濟學の學派外二章にて論述。
八木 秀一	經濟暴風裡を歩む	並 四六判 製	2-3	一、三〇 六	大同書院	月六	▲目的、金解禁の作用、吾財界行詰原因と合理化難の諸相外九章。
中外商業新報 編輯	經濟國難打開の途	並 四六判 製	294	一、五〇 六	千倉書房	月五	▲財界整理と新事業發展によれ(井上準之助)經濟政策を樹て直せ(三土忠造)産業資金の圓滑を圖れ(牧田環)外四十九篇。
川崎 克	經濟受難時代の活路	並 菊判 製	36	一、五 二	平凡社	月七	▲地球上の經濟恐慌時代、不況の原因、舊平更解せる經濟生活外八章。
山本 条太郎	經濟國策の提唱	並 四六判 製	394	五〇 六	日本評論社	月八	▲經濟國策の基調を簡明に説述せるもので、實態、農村振興策外十一章。
井上 準之助	世界不景氣と我國民の覺悟	並 四六判 製	90	三〇 四	經濟知識社	月八	▲世界不景氣と其の原因、世界不景氣が日本の經濟界に及ぼせる影響外六章。附録世界不景氣の基本的解説。
武藤 山治	井上藏相の錯覺	並 四六判 製	166	三〇 四	東洋經濟新報社	月八	▲世界の不景氣と我國不景氣の關係、金解禁の影響に就いての井上藏相の錯覺外九章。附録佛蘭西好景氣の研究外二章。
三土 忠造	經濟非常時の正視	並 菊判 製	196	七〇 八	日本評論社	月一十	▲我が國不景氣の原因を究めその對策を講述せるもので、不景氣襲來の原因、不景氣對策の前提外十四章。附録諸統計表。
矢野 恒太	財界立直しの一策	並 四六判 製	55	一〇 二	日本評論社	月九	▲今日の遺物、反社會政策也との非難、所得から天引き納税外十八章。
和田 六灘子	財界は脈打つ	布 四六判 裝	354	一、八〇 一〇	一元社	月七	▲ビヂネス・ドクター、協定を撤回すべし、高等遊民の悲鳴、卒業生の就職難、立廻れの小賣物價外百五十五篇。
國民新聞社 編輯	財界行進曲	並 四六判 製	328	一、三〇 八	正和堂	月三	▲金解禁直前に於ける我が財界が如何に動きつゝあつたかを紹介せるもので、國有鐵道、取引所を中心にして外廿三篇。
時事新報景氣研究所長 勝田 貞次	新平價論ノ誤謬ト財界ノ推移	並 菊判 製	210	一、〇〇 八	春陽堂	月十	▲文字通りに一大轉換期に直面してゐる日本の財界轉換の機構、徑路、方向等を基礎的に論述せるもの。
時事新報景氣研究所長 勝田 貞次	財界は何處へ行く	並 菊判 製	187	一、〇〇 八	春陽堂	月二十	▲不景氣の制約條件、不景氣の原因と對策、資本主義第三期節果して承認されるや否や、安定は整理次第外六十五章。

經濟・商業 (經濟問題・財界・景氣)

川崎 克	經濟受難時代の活路	並 菊判 製	36	一、五 二	平凡社	月七	▲地球上の經濟恐慌時代、不況の原因、舊平更解せる經濟生活外八章。
山本 条太郎	經濟國策の提唱	並 四六判 製	394	五〇 六	日本評論社	月八	▲經濟國策の基調を簡明に説述せるもので、實態、農村振興策外十一章。
井上 準之助	世界不景氣と我國民の覺悟	並 四六判 製	90	三〇 四	經濟知識社	月八	▲世界不景氣と其の原因、世界不景氣が日本の經濟界に及ぼせる影響外六章。附録世界不景氣の基本的解説。
武藤 山治	井上藏相の錯覺	並 四六判 製	166	三〇 四	東洋經濟新報社	月八	▲世界の不景氣と我國不景氣の關係、金解禁の影響に就いての井上藏相の錯覺外九章。附録佛蘭西好景氣の研究外二章。
三土 忠造	經濟非常時の正視	並 菊判 製	196	七〇 八	日本評論社	月一十	▲我が國不景氣の原因を究めその對策を講述せるもので、不景氣襲來の原因、不景氣對策の前提外十四章。附録諸統計表。
矢野 恒太	財界立直しの一策	並 四六判 製	55	一〇 二	日本評論社	月九	▲今日の遺物、反社會政策也との非難、所得から天引き納税外十八章。
和田 六灘子	財界は脈打つ	布 四六判 裝	354	一、八〇 一〇	一元社	月七	▲ビヂネス・ドクター、協定を撤回すべし、高等遊民の悲鳴、卒業生の就職難、立廻れの小賣物價外百五十五篇。
國民新聞社 編輯	財界行進曲	並 四六判 製	328	一、三〇 八	正和堂	月三	▲金解禁直前に於ける我が財界が如何に動きつゝあつたかを紹介せるもので、國有鐵道、取引所を中心にして外廿三篇。
時事新報景氣研究所長 勝田 貞次	新平價論ノ誤謬ト財界ノ推移	並 菊判 製	210	一、〇〇 八	春陽堂	月十	▲文字通りに一大轉換期に直面してゐる日本の財界轉換の機構、徑路、方向等を基礎的に論述せるもの。
時事新報景氣研究所長 勝田 貞次	財界は何處へ行く	並 菊判 製	187	一、〇〇 八	春陽堂	月二十	▲不景氣の制約條件、不景氣の原因と對策、資本主義第三期節果して承認されるや否や、安定は整理次第外六十五章。

經濟・商業 (産業合理化・産業問題)

マネジメント部編	松岡均平	調査部編	鈴木武志	平井泰太郎	平井泰太郎	北澤新次郎	遊佐敏彦	シエルドン著	蒲生俊文	
産業合理化の諸現象	國を擧げて産業合理化に邁進せよ	労働階級から見た産業合理化	歐米合理化運動と日本	産業合理化圖表選	産業合理化圖表選	産業組織論	産業組織と失業問題	産業管理の哲學	産業管理の哲學	
並四六判	並四六判	並四六判	洋四六判	並四六判	並四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	
118	166	134	202	45	47	307	216	378	378	
七〇	七〇	七〇	一五〇	三〇	五〇	一五〇	一五〇	一八〇	一八〇	
ンマネジメ	ンマネジメ	ンマネジメ	イルアドヴカ	そざりてあ	そざりてあ	省文社	そざりてあ	人格社	人格社	
月二	月四	月四	月二	月五	月六	月六	月四	月一十	月一十	
▲主としてドイツに於ける産業合理化その實施の途上に起つた諸現象とその結果とについて詳述したものである。	▲我國に於ても産業を合理化するの急務なる所以を述べ、合理化の内容と之れを實行する方法とを詳細に説明したものである。	▲主としてドイツの労働階級について、彼等が合理化の各過程に對していかなる感想を懐いてゐたかを業種別に述べたものである。	▲歐米鐵鋼業者の合理化を説き内地同業者の營業方針を指示す。	▲企業組織、工場經營、作業、執務、財務、配給等。	▲産業合理化中央機關組織、企業組織、工場經營、作業、執務、財務、配給等。	▲第一部、産業合理化理論—總説、企業組織、生産改善、規格統一、標準化、單一化其他、第二部、産業合理化事情一般。	▲機械生産質銀制度を中心として其の理論的並びに實證的検討をなせるもので、現代産業組織の展開外四章。	▲失業問題と其の範圍、失業の原因としての季節的變動、産業制度の推移と失業、失業救済の沿革外七章。	▲現今科學として考へられ初めた産業管理に就ての論述で、社會的及産業的背景、管理の社會的責務外六章。	▲現今科學として考へられ初めた産業管理に就ての論述で、社會的及産業的背景、管理の社會的責務外六章。

經濟・商業 (財閥・經濟風土記)

高橋龜吉	大阪毎日新聞	東京毎日新聞	東京毎日新聞	帝國興信部編	小島精一	神長倉真		
日本の産業哲學	財閥盛衰記	財閥盛衰記	財閥盛衰記	財閥研究	モルガン王國	財界巡禮記		
並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	洋四六判	並四六判	並四六判		
167	251	337	636	336	320	320		
八〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一五〇	一五〇	一五〇		
アルス	明星書院	明星書院	帝國興信所	日本評論社	千倉書房	千倉書房		
月八	月三	月六	月二十	月四	月五	月五		
▲僕の産業哲學、機械は新しい救世主、僕の大生産主義、成功について外一篇。附録フオードの富は世界第一。	▲二十世紀が生んだ新しい學問の一つたる産業心理學を論述せるもので、産業心理學概論、職業心理學外十章。	▲近代資本主義、大規模産業、分化と合成、配給組織、信用組織、金融的機構、ソビエチズム、共同統制等について解説。	▲三井、住友、安田、淺野、大倉、古河、川崎、大川等の各財閥の内面を解剖した書で、日本財閥の總體的解剖以下十章。	▲雜誌「エコノミスト」誌上に連載された財閥友記の綜合版で、三井王國、三菱王國、住友王國、安田王國の四篇。	▲地方財閥及び中堅財閥の巻より成るもので、江州系、神戸系、京都系、商船系、鴻池系、古河系、大倉系其他。	▲第二輯は財界の兩横綱三井三菱の研究で、三菱財閥(三井の勃興以下廿章)三菱財閥(三菱大成の素因外十六章)。	▲非資本の寡頭支配の發展とその内的連鎖の構成等を概観せるもので、モルガン治下の銀行集中外十一篇。	▲我實業界の過去六十年間に於ける發達の因由を明らかにしたもので、紡績の本場ランカシャーの凋落外十八章。

經濟・商業 (世界經濟事情)

白柳秀湖	西野喜與作	岩井良太郎	福澤桃介	時事新報社	東京日々新聞社	大阪毎日新聞社	大阪毎日新聞社	倉繁義信
續財界太平記	歴代藏相傳	重役レビ	財界人物我觀	新日本の工業地帯	經濟風土記	經濟風土記	經濟風土記	大東京物語
四六判	洋四六判	並四六判	布四六判	布四六判	布四六判	布四六判	布四六判	並四六判
459	315	182	284	308	570	532	500	327
二〇〇	一五〇	八〇	一八〇	一五〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一五〇
日本評論社	東洋經濟社	明星書院	モダンドヤ	經濟知識社	刀江書院	刀江書院	刀江書院	正和堂
月五	月四	月六	月二	月六	月二	月三	月六	月四
▲明治維新以後六十餘年間資本主義的經濟組織の上を進行し來た既成政黨の政權爭奪史で十二篇より成る。	▲歴代藏相を本位として、通俗財政史で、山利公正の巻、松方正義の巻、高橋是清の巻、濱口雄幸の巻外十四篇。	▲現在日本の産業界に活躍してゐる著名な重役、會社を具體的に論じたもので、重役ケイスト論外十篇。	▲財界の人物月旦で、岩崎彌太郎、莊田平五郎、三井八郎右衛門、各務鎌吉、金子直吉、山下龜三郎外十二氏。	▲新日本の工業地帯を紹介せるもので、鶴見の川崎工業地帯、尾張三河の工業地帯、京大阪の工業地帯外二篇。	▲北海道及び長野、新潟の二縣に亘り地方風土と産業發達の過程にひそむ特殊の相關關係を探究つたもの。	▲香川縣の卷、徳島縣の卷、愛媛縣の卷、高知縣の卷に大觀せるもの。	▲關西財界の中心たる京阪の外割を形造つてゐる和歌山、三重、滋賀、岐阜の四縣を収めたもの。	▲大東京市民の經濟實情を正確な材料に依つて觀察せるもので、生ひ立ち、構成人口、經濟生活の三篇。

世界經濟事情

經濟・商業 (世界經濟事情)

世界經濟研究所編	ウァルガ著	ウァルガ著	ウァルガ著	ウァルガ著	ウァルガ著	ウァルガ著	ウァルガ著	ウァルガ著	小島精一	ブヘーリオン著	野村武一著	勝田貞次
世界經濟年報	世界經濟年報	世界經濟年報	世界經濟年報	世界經濟年報	世界經濟年報	世界經濟年報	世界經濟年報	世界經濟年報	世界經濟と合理化運動	世界經濟と帝國主義	ドイツ財界の機構	ドイツ財界の機構
並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	洋四六判	洋四六判	布四六判
348	269	331	232	389	256	223	337	270	327	327	270	327
一、五〇	一、〇〇	九〇	七〇	八〇	八〇	八〇	一、五〇	一、三〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇
千倉書房	叢文閣	叢文閣	叢文閣	叢文閣	叢文閣	叢文閣	叢文閣	叢文閣	千倉書房	希望閣	千倉書房	千倉書房
月八	月四	月五	月八	月十	月九	月十	月四	月一	月十	月一	月一	月十
▲世界經濟の進行を科學的に觀察せるもので、銀、失業外二篇。	▲一九二九年第三期四年(七月十六日より十月廿日まで)に於ける經濟及び經濟政策を收む。附録アメリカ恐慌の發展。	▲一九二九年第四期四年に於ける經濟及び經濟政策を收めたもの。附録農業恐慌と一般恐慌外三篇。	▲國際經濟恐慌のまつた、な、國際農業恐慌、世界經濟の一般様相、特殊的部分等四部附録件名索引人名索引及統計表。	▲一九三〇年第二四半期に於ける經濟及び經濟政策を收めたもの。恐慌の擴大と深刻化特殊的部分の二部。	▲現在の世界經濟恐慌に關するコミンタインの理論家達の論文を譯したもので、五部より成る。	▲コミンタイン及びその諸支部の人々の論文を集めたもので、世界經濟恐慌は尖鋭化する外一部。	▲世界經濟の動き(太平洋沿岸に於ける列國資本主義の本質)外三篇。	▲世界經濟と資本の國際化の過程、世界經濟と資本の國民化の過程、世界經濟の將來と帝國主義外一篇。	▲經濟の世界化と新資本主義運動、變質過程にある復興獨逸の資本主義機構、獨逸の産業合理化運動外二篇。	▲經濟の世界化と新資本主義運動、變質過程にある復興獨逸の資本主義機構、獨逸の産業合理化運動外二篇。	▲經濟の世界化と新資本主義運動、變質過程にある復興獨逸の資本主義機構、獨逸の産業合理化運動外二篇。	▲經濟の世界化と新資本主義運動、變質過程にある復興獨逸の資本主義機構、獨逸の産業合理化運動外二篇。

經濟・商業 (統計學・人口問題)

米野 豊 實	大竹 博 吉 編	前川 井 參 市 編	高山 洋 吉 譯	經濟批判會 譯	小島 精 一	市毛 孝 三	宗藤 圭 三	郡古 菊 之 助
サウエート 經濟の實體	ソヴェート 五年計畫	ソヴェート 五年計畫とは何か	ソヴェート 五年計畫	國際農業恐慌	アメリカ恐慌の見透し	ブラジルの産業と經濟	統計學 原理	統計學 研究
並 四六判	並 四六判	並 四六判	並 四六判	並 四六判	並 四六判	並 四六判	洋函編 布入判	洋函編 布入判
300	312	114	161	167	150	522	540	460
一、五〇八	一、〇〇八	五〇四	五〇六	六〇六	一、〇〇八	一、八〇二	四、八〇二	三、八〇一
千倉書房	問題研究所	世界社	大衆公論社	叢文閣	千倉書房	寶文館	弘文堂書房	同文館
月九	月七	月七	月二十	月二十	月一十	月五	月一十	月一
▲サウエート現勢力派の死活問題たる農業政策に其の重點を置いて論述せるもので、大戦前の經濟状態外十六篇、總覽編、工業篇、農業篇外二篇。	▲五ヶ年計畫とは何か？、ソヴェートの労働者と五ヶ年計畫、ソヴェート聯邦の解放された婦人と五ヶ年計畫の三篇譯出。	▲十五ヶ年計畫の問題(クリイニング)十五ヶ年計畫に關する論争(クルシヂャノフスキ)外一篇。	▲コミンタンの線に沿つた國際農業恐慌論各國外二部。	▲昨秋の證券恐慌の勃發以來其の情勢依然として下降的進路を辿つてゐるアメリカ景氣に就て論述せるもの。	▲ブラジルの全國を舞臺面としてその産業及び天然植物の利用外廿六篇。	▲經濟生活に關聯したる統計に就ての論述で國內外第一章、國際財政統計、財政統計の研究法外一章。	▲經濟學社會學經營學方面の研究者に取つて必要なる統計學の意義外十八篇。	▲統計學の觀念、獨立性、組織等に關する見解、統計學の出發點たる法則や發達過程經濟及等統計學の可能性等。

經濟・商業 (財政・豫算・租稅)

大内 兵 衛	大畑 文 七	本庄 榮 治 郎	吉田 秀 夫	堀 經 夫	伊 尾 秀 磨	マ 尾 一 磨	林 惠 海	東京政治經濟研究所	田村 市 郎	沙 見 三 郎
財政學 大綱	社會的 財政學	人口及人口問題	マルサスと彼の業績	人口	人口	人口	人口	經濟調査の仕方	經濟統計學	財政統計
並 菊 判	洋函編 布入判	洋函編 布入判	布函編 裝入判	布函編 裝入判	背函編 革入判	並 菊 判	並 菊 判	並 四六判	洋函編 布入判	洋函編 布入判
289	432	258	605	684	281	180	452	158	九〇六	二、五〇二
一、六〇二	三、五〇一	一、八〇二	四、五〇二	六、八〇三	一、三〇二	八〇六	二、五〇二	九〇六	二、五〇二	九〇六
岩波書店	丁酉出版社	日本評論社	改造社	岩波書店	刀江書院	日本評論社	日本評論社	日本評論社	日本評論社	日本評論社
月六	月一十	月二十	月三	月九	月十	月二十	月二十	月二十	月十	月十
▲社會科學の歴史性、財政思想の發展、財政の經濟的性質外十六篇。	▲社會的機能、財政の組織、財政の職能外一編、十六篇。	▲上古の都市人口、徳川時代の人口、徳川時代の人口の都市集中、徳川時代の人口制限外二篇。	▲マルサスの人口論を彼の歴史的記述との關係に於て説けるもので、人口論、經濟學、道徳哲學及び政治哲學外二篇。	▲人口原則より生ずる害を除去するものとして、諸種の社會に提案せられ又は實施せられたるマルサスの人口論を彼の歴史的記述との關係に於て説けるもので、人口論、經濟學、道徳哲學及び政治哲學外二篇。	▲人口現象の根本問題を社會學的に研究せるもの、人口論序説、人口統計學的理論、心理學的理論外二篇。	▲人口現象の根本問題を社會學的に研究せるもの、人口論序説、人口統計學的理論、心理學的理論外二篇。	▲調査を行ふに當つての極く一般的な心得を通俗的に説いたもので、調査の題目主題又は分野の選擇外十五篇。	▲經濟學社會學經營學方面の研究者に取つて必要なる統計學の意義外十八篇。	▲統計學の觀念、獨立性、組織等に關する見解、統計學の出發點たる法則や發達過程經濟及等統計學の可能性等。	▲財政生活に關聯したる統計に就ての論述で國內外第一章、國際財政統計、財政統計の研究法外一章。

中川 與之助	財政現象の研究	洋函菊 布入判	271	二、〇〇 一、八〇	日本評論社	月二	▲政治團體としての寺院と財政の二部に分ちて論述した書。
長谷川 安兵衛	豫算統制の研究	洋函四 布入判	120	八〇	森山書店	月十	▲會計學の近代的革命、豫算統制の進展と現狀、豫算統制の本質、豫算の編成外三章にて論述。附豫算統制に關する参考文献。
前田 美稻	豫算の知識	並函四 製入判	359	一、五〇 一、二〇	千倉書房	月八	▲從來難解とされてきた我が國の豫算制度に就いて知つて置かねばならない知識を説いたもので、豫算調製編外三篇。附録一篇。
中津海 知方	豫算の話	並函三 製入判	112	一〇	誠文堂	月九	▲國政の主要問題である豫算に就いて詳述せるもので、豫算とはどんなものであるか、豫算の二大内容外四篇。
久保 寺三郎	プロレタリアと日本の財政	並函四 製入判	256	一、三〇 一、〇〇	一元社	月七	▲財政現象と無産階級、資本主義の矛盾と諸階級外十一篇。國家總動員計畫と行政費、租税と費の膨脹、國家總動員計畫と行政費、租税と諸階級外十一篇。
西野 喜與作	市町村豫算の見方	背函四 洋布入判	282	一、八〇 一、二〇	秀文閣	月三	▲最も生活に密接な關係を有する地方財政に就いて説述せるもので、豫算の見方、見方の實例外一篇十三篇。
堀内 正作	市町村稅務	洋函四 布入判	677	一、八〇 一、二〇	務大協 會財	月一	▲國稅、地方稅、所得稅、營業收益稅、相続稅、營業稅、地方稅、附加稅、特別地稅、家屋稅、徵收稅、雜種稅、戶數割、其他。
神戶 正雄	租稅研究	布函菊 裝入判	380	三、七〇 二、七〇	弘文堂書房	月五	▲所得稅收益稅消費稅地方稅、租稅制度に關する論議、尙問題の百貨店稅自働車稅に付いて現行制度の不備を論ず。
朝日新聞編輯部	稅の解説	上函四 製入判	202	五〇 六〇	朝日新聞社	月七	▲國民が納稅者として心得て置かねばならぬ事項を解説せるもので、稅金とはどんなものか納稅者の心得外三篇。稅金とはどんなものか納稅者の心得外三篇。
松本 俊編	個人所得稅の問答	並函四 製入判	190	五〇 四〇	務大協 會財	月七	▲所得と純益の二編に分けて法律の條文順に配列せる問答集、附録救濟手續。

小島 昌太郎	交通經濟論	背函菊 華入判	263	三、五〇 一、八〇	日本評論社	月四	▲交通の意義、交通經濟論の内容、交通及交通機關發達の效果、交通事業に於ける獨占外六章にて論述。
日本交通協會編	一九三〇年の交通問題	洋函四 布入判	282	一、五〇 一、二〇	通日協 會交	月八	▲東京市内で開催した第一回交通講習會に於ける各教師の教材を収めたもので、陸上運送、丹羽武朝外七篇。
チンマーマン著 松葉 榮重譯	海運及其經營	布函菊 裝入判	345	二、五〇 一、八〇	弘學館	月二	▲海運と其の經營法との研究で、海洋、港及終着港、海上運送具、積荷、運送、組織及管理、運賃率及財政外附録一章。
住田 正一	海事業叢談	並函四 製入判	145	一、二〇 六〇	巖松堂	月二	▲日本の帆船時代の習慣や傳説に就いての研究で、沖の暗いのに、落葉能、我國の海上保險、湊の今昔外四篇。
飯島 幡司	造船を中心として	上函四 製入判	356	二、〇〇 一、二〇	そごろ さきえてあ	月九	▲造船の技術と經營と經濟とに就いて述べたもので、今日の造船業は何處に立つ、デイゼーの經濟相外四篇。寫眞説明十九葉。
野坂 相如	都市の交通と地下鐵道	並函四 製入判	100	三〇 二〇	三省堂	月一十	▲都市交通と地下鐵道に就いて常識的に解説した小冊子。
井上 萬壽藏	鐵道の話	並函四 製入判	42	一、五〇 二〇	育社 學會教	月九	▲蜀犬日に吠ゆ(鐵道知識の普及)、左大臣矢大臣(鐵道の意義)、べからずの花(鐵道公德の問題)外十篇。

交通・海運・鐵道

上野陽一	能率秘話	四六判	304	一、五〇	千倉書房	月五	▲合理化問答、アメリカ産業の今昔、企業内 部組織最近の進歩、支配人性の發見と教養、 事業失敗の秘訣十二ヶ條外十一ヶ條
マネジメント社	フォードの工場經營原則	四六判	136	七〇	メント社	月十	▲フォードの工場管理と其經營方法中重立つ た點を經營管理の原則に照して檢討批判した もの。

商學論集・商業史

立教大學	商學論叢	並製	272	七〇	立教大學	月二十	▲農業恐慌論(河西太郎) 其他研究批評紹介五篇を 収む。(荒木光太郎) 其他研究批評紹介五篇を 収む。
大倉高等商業學校	記念論文案	布製	350	一、三〇	同文館	月十	▲景氣、貨幣、統計、生絲市場、銀行法、販賣員 管理、太陽系、原價、マルサス等に關する十二 氏の論文を集めたもの。
緒方登喜	賣買組織論	洋布	372	二、七〇	式會社	月二	▲貨物配給の原理に關する機能的研究の展 開。
平沼淑郎	商業史	並製	240	一、八〇	敬文堂	月三	▲著者早稻田大學に商業史を講ずること十數 年書屋に研究數十年最新の史料を加へ特に古 代及上古の商業に就き詳述す。
菅野和太郎	日本商業史	洋布	352	一、八〇	日本評論社	月八	▲第一期市時代、第二期商時代、特權商人 時代、第三期商人商業時代、第四期近代商 業時代、取引所商業時代等にて論述。
上里春生	江戸書籍商史	洋布	224	三、五〇	出版社	月十	▲開府期の文化と幕府の公務活動、開府期の 出版と書肆の狀態、徳川幕府の文教政策、大 江戸の小説本外三章。

證券・株式・取引所

山東達郎	米國に證券投資會社	四六判	103	一、〇〇	モダンド社	月八	▲投資機關として缺くべからざる證券投資會 社に就いて述べたもので、證券投資とは何か 作用及び經營法外十章。
藤原麗風	實際知識	洋布	240	二、〇〇	獨文社	月一十	▲證券市場を中心とする證券投資の經濟知識 を説くもので、市價の變動原因、證券市 場、取引員の三編。
叔山仁三郎	株式賣買	洋布	321	一、五〇	春陽堂	月六	▲株式賣買の制度及び實際に就いて説明せる もので、賣買取引、違約處分、取引所及び取 引員外二篇、附録株式語彙其他。
勝田貞次	株式相場場の仕方	洋布	266	一、五〇	春陽堂	月六	▲株式相場を全面的に解剖せるもので、社會 生活と株式相場、株式相場は見方よりも仕方 利喰の仕方外九十三章、附録六章。
勝田貞次	財界診斷の方法	洋布	396	一、五〇	春陽堂	月十	▲財界先見の一つの有力なる手段たる財界診 斷に就いて述べたもので、財界統計、財界分析 財界機構論外二章。
三浦弘一	株式相場變動論	洋布	371	一、五〇	春陽堂	月十	▲現代實業家にとつて缺くべからざる常識た る株式相場に就いて述べたもので、株式相場、 放資と投機外十二章。
市波禮吉	日本買占史	洋布	291	一、五〇	春陽堂	月二十	▲經濟社會に於ける商行爲の一つである買占 株式買占史外二章、附録米の代表的買占、所 に就いて論述せるもので、緒論、我國の取引所 長期清算取引の方法、株の騰落の内幕、術語 辭典外二章。
富岡林太郎	株式期米相場場の知識	並製	118	一、〇〇	誠文堂	月二十	▲一般投資家の爲めに説いたもので、株式は 世襲財産として持つべきものに非ず外二章及 び實戰篇。
中田利保	株式相場實戰	洋布	275	一、三〇	駿々堂	月七	▲日本の株式の中で最も買占の多い東株に就 いての徹底的研究で、何故東株の研究が必要 ? 外十七節。
牧野清一郎	東株相場場の徹底的研究	洋布	310	二、五〇	正和堂	月五	

市場・倉庫・商品

大野 勇	中央市場建營誌	並商菊 製入判	287	一、五〇 一八	寶文館	月九	▲中央市場建營の實績を記述公表せるもので、立法の沿革、老舗の算定、會社の業績、開業の直前外十一及附録。
東田 藤吉	倉庫講話	布西四六 裝入判	386	二、五〇 二二	大阪屋號	月十	▲倉庫業の概念、倉庫業の經濟的官能、倉庫の技術的設備、倉庫證券及倉庫證券外八章にて論述。附録四章。
上坂 西三	重要商品學	洋商菊 布入判	458	三、五〇 一八	泰文社	月四	▲總論、各論の二篇に分けて、商品全般に關する統一的な研究をなせるもので、商品學、食料商品、雜商品外四章。
實業界社編	優良商品紹介號	洋信四 布判六	94	一、〇〇 一八	實業界社	月一	▲國産優良商品を紹介せるもので、東洋一の優良製菓永製菓株式會社のキャラメル其他を初め二十六章。
水口 音三郎	日用商品圖話	洋商四六 布入判	506	一、五〇 二二	博文館	月八	▲茶、咖啡、葡萄酒、二重富士、絹羊毛其他平生愛用せらるゝ日用商品の沿革、栽培、製造、性質貿易等に互つて述べたもの。
津田 幹夫編	化學商品辭典	洋商四六 布入判	585	四、〇〇 二二	同文館	月一十	▲化學工業に關する商品の一般につき簡単に要點を列舉して解説せる辭典。
大槻 爲八	改正 外國爲替實務誌	洋商菊 布入判	550	二、〇〇 一八	同文館	月一十	▲外國爲替の意義及其原因、外國爲替手形、利付爲替手形、出合爲替手形並に其實務、外國爲替相場外十二章。普及版。
橋本 修	最近外國貿易實踐提要	洋商菊 布入判	160	一、三〇 一〇	松邑三松堂	月二十	▲外國貿易の概念、外國貿易事務、取引開始、取引條件、輸出入書式、外國電報爲替、海運、海上保險、其他。

石井 靜人	最新外國貿易實踐及英語商業通信	洋商菊 布入判	512	四、五〇 二四	丁酉出版社	月五	▲外國貿易に關する一切の理論と實踐上の諸問題を説き、商業通信に就ては複雑した取引上の要件を一々例證して説明せり。
山崎 宗直編	銀行・信託及保險業務と現代商業英語	洋商菊 布入判	295	三、五〇 一八	式會善社株	月九	▲英國銀行業務、信託業務、對外銀行業務、米國銀行業務、能率書信論、他三項。
須藤 文吉	最新商業書簡文	洋商四六 布入判	446	二、〇〇 二二	誠文堂	月二十	▲その項目に適應した實例を示しその儘に活用出来るやう記述せるもので、通信販賣と書簡、商業書簡の諸條件外九章。
山崎 宗直編	現代商用及公用英作文選集	洋商菊 布入判	260	三、三〇 一八	式會善社株	月四	▲有効書信論、商用文實例、廣告文實例、公用文實例、領事館及商務官報告書、商用英作文練習問題集其他。
佐々木 道雄	商業數學 教材 第一分冊	並商菊 製判	215	一、七〇 二二	式會善社株	月九	▲利息より割引、確定年金の價格、年金の支拂、年賦償還、償還準備金の各方面に互り一切の計算公式を掲ぐ。
塚本 文治	近世商業算術	上四六 製判	155	七〇 四	松邑三松堂	月二十	▲四則簡便法、度量衡、外國貨幣、外國爲替、期間及期日、賣買損益、賣買費用、金融計算、投資計算、賦金計算其他。
佐々木 道雄編	複利・年金及賦金表	並商菊 製判	159	一、三〇 一八	式會善社株	月二	▲複利算及年金算に必要な九種の表、債券價格表、對數表を一冊に集めたもの。
三邊 金藏	會計學	洋商菊 布入判	489	三、五〇 一八	式會善社株	月五	▲全篇十三章各節十九、附録五項に分ち斯時宜的な會計學。最近の新説をも取り入れた。
ホツキンゼイ著	會計學原論	洋商菊 布入判	455	三、〇〇 一八	全日本會計士協會	月一	▲實際的の見地より極めて簡易に會計學を説述せるもので、會計學の意義及び職能外三十三章。附録計理士法外二章。
川添 貞彦譯	商業會計研究	洋商四六 布入判	142	八〇 二二	森山書店	月九	▲商業會計上の重要問題を平易に論述せるもので、損益に關する問題、評價に關する問題外三章。

倉本長治	村上計二郎	大塚政晟	商店界編	清水正己	郡山幸男	朝日新聞社編	水田健之輔	室田久良三	山名文夫
店員の訓練と待遇	店員讀本	販賣商路と廣告	廣告圖案文案集	廣告ピラと商店廣告	廣告印刷物の知識	國際廣告寫真展選集	街頭廣告の新研究	洋品帽子店の廣告圖案集	カフェバー喫茶店廣告圖案集
洋四六判 布入判	並四六判 製	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	並四六判 製	洋四六判 布入判	判四六倍 上製	上四六判 製入判	並四六判 製入判	並四六判 製入判
469	356	386	388	70	383	171	274	50	50
二、〇〇	一、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、五〇	一、五〇	一、五〇
誠文堂	第一出版社	誠文堂	誠文堂	三省堂	誠文堂	朝日新聞社	アトリエ社	誠文堂	誠文堂
月九	月二十	月五	月六	月一十	月五	月五	月六	月七	月七
▲店員養成と待遇、百貨店々員教育、小売店員外廿五項。	▲店員養成と待遇、百貨店々員教育、小売店員外廿五項。	▲米國商人の實際行つて賣上を増進した實例や其妙案二百八十九題及び小賣店の廣告法を説明せるもの。	▲利用範圍多き廣告圖案及び文案を收めたもので、小賣店の廣告、チラシ廣告の要領、開店の廣告文案外十五章。	▲廣告ピラと商店廣告に就いて商人の心得ふべき點を簡單に説明す。	▲廣告印刷物に就て詳述せるもので、印刷術及び其利用、廣告印刷物の製作の二篇、附録諸印刷術の圖解的説明外二篇。	▲朝日新聞社の懸賞募集に成る國際廣告寫真展の作品入賞十三點、佳作二十點、外入選作品を收む。附廣告寫真を談る。一八篇。	▲街頭廣告とは如何なるものか又如何にあらしむるかを説いたもので、目的形態及意義、前面廣告外十章。	▲洋品店帽子店の廣告圖案集で、開店賣出しニツ折チラシと案内状、賣出し廣告塔の設計實用カット集外四十三圖。	▲開店賣出しチラシ案内状、サブキンとメニュー、店頭スタンド設計、新考案のチラシ二種カッタ外四十五圖。

倉本長治	清水正三	松波正明	倉本長治	中村第三	清水正己	鈴木貞一	松波正之	栗屋義純	室田久良三
百貨店百景	不景の商賣の研究と金儲策	小賣商の危機と對策	小店員に聞かせる話	販賣革命	販賣術とサーピス	最も要領を得た販賣術	すぐ役立つ月賦販賣法	近代店舗と陳列術	店舗設計と店頭裝飾
並三五判	並四六判	並四六判	洋四六判 布入判	並四六判 製	洋四六判 布入判	並四六判 製	上四六判 製	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判
104	338	150	361	229	427	96	212	308	422
一〇	九〇	九〇	一、五〇	一、二〇	二、〇〇	五〇	一、二〇	二、三〇	二、〇〇
誠文堂	昭文館	杉本書店	誠文堂	千倉書房	誠文堂	メント社	萬里閣	青山堂	誠文堂
月九	月七	月五	月五	月九	月六	月八	月九	月二十	月六
▲今の日本の百貨店とはどんなものかを平易に説いたもので、百貨店行進曲、百貨店きのふ今日外七章。	▲業務の運び方、店舗の構造、開業の時期、買法、廣告の心得、デパートメントストアの一般外七章。	▲小賣商の難局打開策を説述せるもので、小賣商の發達の狀態、小賣商の使命、チェーンストアの話を外七章。	▲小売店員の常識教育の便法として商賣人の知つて置かねばならない事項を説明したもの、何故商賣をすればならないか外百七十八話。	▲分配問題即ち販賣革命に就て論述せるもの、生産組織の變遷、消費者側に於ける心理の革命外七章。	▲商店經營にとつて最も肝心なサーピス及販賣術に就いて説いたもので、カウンタ販賣術外二篇附録販賣員奉仕心得の實際。	▲店員として知らねばならぬ事柄を組織的に説明せるもので、店舗、顧客、商品、店員、販賣心理外五篇。	▲割賦販賣と商品との關係、月賦信用と其方法、月賦販賣の範圍、分割拂信用制度と消費經濟信用制度外十四章。	▲原理の平明なる解説と適用法に重きを置き説けるもので、店前、店内の二編。	▲商店建築の細部に涉つての設計及び近來益研究され出してきた商店の陳列窓に就いての店舗設計、店頭裝飾の二部。

(5-1)

工業 (工業・工学一般)

著者	書名	形態	頁数	定価	送料	発行所	発行月	内容大意
石山賢吉	工場見學旅行	並製	230	五〇	四	モダンド社	七月	▲真日本四日の旅、石油見學、名古屋の一日
神田孝一	實踐工業經濟學講	洋布判	288	二〇〇	一	大日本圖書株式會社	七月	▲日本の工業に共通せる生産的本質を吟味せるもの、工業の生産、工業の發展、工業の組織外四講。
林 癸未夫	工業經濟概論	洋布判	214	二〇〇	一	巖松堂	二月二十	▲工業の形態、工業の立體、工業の計畫及實施、工業の結合外三篇。工業の計畫及實施、工業の結合外三篇。
川西正鑑	工業經濟學概要	洋布判	196	一五〇	一	丁酉出版社	二月	▲工業企業主に於ける經濟、勞務方面に於ける獎勵及統制外三篇。
吉野信次	我國工業の合理化	並製	302	一〇〇	一	日本評論社	十一月	▲歐洲大戰の我が國近代工業の發展、産業合
工政會編	日本工業大觀	洋布判	1239	六〇〇	二	工政會	十一月	▲我國現代の工業界を代表する權威二百六十部に於ける論文集、二百二十三篇を土

工業

工業・工学一般

五五七

自動車飛行機の書籍は何もあ

皇著 最新知識 圖解本位	一般自動車講義	定価 5.00 送料 27
同 最新知識 圖解本位	自動車點火電氣裝置講義	3.80 27
同 最新知識 圖解本位	フォード車取扱講義	2.50 18
同 最新知識 圖解本位	新型シボレー自動車圖解	2.30 18
同 最新知識 圖解本位	最新フォード自動車圖解	2.30 18
同 最新知識 圖解本位	シボレー自動車の知識	1.50 18
同 最新知識 圖解本位	フォード自動車の知識	1.50 18
同 最新知識 圖解本位	實用自動車詳解	2.30 18
同 最新知識 圖解本位	自動車試験問答全集	2.00 16
同 最新知識 圖解本位	全國標準問題と答案の書方	1.70 16
同 最新知識 圖解本位	カード式勉強法	.90 6
同 最新知識 圖解本位	自動車試験問答全集	1.80 16
同 最新知識 圖解本位	オートバイの實際知識	3.00 18
同 最新知識 圖解本位	最新オートバイ全書	2.50 18
同 最新知識 圖解本位	最新自動車用語解説	.80 4
同 最新知識 圖解本位	最新自動車操縦法	1.00 4
同 最新知識 圖解本位	實地試験の受方と其練習法	.40 4
同 最新知識 圖解本位	自動車の取締標準	.60 4
同 最新知識 圖解本位	法規試験問題の解答	.30 2
同 最新知識 圖解本位	自動車取締法規集	.35 4

どうか皆様の書籍店として
多少に拘らず是非御用命を賜りたく存じます

(カタログ)
無代進呈

東京市芝区三田通り一ノ二番 德文堂書店 電話 高輪 7 1 2 9 番

五五六

佐藤 富治	鐵道圖書局	英和工學辭典	故廣井工學博士 紀念事業會編
最新工場管理學	英和工學術語辭典 片假名發音附	英和工學辭典	
洋函菊 布入判	洋函三六 布入判	洋函三六 布入判	洋函三六 布入判
264	406	460	
二、三〇 一八	一、八〇 一八	二、五〇 一八	
工人社	鐵道圖書局	式丸會善社株	
月六	月五	月十	
▲將來管理者たらんもの、爲に工場管理の如何なるものなるかを論述せるもので、産業史工場組織外五篇。	▲工學に關する術語は悉く之を網羅し、譯語の正確論を極め術語、譯語の根本的統一を計り活きた術語を徹底化す。	▲收載二・五千語時代の進運に伴つて増加せる新術語は洩れなく之を採擇せるもの。	改訂版

土木・建築

相澤 時正	長崎 敏音	長崎 敏音	渡邊 貫	新島 武三郎	中村 猪市
最近土木工々事	土木工學便覽	土木工學便覽	土木地質學	土木工學設計早わかり	森林工學
洋函菊 布入判	革函菊 裝入珍	革函菊 裝入珍	洋函菊 布入判	洋函四六 布入判	洋函菊 布入判
329	1309	1531	301	229	512
三、八〇 一八	三、八〇 一〇	四、三〇 一〇	三、〇〇 一〇	特、二、三〇 一、七〇	五、五〇 一八
太陽堂	工業雜誌社	大倉書店	大倉書店	鐵道圖書局	成美堂
月二十	月十一	月二十	月六	月六	月九
▲最近土木工々事の方法を各方面に涉り新しき法、道路土工外十五章。	▲土木地質學の將來、土質科學、切取の安定、基礎の地盤、堰水工の基礎、泥炭地の基礎、土工外三章。	▲測量法、流速及流量、製圖法、工業數學、料強弱外二篇。	▲下巻は第十編地震から始まり、都市計畫、道路、隧道、鐵道河工外十二編。	▲日常最も煩繁に遭遇する工事設計豫算の作製方を一工事に毎に計算を遂げて作製せる計算表を收めたもので、土工外八章。	▲主として土木工學に關する事項に就て述べたもので、工學材料、構造力學、工事及び其施行法外四篇。

岡村 淳	山名 晃	新島 武三郎	岡村 淳	川越 温	菊地 嘉美	近藤 泰夫	森 慶三郎	横山 辰次郎	中村 猪市
詳土木工學施行法	圖工學設計實用便覽	隧道工學設計實用	鐵道信號聯動裝置	鐵道線路と建造物	近世道路工學理論及實際的 設計並施工	土木英語讀本	森橋梁工學	最新隧道工學	混凝土道路編
洋函四六 布入判	洋函四六 布入判	洋函四六 布入判	洋函四六 布入判	洋函四六 布入判	洋函四六 布入判	洋函四六 布入判	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判
413	565	77	143	354	413	110	490	300	260
二、七〇 一八	三、五〇 一八	四、〇〇 一〇	一、〇〇 一六	一、八〇 一八	三、六〇 二七	一、〇〇 一四	五、〇〇 一八	三、五〇 一八	二、六〇 一八
鐵道圖書局	鐵道圖書局	鐵道圖書局	鐵道圖書局	鐵道圖書局	鐵道圖書局	澁屋書店	鈴木書店	澁屋書店	澁屋書店
月六	月五	月八	月四	月二十	月十	月五	月八	月九	月九
▲土木工學の行法に就き技術家渴望の事項は悉く網羅し著者の尊き體験と最新の學理とを以て具體的實行に關する事項は悉く網羅し透徹せる學理と尊き體験とにより具體的實行を以て詳説せるもの。	▲人家稠密道路あり掘井戸あり、下水あり而して冠層薄き中里隧道の設計及施行順序諸費用等細大洩さず蒐録す。	▲列車運轉保安上必要な信號と聯動裝置に就き詳説せるもので、轉轍器及轍叉、鐵道信號聯動裝置及轉轍器雙動裝置其他。	▲鐵道線路並に建造物の造り方より其構造に至るまで圖解を以て實地に間に合ふよう詳説せられたもの。	▲近代的道路工に關し工事の設計、施工並工事用器具機械に至るまで實例を以て詳説したるもの。	▲土木專門語、技術語を教ふる目的のための工業學校用英語讀本である。	▲總ゆる橋梁に關して其の應力計算の方法を計算法、或は圖式法によりて續々説述す。九ポイント横組挿圖三一五個。	▲最新の隧道工事の施工法其の他を説明す。	▲近世道路の尖端を行く混凝土道路について設計法及び構造法を詳説す。	

工業 (土木・建築)

河村協	佐藤廉平	森慶三郎	森慶三郎	宮本武之輔	中村猪市	内村三郎	小川敬次郎	瓜生康一	田中正義
道路橋設計實用表	橋梁鋼筋混凝土桁橋の設計	鐵筋混凝土橋梁及び樞構	鐵筋混凝土の理論と實際	鐵筋混凝土の理論と實際	混凝土工の新知識	訂改鐵筋混凝土	混凝土及鐵筋混凝土理論應用	鐵筋コンクリート計算法	現代土木建築材料學
上四六判	洋菊判	洋菊判	洋菊判	並菊判	布菊判	上菊判	洋菊判	洋菊判	並判四六製入倍
190	170	325	500	101	203	940	370	329	215
一、五〇	二、五〇	三、八〇	五、〇〇	八、〇〇	二、〇〇	五、五〇	六、五〇	二、五〇	三、八〇
淀屋書店	淀屋書店	太陽堂	淀屋書店	工人社	帝國工業	良書普及會	正興社	二松堂	岩波書店
月六	月六	月二十	月九	月四	月二	月十	月十	月九	月七
▲道路橋設計上必要な諸表を収録す。	▲鐵筋混凝土單桁橋連續桁橋の設計に算法を説明したるものである。	▲桁及び支柱設計の公式及圖表其他普通鐵筋混凝土構造の一般理論に就て述べたもので、鐵筋混凝土橋梁外一章。	▲土木建築としての鐵筋混凝土の理論と實際問題について詳細説明せるもの。	▲道路工事を中心として混凝土の材料及び施工に關する設計外六章。	▲材料篇(良質なる混凝土の要件、配合比外四章)附録(施工篇(練り方と運搬、工費外十一)章)附録(輕量混凝土外七章)。	▲最新の鐵筋混凝土工學殊に構造工學上算式に於て抗壓強度の實際的效果を精細にし、メトリル法に依れる爲め、吹封度をも併記。	▲混凝土及鐵筋混凝土構造物の安定理論並に其の設計計算の概要を示せるもので、構造物の安定論外十六章。	▲計算の基本、鐵筋の計算、中軸及二次率、地下室の計算外一章。基礎工擁壁構計及地下室の計算外一章。	▲建築及土木工事に材料として使用されてゐる石材、粘土製品、硝子に就いて説いたもの。附録(石材規格、粘土製品規格)。

工業 (土木・建築)

堀口甚吉	狩野春一	永井彰一郎	鷹部屋福平	鷹部屋福平	小野薫	野坂相達	堀口甚吉	大藤高彦	近藤泰夫	山口昇
建築材料學	建築材料	セメント概論	建築架橋モジュール	建築架橋モジュール	架橋力學	土木構造力學	建築構造力學	構造強弱學	構造強弱學	應用力學ポケットブック
洋菊判	洋菊判	洋菊判	洋菊判	洋菊判	洋菊判	布信判	洋菊判	洋菊判	洋菊判	洋菊判
328	735	506	447	323	318	384	710	598	250	250
一、八〇	六、五〇	四、五〇	五、五〇	四、五〇	三、八〇	三、八〇	四、一〇	八、五〇	二、三〇	二、三〇
中央工學會	太陽堂	式會善社株	裳華房	裳華房	裳華房	工業雜誌社	中央工學會	式會善社株	鐵道時報局	鐵道時報局
月二十	月十	月一	月六	月六	月三	月九	月四	月五	月一十	月一十
▲建築土木材料に就ての一般知識を説いたもので、木材、粘土製品、塗料及パテ雜種材料外七章及附録。	▲實験を基とせる圖表を多數挿入して説明せるもので、木材、竹材、石材、粘土及び建築窯製品外四章。	▲建築土木工業の立場から、多種多様のセメント自體の本質を最も正當に合理的の應用法を教ふ。	▲著者提案の機械的作表法に依つて約三百種の架構を解いた其計算結果を収めたもので、圖譜の用ひ外三章。	▲第二卷は架橋左側の剛節點に集中する水平荷重に對するモジュール圖譜と計算法を述べたもので、圖譜の用ひ外三章。	▲建築物構造の本體たる架橋の計算設計に關する理論を明らかにしこれが應用を説いたもので、定點法外四篇。	▲構造強弱篇の結構、土壓、樹壁、石堰、石拱、鐵筋混凝土の各章に就て平易に解説せられたるもの。	▲本書の目的は材料強弱及び構造強弱に關する、しつかりした觀念を與へるにある。	▲抗剪強度、弾性體に於ける應力-桁に關する理論-例題及問題集。	▲靜力學の原理、圓式力學、材料の力學的性質、直應力、桁、長柱、樞構、曲桁、勢力式による解法平板其他。	

工業 (土木・建築)

帝國馬匹協會編	保岡勝也	洪洋社編	洪洋社編	洪洋社編	須野忠雄	主婦之友社編	黒木高節	佐藤巳之吉	洪洋社編
役馬共同厩舎設計圖集	數寄屋建築	瀟洒なる建築	和風住宅の室内構成	石燈籠集	趣味のバテオ	主婦之友實用百種設計	新日本家具設計及室内裝備品	和洋建具圖案と附屬金具	建築寫真類聚第七期(6)
四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	三六判	四六判	四六判	四六判
80頁	123頁	50頁	50頁	48頁	72頁	93頁	158頁	57頁	48頁
四三〇	一三〇	一一〇	一一〇	一一〇	一八〇	六〇	一九〇	一八〇	一一〇
洪洋社	洪洋社	洪洋社	洪洋社	洪洋社	洪洋社	主婦之友社	中央工學會	中央工學會	洪洋社
月五	月九	月二十	月九	月七	月八	月六	月十	月十	月三
▲帝國馬匹協會の懸賞募集にかゝる役馬共同厩舎新築設計圖案中入選圖案を収めて説明せるもの。	▲數寄屋の意義、數寄屋の變遷、自然的の環境、數寄屋の形式、歴史的に著名な數寄屋外二章、挿繪七十圖。	▲古來多く狹斜の巷に發達した所謂瀟洒な建物の寫眞集で、妓亭新壽、料亭濱作、待合長谷川外四十七葉。	▲和風住宅室内構成の端正美を現つた圖集で、最近の主流たる和風を主とした折衷的室内構成の形式への資料。	▲柚の木形石燈籠、東大寺八幡形石燈籠、朝鮮燈籠、奈良十輪院十三重塔摸、水法師形石燈籠外四十三圖。	▲風流と實用とを縦横にした日本式バテオに要外一節。圖版六十二圖。	▲家を実際に建てた場合にこれに調和する門安關床の間押入等の設計材料工費等を詳説せるもの。	▲家具の設計製作並に室内裝備品に關して論述せるもので、新日本家具、人を支持する家具、物を支持する家具外三篇。	▲換手掛十五種、玄關の扉と欄間、食堂とベランダとの仕切建具、現代のレストラント向の建具外五十三圖。	▲化粧室入口硝子戸、二階廊下硝子戸、子供室窓障子、大廣間障子、廊下開き戸其他建具圖四十五圖。

工業 (電氣)

帝國工藝會編	洪洋社編	木檜想一	築島棟吉	家具工藝研究會編	中西由造	中村達太郎	櫻井省吾	加藤正雄
近代生活の家と家具と裝飾	新らしき時代の家具	近代の事務家具	家具製作圖解	西洋机と卓子圖集	左官の知識及彫刻手引	換氣暖房の計算必携	臺所の設計と設備	新實際電氣工學
四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	三六判	四六判	四六判
62頁	20頁	184頁	50頁	30頁	202頁	262頁	70頁	586頁
二〇	一〇〇	四、五〇	二、五〇	一、五〇	一、八〇	一、七〇	二〇	三、五〇
三省堂	洪洋社	博文館	洪洋社	日學本會	吉田工務部	丸善社	三省堂	太陽堂
月二	月十	月九	月二十	月十	月十	月三	月一十	月一十
▲斜めのナンバーを應用した木の椅子、基本型の組合せによる家具、パリのカフェエの連続生産による椅子外十七圖。	▲是からの家具工藝就中事務用家具工業の進むべき途に就て論述せるもので、机と椅子、椅子と腰掛外四篇。圖版百十六圖。	▲正面平面断面圖等を描き寸法を明示し、且一々木材各部の切組をも圖解したもの。	▲新時代の新形式家具の中、机と卓子のみを集輯せるもの。	▲壁材料、壁材料表及工具の種類、鐵網混凝土壁、外壁、表面仕上、石膏壁及石膏工事施行法外十六章。附録標準價格表其他。	▲單位及換算表、熱、水、空氣、空氣の汚染、快感空氣、換氣法の概念、熱量の損失、冷房及び暖房の概念外五章。	▲臺所の設計と、その設備を説いた小冊子。	▲公式や計算を抜きにして誰が讀んでも分るやう説述せるもので、電氣の概念、磁氣と電氣の關係外十七章。	

三田民雄譯	アブラハム著 フエツブル業譯	松岡唯次	電氣教育研究會編	和島藤助	河合賢次	小林秀雄	東條喜一	福澤清之助	野澤瀧之助	關重廣
地絡及消弧リアクトル	ヴェクトル解析論	變壓器概論	配電法	自働電壓調整器	電氣鐵道の實際と計算	電氣機械及器具	電氣機械試驗法	三種電氣機械問題 考へ方解き方	電燈と照明	
洋函菊 布入判	並菊 製判	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	並菊 製判	布信四 裝判六	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	並四六 製判	並菊 製判	並菊 製判
152	103	263	231	32	314	348	268	246	80	
一、五〇 二二	一、〇〇 六	三、〇〇 一八	一、六〇 二二	三、五 二	三、〇〇 一八	三、二〇 二	一、八〇 二二	一、五〇 六	八〇 四	
コロナ社	コロナ社	パワー社	電氣學會	實用工學社	工業雜誌社	工人社	電氣學會	厚生閣	工人社	
月一十	月五	月二	月六	月九	月二十	月一十	月四	月九	月一	
▲接地線輪に依る地絡電流の抑壓及地絡弧光等の防止、地絡及其防止、接地線輪の電路上昇等三篇を譯述せるもの。	▲ヴェクトルの代数的演算より設き始め其の一般解析を詳述せるもので、流體力學的の表はし方外二十四項。	▲下巻は變壓器の構造、變壓器の試験法、變壓器の取扱法、變壓器の應用、計器用變成器外三篇を收む。	▲架空配電線路、木柱建設法、配電線路設計、電線地度と電柱強度、支線並に施行法、屋内布線外十五章。	▲發電機及び進相機の運轉上缺くべからざる重要器具自働電壓調整器に就て説述せるもので、日立調整器其他。	▲電氣鐵道を設計せんとするに際しての必要事項を記述されたもの。	▲電氣の一般的性質と其の工學的應用に就て述べたもので、電氣機械、電池及蓄電池、電燈及照明外一篇。	▲電氣機械器具の試験法を記述せるもので、試験用装置、抵抗測定、溫度測定法、返還法誘導電動機試験法外十一章。	▲選試三種受驗者の最も難關とされてある電氣機械の問題に就てその考へ方と解き方を述べたもので、變壓器外三篇。	▲實際の照明應用問題について詳述せるもの、屋内照明の要領外九章。	

廣田精一	日本ラヂオ協會	山下仙之助	坂駒雄	小笠原佑一	木塚大吉	本多三雄	淺川權八	藤村義樹
廣田精一文抄	標準ラヂオ辭典	機械部分の設計	機械設計法	金屬材料	實際鋼の焼入法	工業力學	近代機械講話	
上西菊 製入判	洋函三五 布入判	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	洋函四 布入判	洋函菊 布入判
285	302	171	272	307	187	254	320	306
二、〇〇 二二	一、〇〇 四	二、〇〇 一八	二、四〇 一八	二、七〇 一八	二、〇〇 一八	二、三〇 一八	四、五〇 一八	二、五〇 二四
オーム社	日本ラヂオ協會	パワー社	工人社	工人社	工業學會本	工人社	淺川家	修教社
月九	月二十	月五	月四	月四	月九	月一	月十	月一
▲著者の發表せる論策小品等の中から百十餘篇を選輯したもの。	▲ラヂオ界に使用せる術語統一のため原語(英)並に譯語及びシムボルを紹介し其意義を簡易に説明す。日本語索引付。	▲メートル法で書かれた機械設計書で、材料強弱學提、縦栓と横栓、螺旋、調整と網と鎖、はづみ車外八章、索引。	▲材料、鉄及び鋳接、ネジボルト及ナット、及び鎖車外十一章にて説述。	▲最近の金屬材料全般に亘り其の製法、處理法、性質、用途其他に就き平易に説述せるもので、金屬材料の通有性外十五章。	▲機械製作上に於て最も重要事項たる壓の熱處理法に就て論述せるもので、鋼及び鉄鐵外十五章。附黒鉛坩堝の表其他。	▲力學の部(運動學及力、靜力學、動力學)、應用力學の部(材料力學)の二部四篇よりなる研究。	▲内燃機關に關する理論と構造とを説けるもので、部分解説、瓦斯機關、石油機關、ディゼル機關外一篇。附小型石油機關設計其他。	▲各種機械の沿革發達、發明の動機、銘記すべき逸話物語り各種機械の構造とその原理諸外國の新知識の紹介等々。

工業 (自動車・船舶)

佐瀬昌三	山口安之助	相羽有	福島柳太郎	樋口文太郎	築瀬幸三郎	奥泉欽次郎	松本明吉	橋本精	稻垣泰一
自動車運轉手と過失犯	模範自動車試験問答集	自動車取締令及細則講義	自動車関係者大鑑	東京自動車便覧	最新自動車操縦法	最新シボレー自動車圖解	最新自動車の詳解講義	標準自動車教科書	自動車の構造
洋菊布入判	布三六判	並菊判	並菊判	洋三五判	洋菊半布入判	洋四六判	洋菊布入判	洋菊布入判	布菊裝入判
230	310	132	740	200	160	460	414	414	406
二、八〇 一八	一、五〇 八	五〇 四	三、五〇 二七	一、〇〇 六	一、〇〇 四	二、三〇 一八	三、〇〇 一八	三、〇〇 一八	三、〇〇 一八
海文堂	日本自動車 学校出版部	日本自動車 学校出版部	徳文堂	徳文堂	徳文堂	徳文堂	二松堂	新文進 堂社	清水書店
月二	月九	月十	月九	月七	月七	月九	月一十	月一十	月一十
▲一般的過失犯より説き起し、自動車事故に對する過失犯を大審院判決例を基調として説明したもの。	▲最近の警視廳各府縣試験問題四百餘を、模範添付したるもので、試験場詳細圖其他附録添付。	▲内務省、警視廳の自動車取締規則と道路、交通の兩規則等。自動車税金表、料金表、最近法規試験問題等。	▲全日本の自動車関係官省係氏名並自動車業、製造業、販賣業、修繕業、團體、協會其他關係者一切約三萬五千の名簿。	▲三十年式乗用貨物バス二百餘の仕様數歐米乗用車百餘の内外定價の比較中古車相場馬力早見ダイヤ寸法其他。	▲六氣筒新シボレー最新型全部の構造、機能、故障、修繕、運轉、取扱法を百五十餘の圖解を用ひ徹底的に説明せしもの。	▲運轉法の原則即ち基本操縦法の要領及基礎知識を素人にも解る様に五十餘の圖解を用ひ説明せしもの。	▲ガソリン自動車の高級なる原理を最も平易に解き機構並に其作用については多數の挿圖を用ひて解説せしもの。	▲全國各府縣保安課より郵送された自動車運轉手續試験問題を経緯として編纂せるもので、自動車操縦法外二篇。	▲最近の自動車としての實體圖を多く載せて電氣装置の四章。機實、動力傳導裝置、車架、電氣裝置の四章。

工業 (機械・冶金)

守屋逸男	岡島奈良蔵	遠藤彦造	宮城香五郎	歌原定二	宮城香五郎	勝田豊夫	竹澤正則	島谷敏郎
鉄鐵の性質及び鑄造法	可鍛鐵鑄物	鐵鋼の腐蝕と防錆の研究	水力の利用と水力タービン	水力學	水力学	工作機械の實際的検査法	消防機械學	船舶機關の効率
洋菊布判	布菊裝判	洋判四六倍	並四六判	洋菊布入判	洋菊布判	洋倍四布判六	洋菊布入判	洋菊布入判
272	242	580	79	346	228	52	285	312
二、五〇 二二	三、〇〇 二二	一三、〇〇 三六	二、二五 二	三、三〇 二四	二、三〇 一八	三、〇〇 一八	三、〇〇 一〇	三、二〇 二二
本溪湖煤鐵 有限公司	工業雜誌社	老鶴園	三省堂	オーム社	式會善社株	修教社	消防學會本	嵩山房
月二十	月四	月一	月五	月四	月三	月五	月三	月二
▲鉄鐵の性質及鑄造法に就ての通俗的理論と起原外十一章。附録試験法。	▲可鍛鐵鑄物とは如何なる性質のものなるや、如何なる方法にて製造するやを解説したるもの。	▲腐蝕の原理と其因子、腐蝕液の作用、鐵鋼材料に附隨せる因子、鐵の電氣化學、防錆法、鐵鋼の豫備智識。附録。	▲水力の利用と、水力タービンに就て簡單な説明をなせる小冊子。	▲水力学の根本原理を系統的に提示し、初步の知識で理解し得る重要な個所には多くの例題と解答及び問題を附したるもの。	▲水力学の反動力學、總論、噴水、切込み及び堰、流水の反動力學、總論、噴水、切込み及び堰、静水、静水力学、静水力学、静水力学、浮力、相對的靜止、動水力学、總論、噴水、切込み及び堰。	▲シユレーンゲル博士發明の各種工作機械に就いての最も簡便且完全な検査法。實際使用に便利な表多數。	▲水と距離、施設と裝置、消防と唧筒等一般消防機具の原理と運用に付て述ぶ。	▲船舶經濟に燃料節約に對する諸問題を仔細に研究し其効率増進の事實を如實に紹介せるもの。

工業 (化學工業・製造工業)

工學博士 龜山直人	工學士 小栗捨藏	東京帝國大學教授 厚木勝基	東京帝國大學教授 厚木勝基	工學博士 厚木勝基	工學博士 小林久平	工學博士 石井悦朗	清水正雄	工學博士 岡澤辰造	足立震太郎
電氣化學の理論及應用 <small>下巻一電解及電熱の應用</small>	無機化學工業	纖維素化學工業	バルブ及紙	クロモシリブ 人造絹絲と「セルロイド」	木材乾溜工業	瓦斯製造工業	塗料及塗裝法	近香料工業	精油及香油の話
洋菊布入判	洋菊布判	洋菊布判	洋菊布入判	並四六判	洋菊布入判	洋菊布入判	洋菊布入判	洋菊布入判	洋四六判
450	311	214	741	90	463	525	386	449	350
四、七〇 一八	三、二〇 一八	二、三〇 一八	六、八〇 二七	二、五 四	四、〇〇 一八	二、八〇 一八	三、五〇 一八	五、五〇 一八	二、〇〇 一八
式丸會善社株	共立社	共立社	式丸會善社株	三省堂	式丸會善社株	寶文館	大倉書店	太陽堂	春陽堂
月二	月五	月四	月二	月十	月七	月五	月十	月八	月三
▲電解曹達、鹽素酸カリウム、電解漂白液の如きアルカリ酸の電解、諸重金屬の精製、抽出、電鍍、外三項	▲無機化學工業中最も重要な事項を論述せるもの、水、氣體工業、硫黄及其化合物、曹達工業外五章、索引	▲纖維素化學(纖維素の酸化外八章)人造絹絲(人造絹絲の性質外五章)纖維素可塑物質(セルロイド外三章)バルブ及紙(漂白外八章)	▲紙業家が悩む當面問題を解き他方一般讀者へのバルブ及紙に關する科學的教導をなせるもので、纖維素原料外二篇	▲何れも纖維素を原料とし其の製造法及び性質に於ても幾多の共通點を有する人造絹絲とセルロイドに就て述べたもの	▲木材の性質及び成分、木材乾溜の現象と成酸、乾溜工業に於ける燃料、木材炭化裝置、醋酸及び其鹽類外十三篇	▲瓦斯の特性、熱化學、瓦斯製造用諸原料、炭、瓦斯の製造裝置外十八篇にて論述	▲塗料及其塗裝法に關する一般概念を主とし、記述せるもので、ペイント、塗裝用機械工具及雜品外十五章	▲現代重用せらるる香料に重きを置き所在製法其他を論述せるもので、總論(にほひ外十章)各論(含窒素化合物類外七章)	▲精油及び香油と其應用に關し平易に解釋せしものと、精油の主要成分外三章

工業 (圖學・測量)

工學士 關陽	工學士 桂井當之助	二高教授・理學士 神門久太郎	帝國工藝會編 澤口悟一述	海老原秀志	小野辰次郎	木村金太郎	
實用ノモグラフィ	圖表數學	高等平面圖學	漆と其工藝的應用	通ソース製造法	各種ソース製造法	罐詰及罐詰簡易製法	
洋四六判	洋菊布判	洋菊布入判	並四六判	並四六判	洋四六判	洋菊布判	
175	90	304	53	72	300	516	
一、七〇 一八	二、五〇 一八	三、五〇 一六	二、〇〇 一八	四、五〇 一八	一、八〇 一八	三、九〇 一八	
大倉書店	京ニヤ書店	式合資會社	三省堂	明文堂	明文堂	養賢堂	
月十	月一十	月六	月二	月四	月十	月九	
▲使用法の容易にして確實なノモグラフィを實際的に説述せるもので、簡易圖表、兩數尺圖表外一編	▲工料方面、物理學方面の圖表的方法の利用を容易ならしむるやう詳述す	▲製圖用器具材料使用法、製圖に關する注意事項、線及び角に關する例題三角形及び平角形に關する例題、圖の例題外數項	▲我國獨特の漆工藝に就て一般的に説いた小冊子	▲原料論、マヨネーズソース、種々のサラダドレッシング、即席ソース其他	▲原料論、ソース製造法、製進行程、製造法貯藏、結論、調味の要領、製品製造の貯藏、食品製造に關する取極規則、製品製造の概論、アイスクリーム工場の種類及位置の選定、アイスクリーム製造法、アイスクリームの販賣、ソーダフアウンテン	▲罐詰論、罐詰の要領、罐詰の製造法、罐詰の貯藏、罐詰の品質の保證、罐詰の製造法、罐詰の貯藏、罐詰の品質の保證、罐詰の製造法、罐詰の貯藏、罐詰の品質の保證	▲主として副業的及び家庭的に簡易に出來得るやう説いたもので、食物貯藏、罐詰及罐詰果物其他

工業 (圖學・測量)

新島 武三郎	竹下 富次郎
實地測量 附・道路と線路之設計	學び易く 用器畫法の精解 覚え易い 下巻―立體圖學
洋四 布六 入判	並 製 四六 判
366	191
二、八〇 一八	八五 六
鐵道圖書局	文進堂
月十	月六
▲機械器具の取扱に關し、あらゆる測量の方法及より 具體的實例以て詳説す。	▲立法及び製圖家の心得外三章。均等投象法、傾斜投 象法の三章。正寫投象法、均等投象法、傾斜投

五八〇

關西大學教授 武田鼎先生二大名著 最新學說

經濟學新論

刊新

菊判二百四十二頁
箱入美裝
金貳圓三十錢
定價十圓八錢

圖書目錄

社會經濟新原理

刊新

菊判四百五十頁
箱入美裝
金三圓八十錢
定價廿四錢

進呈

前者經濟學新論は經濟の一般原理論であり後者社會經濟新原理は特殊原理論である。共に著者が獨自の研究に成れるものであるが就中後者『社會經濟新原理』は全卷殆んどすべて著者の獨創説を以て滿されて居る稀に見る快著であるばかりでなく限界効用學説を根柢より打破して新たに平均價值説を樹て、以て世界の經濟學界に革命を惹き起さしめんとしつつある一大雄篇である。加之著者の抱懐する經濟哲學と經濟政策は我國現時の社會的不安を除き經濟界一般に光明を投ずるものである。根底ある眞の思想善導策は本書の説く所によつてのみ樹て得る。

一般經濟學徒は勿論苟も思想問題に關心を持つつ士は速かに本書を繙かれよ。

東京 牛込 早稲田 大田 學大 前番
敬文堂書店

松村彦五郎	白蟻の驅除豫防法	背函四六判 布入判	157	一、八〇 二、三〇	太陽堂	月一十	▲白蟻に關する一般問題を通俗的に解説し被害對應の策を究明せるもので、人類の生活と白蟻との關係外十章。
村瀬吉	農作物病蟲害防除要覽	洋函 袖珍判 布	200	一、〇〇 六	明文堂	月九	▲農用殺菌殺蟲劑、農作物病蟲害防除用具、主要毒藥解毒法外九項。
高橋獎	果樹害蟲各論	洋函 布入判	630	七、五〇 三六	明文堂	月七	▲梨、蘋果、櫻桃、枇杷、桃、梅、李、杏、引小梅、ユスラ、梅の害蟲、和名、學名、分科索引。
高橋獎	果樹害蟲各論	洋函 布入判	700	七、五〇 三六	明文堂	月八	▲櫻桃、柿、無花果、葡萄、柑橘、須具利及總須具利、木苺、胡桃、栗、柘榴、茶葉、棗の害蟲、和名、學名、分科索引。
鈴木穆	最新日本桑樹害蟲圖說	布函 裝入判	138	二、五〇 一八	丸山舎	月二十	▲本邦主要蠶業地に棲息する有害昆蟲一四九種に就き原色版圖を附して説けるもので、總論、各論外三章。
明文堂編	作物・園藝	並袖 製珍	114	二、五〇 三	明文堂	月六	▲緒論、種苗、種苗の検査、選種、整地、種子の處理、灌溉、播種、移植、管理、施肥、剪定、整枝、灌漑、患害の防除、收納。
三重高等農林學校教授 香月喜六	米	布函 裝入判	410	一、五〇 二	興文社	月一	▲米と人生、米と民俗、豐凶と世相、米の正說俗說、科學から見た米、米と食卓等六十六の章に亘り、隨筆的に述べたもの。
農林省農事試験場技師 農學士 二瓶貞一	實精米要説	洋函 布入判	342	三、五〇 一八	西行會原	月十	▲本邦米食史概要、本邦精米用具の沿革本邦古来の食米に關する一考察、精米副生物の用途外十三章。附録關貢米其他。
農學士 武田總七郎	水稻多收穫栽培指針	並四 製六判	116	六〇	明文堂	月六	▲多收穫栽培の要項、特殊栽培法、多收穫栽培法の粗立、多收穫栽培法と輪栽。

關根仁作郎	米麥大豆甘藷多收穫法	布函 四六判	317	一、〇〇 八	博文館	月二十	▲主要食糧たる米麥其他に就ての多收穫法を説いたもので、米之部、麥之部、大豆之部、甘藷之部外二編。附自給肥料製造法。
東吉次	趣味と家庭蔬菜園藝	布函 四六判	238	一、五〇 一〇	西行會原	月九	▲著者多年の經驗に基き家庭蔬菜園藝の秘法を平易に説述し、その凡ての栽培を網羅す。
安田貞雄	植物學的栽培學汎論	布函 裝入判	524	四、八〇 一八	養賢堂	月五	▲栽培に對する外的條件に力を注いで説述せるもので、栽培の理論及び方法、栽培學實驗法の二篇。索引。
有川ヒサエ	家庭園藝實習書	布函 裝入判	206	一、六〇 一三	養賢堂	月三	▲前後兩編に分ち、前編にて一般通論及び花卉蔬菜を述べ、後編にて果樹及び利用に關して説いたもの。
烏丸光大	園藝通	並四 製六判	168	七〇 六	四六書院	月九	▲園藝の發達、歐米園藝の日本趣味、切花目的の露地栽培、枝物とむし物、街頭で賣る花造花と生花外二十五項。
柴田良太郎	園藝植物繁殖法	洋函 四六判	162	一、三〇 八	春陽堂	月三	▲接木や挿木の原理及び技術上の諸點を平易に解説せるもので、果樹類と無性繁殖、接木の管理外七十二章。
石井勇義	原園藝植物圖譜	洋函 四六判	206	二、八〇 二二	誠文堂	月一十	▲第一卷は主として四月より八月に至る間に開花する西洋草花を圖説せるもの。附學名索引、和名索引。
青木信一	諸病藥用植物圖鑑	洋函 四六判	410	一、〇〇 二二	金龍堂	月五	▲七百餘種の藥用植物を全部圖入りにて、其形態及特性、花卉栽培の方法から、其藥効及製藥法まで、悉しく記したるもの。
西島榮峰	世界花言葉全集	洋函 四六判	735	三、八〇 一三	春陽堂	月二十	▲花言葉、各國の國華、花色と感情、月々の栽培法、生年月日による花曆集、分科對照表、栽培法一斑外一篇。
野崎信夫	趣味の小園藝	並三 製五判	139	四、五〇 四	博文館	月十	▲誰にも出来るちよつとした小規模な園藝の類を輯めたもので、盆栽類、鉢物と草花、雜類の三篇。

(5-6)

安達正博	花弁花木土に親しむ手引 果樹蔬菜	洋四六判 布入判	464	二、三〇 二、三〇	二松堂	月九	▲植物の栽培法を平易に説いたもので、植物と其の通有性、苗から花までの大要、病虫害と其手當其他。
宮島晨吉	誰にも床庭の作り方 果實蔬菜の貯藏法 及果實早出し法	洋四六判 布入判	99	一、三〇 二、三〇	二松堂	月五	▲日本庭園根本趣向、眞の平庭に就いて、行の平庭を作る心得、補垣の名稱と其の作り方、床庭の作り方外八章。
田口敏夫	果實蔬菜の貯藏法 及果實早出し法	洋四六判 布入判	116	一、〇〇 八	二松堂	月十	▲果實蔬菜の貯藏法及び果實の早出し法に就いて述べたもので、反省熟慮、貯藏原理、貯藏法、貯藏法外二章。
岡田東作	櫻桃(マハレ)の作り方	上四六判 製入判	169	一、五〇 二	資文堂	月三	▲櫻桃の起源、櫻桃の形態用途及び性状、氣味及び土質地勢、繁殖法、樹形及び剪定、櫻桃の害虫外十一章。
石井克雨	最新花卉園藝	洋四六判 布入判	250	一、〇〇 二	博文館	月四	▲季節的に花卉の種類を配列し、實際に役立つやうに述べたもので、花卉園藝、春播草花類、秋植草花類外十四篇。
石井勇義	西洋草花の作り方	洋四六判 布入判	258	一、三〇 二	誠文堂	月四	▲趣味の草花栽培、フレイムの造り方と取扱方、睡蓮の造り方外五十章。
石井勇義	美しい花壇の作り方	洋四六判 布入判	240	一、五〇 二	誠文堂	月一	▲花壇園藝、造り方による花壇の種類、適當な場所の選び方、簡単な芝生の造り方、花壇の十二ヶ月外十三章。 改訂版
石井勇義	温室草花の作り方	洋四六判 布入判	271	特一、五〇 二〇	誠文堂	月六	▲普通この温室でも作られしかも園藝植物として面白味のあるものに就いて述べたもので、温室園藝の趣味外四十三章。
蘆屋樹二	趣味の花作り	洋四六判 布入判	179	一、〇〇 二	黎明社	月九	▲花の作り方の一般的方法をだれもが出来るやうに説いたもので、種子の蒔き方、花を早く開かせる方法外十八篇。
浅川英一	草花のフレイム園藝	上四六判 製入判	265	一、五〇 二	資文堂	月十	▲家庭の趣味として効果があり一方副業として最も生産的有利な草花のフレイム栽培について述べたもの。

(5-7)

岩田豊三	草花球根類の作り方	上菊半裁 製	118	五〇 四	資文堂	月十	▲球根植物に就いての總論をなし次にチウリツプ、ヒヤシンス、百合類、ダイリヤ、睡蓮其他の作り方を説く。
拓植六郎	わかり易い球根栽培	並四六判 製	95	一、〇〇 四	成美堂	月九	▲栽培法を述べたもので、水仙、ヒヤシンス、フリイジア其他。
東京重陽會	菊の栽培十二ヶ月	洋四六判 布入判	339	二、五〇 二	太陽堂	月十	▲東京重陽會の會員諸氏が多年の實際を經てして菊の栽培に就いて説述せるもので、菊の歴史、培養土の調製外十七章。
石井勇義	菊の栽培法	並三五判 製	128	一〇 二	誠文堂	月九	▲菊の實際栽培に就いての要點を述べたもので、趣味の菊栽培、菊花の種類、菊の用土と肥料菊の繁殖外七章。
丸山雄二	菊の栽培法	並四六判 製	147	七〇 八	四六書院	月六	▲古來長く愛好珍重せられ園藝的に異常な發達を遂げてゐる菊に就いて述べたもので、菊花の構造外二十五章。
多田與三郎	大輪菊と朝顔栽培法	上四六判 製	127	一、三〇 六	春陽堂	月一十	▲大輪菊と朝顔に就いての栽培法を説いたもので、蕾の選定、實生に就いて、菊花切花水揚法で、蕾の選定、實生に就いて、菊花切花水揚法
橋本一朗	朝顔の栽培	上四六判 製入判	120	一、二〇 二	資文堂	月四	▲昔から最もよく知られ愛玩せられてゐる朝顔の栽培方法を説いたもので、朝顔の形態、朝顔の作り方外六章。
今井喜孝	朝顔の話	並四六判 製	100	三〇 二	三省堂	月一十	▲朝顔の種類や栽培法に就いて簡単に述べた小冊子。
森口潔	ゼラニウムと仙手掌	上菊半裁 製	125	五〇 四	資文堂	月十	▲ゼラニウム及び仙手掌の品種、培養上の諸注意を説述せるもの。
石井勇義	カーネーションの作り方	洋四六判 布入判	298	一、五〇 二〇	誠文堂	月六	▲カーネーション及びスキートビーに就いて實際栽培本位の知識を説いたもので、カーネーションの種類其他。

